

- 認メタルトキハ當該部課長又ハ所屬長ニ申告スルコト
- 三 火氣及流水ニ注意スルコト
- 四 廳内又ハ構内ニ於テ當廳ノ許可ナクシテ物品ヲ販賣シ又ハ展示スル者アルトキハ速ニ之ヲ退去セシムルコト
- 五 廳員又ハ來廳人ニシテ公務ヲ妨ケ風紀ヲ害シ其ノ他成規ニ背ク行爲アリト認ムルトキハ懇切ニ諭示シ若シ之ニ従ハサルトキハ當該部課長又ハ所屬長ニ申告シ其ノ指揮ヲ待ツコト
- 六 廳舍附近ニ火災其ノ他異狀アルトキハ直ニ之ヲ所屬長又ハ宿直員ニ通告シ適當ノ措置ヲ爲スコト
- 電氣局守衛ニ在リテハ前項ノ外職員證ノ監視及參勤表ノ檢察ヲ爲スヘシ
- 第九條 守衛ハ廳内並構内ノ取締ヲ爲ス傍ラ來賓ノ取次ヲ爲シ其ノ他總テ來廳人ニ對シ便宜ヲ與フルコトニ努ムヘシ
- 第十條 守衛ハ鎖鑰ヲ保管シ室ノ開閉ヲ掌ル
- 各部課室内取締擔當者ヨリ退出ノ通知アリタルトキハ直ニ之ニ立會ヒ異常ナキヲ認メタル後嚴重ニ戸締ヲ爲シ其ノ鎖鑰ハ之ヲ宿直員ニ引繼クヘシ
- 第十一條 守衛ハ日誌ヲ作製シ各部課退出時刻、事故ノ有無、來賓ノ氏名其ノ他參考ニ資スヘキ事項ヲ記載シ翌日所屬長ニ提出スヘシ
- 第十二條 本規程ニ定ムルモノノ外守衛ノ勤務ニ關シ必要ナル事項ハ所屬長之ヲ定ム

附則 明治三十三年廳達第一〇號廳中巡視職務規程ハ之ヲ廢止ス

### ● 守衛長及同副長設置ノ件

- 制 定 昭七、二、八達電六
- 守衛長及同副長設置ノ件左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 守衛長及同副長設置ノ件
- 一 庶務課人事係ニ守衛長一名並同副長若干名ヲ置ク
  - 二 守衛長及同副長ハ守衛中適當ト認ムル者ヲ選ヒ局長之ヲ命ス
  - 三 守衛長ハ上司ノ命ヲ承ケ守衛ヲ指揮監督シ局内取締ニ關スル事項ヲ擔任シ其ノ責ニ任ス
  - 四 守衛副長ハ守衛長ヲ補佐シ守衛長事故アルトキ之ヲ代理ス

### ● 電話交換手勤務規程

- 制 定 昭九、四、九達電一
- 最近改正 昭一一、三 達四五
- 電話交換手勤務規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 電話交換手勤務規程
- 第一條 本市電話交換ノ事務ニ従事スル者(以下交換手ト稱ス)ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ
  - 第二條 交換手ハ本廳ニ在リテハ經理部長、其ノ他ニ在リテハ各局、部、廳、區長(以下所屬長ト稱ス)ノ監督ヲ承ク
  - 第三條 所屬長ハ交換手中ヨリ交換手監督ヲ任命スルコトヲ得
  - 交換手監督ハ上司ノ命ヲ承ケ交換手ヲ指揮監督ス

〔大電〕

- 五 電話機類ノ不良又ハ回線ノ故障ヲ知りタルトキ若ハ其ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ當該係員ニ報告スヘシ
- 第七條 電話交換取扱ニ關スル用語ハ經理部長別ニ之ヲ定ム

### ● 電話交換手監督設置ノ件

- 制 定 昭五、一、七達電一
- 電話交換手監督設置ノ件左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 電話交換手監督設置ノ件
- 一 庶務課人事係ニ電話交換手監督數名ヲ置ク
  - 二 電話交換手監督ハ電話交換手ニシテ操行善良、成績拔群、他ノ模範トナルヘキ者中庶務課長之ヲ命ス
  - 三 電話交換手監督ハ所屬電話交換手ヲ指揮監督シ電話交換ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任シ其ノ責ニ任ス

### ● 自動車運轉士勤務規程

- 制 定 昭一一、三、一二達電三
- 自動車運轉士勤務規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 自動車運轉士勤務規程
- 第一條 乗用自動車運轉ノ業務ニ従事スル者(以下運轉士ト稱ス)ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ

- 第四條 交換手監督ハ日誌ヲ作成シ其ノ日ノ事項ヲ記載シテ翌日所屬長ニ提出スヘシ
- 交換手監督ノ設置ナキ部、課、係、廳、區役所其ノ他ニ於ケル前項ノ取扱ハ交換手之ヲ爲ス
- 第五條 交換手ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
  - 一 電話交換ニ當リテハ簡潔、親切ヲ旨トシ且敏速ニシテ正確ヲ期スヘシ
  - 二 通信ノ秘密ヲ守リ取扱中聴取シタル事項ハ之ヲ漏洩スヘカラス
  - 三 電話交換以外盪ニ職務ニ關係ナキ通話ヲ爲スヘカラス
  - 四 電話交換機類ハ叮嚀ニ取扱ヒ常ニ清掃シ且盪ニ他人ヲシテ觸レシムヘカラス
  - 五 勤務交替ノ際ハ未濟事項ヲ次番者ニ引繼クヘシ
  - 六 勤務中ハ輕快且見苦シカラサル服装ヲ爲スヘシ
- 第六條 交換手ハ特ニ左ノ各號ニ注意スヘシ
  - 一 呼出請求者ヨリ被呼者ノ職又ハ氏名ヲ明示セラレタル場合ハ必ス其ノ旨ヲ通シ被呼者不在ノトキハ請求者ヨリノ傳達用件ニ關シ努メテ便宜ヲ計ルヘシ
  - 二 被呼者通話中又ハ故障等ニ因リ交換接續シ難キトキ若ハ交換取扱輒轉ノ爲通常ノ待合セ時間内ニ接續ノ見込ナキトキハ請求者ニ其ノ旨ヲ告グヘシ
  - 三 交換接續後通話終了ニ至ル迄適宜通話中ナリヤ否ヤヲ確ムヘシ
  - 四 内外ヨリ同時ニ呼出ヲ受ケタルトキハ特ニ急ヲ要スルモノノ外外部ノ應答ヲ先ニスヘシ



第二條 運轉士ハ自動車運轉ノ業務其ノ他附帶業務ニ從事ス

第三條 運轉士ハ本廳ニ在リテハ祕書課長、其ノ他ニ在リテハ局、部、

解長(以下所屬長ト稱ス)ノ監督ヲ承ク

第四條 所屬長必要アリト認ムルトキハ運轉士監督ヲ置クコトヲ得

運轉士監督ハ所屬長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ勤務ニ付指導及取締ヲ爲ス

運轉士監督ヲ置カサル局、部、課、廳ニ在リテハ上席者前項ノ職務

ヲ行フ

第五條 自動車ノ鎖鑰類ハ運轉士監督又ハ之ニ準スヘキ者及運轉士各

一箇宛保管スヘシ

第六條 運轉士ハ勤務中制服ヲ著用スヘシ但シ特別ノ事由アル者ハ此

ノ限ニ在ラス

第七條 運轉士ハ所屬長ヨリ出勤證ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ出勤

スヘシ

第八條 自動車ハ使用後其ノ都度必ス洗滌清拭シ損傷ノ有無ヲ確メ故

障アルトキハ即時之ヲ修理又ハ上司ニ報告スル等適宜ノ措置ヲ爲ス

ヘシ

第九條 用務終了シタルトキハ所定ノ車庫ニ格納スヘシ

第十條 運轉士ハ大阪府令自動車取締規則其ノ他ノ關係法令ニ違背ナ

キコトヲ期スルト共ニ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 常ニ容儀ヲ正シクシ言動ヲ慎ミ苟モ野卑粗暴ノ所爲アルマシキ

コト

二 運轉経路其ノ他職務上聞知シタル事項ヲ私ニ漏示セサルコト

三 機械器具等ノ取扱ハ鄭重ニシ疎忽ノ所爲アルマシキコト

四 車庫及車内ニ於テハ火氣ヲ使用セサルコト

五 勤務ノ場所及車内ハ常ニ清潔ヲ保持シ且整頓スヘキコト

六 勤務中濫ニ受持車輛ヲ離レサルコト

七 運轉中業務上必要ナラサル談話ヲ爲シ又ハ新聞、雜誌類ヲ閱覽

セサルコト

八 出勤ヲ命セラレタルトキハ即時之ニ應シ得ル様常ニ用意ヲ爲ス

コト

九 受持車輛ハ濫ニ他人ヲシテ之ヲ操作セシメサルハ勿論機械裝置

ニ手ヲ觸レシムヘカラサルコト

第十一條 電氣局乗合自動車運轉ノ業務ニ從事スル者ニ對シテハ本規

程ハ之ヲ適用セス

### 昇降機手勤務規程

制 定 昭一一、三、一二達四四

昇降機手勤務規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昇降機手勤務規程

第一條 昇降機手ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ

第二條 昇降機手ハ本廳ニ在リテハ祕書課長其ノ他ニ在リテハ各局、

部、解長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 昇降機手ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

〔大電〕

第三條 給仕ノ日常爲スヘキ用務ノ概目左ノ如シ但シ集配専務ノ給仕

ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 應員登廳前其ノ他ヲ清拭スルコト

二 應員及來訪者ニ對シ湯茶ヲ供スルコト

三 來訪者ノ氏名及用件ヲ質シ其ノ取次ヲ爲スコト

四 電話ノ取次ヲ爲スコト

五 文書物件等ノ送達ヲ爲スコト

六 新聞紙其ノ他ヲ整理スルコト

七 應員ノ指示シタル事項

第四條 給仕ハ其ノ勤務ヲ命セラレタル場所ニ於ケル應員ノ指揮命令

ニ從フノ外左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 誠實勤勉ヲ旨トシ受命ニ保ル用務ハ敏速且確實ニ處理スルコト

二 常ニ容儀ヲ正シクシ言動ヲ慎ミ苟モ野卑喧噪ノ所爲アルマシキ

コト

三 來訪者ニ對シテハ懇切丁寧ヲ旨トシ疎忽ノ所爲アルマシキコト

四 書類物件等ハ鄭重ニ取扱ヒ汚損又ハ毀棄セサルコト

五 受命ニ保ル送達文書物件等ハ其ノ何タルヲ問ハス之ヲ披見シ又

ハ他見セシメサルコト

六 受命ニ保ル用務ノ外濫ニ自席ヲ離レサルコト

七 勤務ノ場所ハ常ニ清潔ヲ保持シ且整頓スルコト

八 給仕必携ニ指示シタル事項

第五條 給仕ハ出勤及退出ノ際ト雖成規ノ服裝ヲ爲スヘシ

病氣其ノ他ノ事故ニ因リ成規ノ服裝ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ

### 給仕勤務規程

制 定 昭一一、三、一二達四六

明治三十三年臘達第二〇號給仕勤務規程左ノ通改正シ昭和十一年四月

一日ヨリ之ヲ施行ス

給仕勤務規程

第一條 給仕ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ

第二條 給仕ハ各所屬長ノ監督ヲ承クルノ外教護主任ノ教護監督ヲ承

ク



旨届出テ承認ヲ受ケヘシ

### ●使丁勤務規程

制定 昭一、三、一二達四七

明治三十三年廳達第二一號使丁勤務規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 使丁勤務規程

- 第一條 使丁ハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ勤務スヘシ
- 第二條 使丁ハ本廳ニ在リテハ祕書課長、其ノ他ニ在リテハ各所屬長(以下所屬長ト稱ス)ノ監督ヲ承ク
- 第三條 祕書課長及所屬長必要アリト認ムルトキハ使丁監督ヲ命スルコトヲ得
- 使丁監督ハ使丁ノ指導及取締ヲ爲スヘシ
- 使丁監督事故アルトキハ上席者之ヲ代理スヘシ
- 第四條 使丁ノ日常爲スヘキ用務ノ概目左ノ如シ但シ使丁監督又ハ之ニ準スヘキ者ハ所屬長ノ承認ヲ受ケ各使丁ニ之ヲ分擔セシムルコトヲ得
  - 一 構内、廳内其ノ他各室及通路等ノ清掃撤水ヲ爲シ又ハ机、椅子、窓硝子、金具、敷物等ヲ清拭スルコト
  - 二 便所、手洗所等ヲ清潔ニシ且流水ニ注意スルコト
  - 三 吐壺、灰皿、水入等ヲ掃除スルコト
  - 四 湯茶ヲ準備スルコト

### ●運輸監督長、同監督副長及區主任規程

制定 昭八、七、一一達電二三

運輸監督長、同監督副長及區主任規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 運輸監督長、同監督副長及區主任規程

- 第一條 運輸部電車課監督係ニ運輸監督長(以下單ニ監督長ト稱ス)、同監督副長(以下單ニ監督副長ト稱ス)及區主任、同部自動車課業務係ニ監督長及監督副長各若干名ヲ置ク
- 第二條 監督長ハ所屬係長ノ指揮ヲ承ケ營業線上ノ保安警備ニ任シ運輸職員及從業員ヲ指揮監督ス
- 監督副長ハ監督長ノ職務ヲ補佐シ監督長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 區主任ハ上司ノ指揮ヲ承ケ區内ニ於ケル營業線上ノ運輸職員及從業員ヲ指揮監督ス
- 第三條 監督長ハ全營業線ヲ、監督副長ハ各主管區域ヲ常ニ巡視シ運輸上ノ事故又ハ乗客ノ雜沓等アリタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ直ニ所屬係長及關係運輸事務所ニ報告スヘシ
- 監督副長ノ主管區域ハ運輸部長之ヲ定ム
- 第四條 監督長及監督副長ハ業務上ノ施設改善又ハ運輸職員及從業員ノ進退賞罰等ニ關シ意見アルトキハ所屬係長ニ具申スヘシ但シ緊急ヲ要スルトキハ直接局長、部長又ハ課長ニ具申スルコトヲ得

- 五 文書物件ノ送達其ノ他受命ノ用務ヲ辨シ又ハ作業ヲ爲スコト
- 六 廳員ノ指示シタル事項

#### 第五條

使丁ハ廳員ノ指揮命令ニ從フノ外左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一 誠實勤勉ヲ旨トシ受命ニ依ル用務ハ敏速且確實ニ處理シ用務終了後ハ其ノ詰所ニ復スルコト
- 二 常ニ容儀ヲ正シクシ言動ヲ慎ミ苟モ野卑粗暴ノ所爲アルマシキコト
- 三 勤務中濫ニ外出シ又ハ公用外出中私用ヲ辨セサルコト
- 四 受命ニ係ル送達文書又ハ物件等ハ之ヲ披見シ又ハ他見セシメサルコト
- 五 廳外ニ送達スヘキ文書等ハ鞆ニ納メテ携行スルコト
- 六 書類、物件等ハ鄭重ニ取扱ヒ汚損又ハ紛失セサル様心掛クルコト
- 七 勤務擔當ノ場所ハ常ニ清潔ヲ保チ且整頓スルコト
- 八 常ニ火氣ノ取扱及流水ニ意ヲ用フルコト
- 第六條 使丁ハ廳舍及其ノ附屬物ニ破損又ハ故障アルコトヲ知りタルトキハ直ニ祕書課長又ハ所屬長ニ申告スヘシ
- 第七條 使丁ハ交代ヲ以テ宿直スヘシ
- 宿直スヘキ使丁ノ人員ハ祕書課長又ハ所屬長之ヲ定ム
- 第八條 使丁用務ノ爲外出スルトキハ成規ノ服裝ヲ爲スヘシ
- 第九條 掃除婦ハ使丁監督ノ指揮取締ヲ承ケ勤務スヘシ
- 第十條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ハ使丁ノ用務ニ從事スル職員ニ之ヲ準用ス

〔大電〕

〔大電〕

第五條 監督長及監督副長ニハ助手トシテ巡視監督ヲ附スルコトヲ得

第六條 路面軌道線ノ主要交叉點(停留場、分岐點及折返地點ヲ含ム)ヲ以テ區トシ之ニ隣接セル交叉點(停留場、分岐點及折返地點ヲ含ム)ヲ區ノ運輸管理區域トス

區主任ハ其ノ區内ニ於ケル路面電車ノ運輸保安及乗客取扱等一切ヲ管掌シ且運輸管理區域内ノ運輸上ノ指示ヲ與フルモノトス

區主任ヲ置クヘキ地點及管理區域ハ運輸部長之ヲ定ム

第七條 急迫、事變又ハ臨機ノ處置ヲ要スルトキハ區主任ハ其ノ區ニ於テ監督副長ノ職務ヲ行フコトヲ得

第八條 運輸部長ノ指定スル區ニ於テハ區主任ハ區内ニ於ケル乗合自動車ノ運輸保安及乗客取扱等一切ヲ掌理ス

前項ノ場合ニ於テハ區主任ハ自動車課業務係長ノ指揮ニ從フヘシ

#### 附則

昭和六年六月達電第三三號運輸監督長及同監督副長規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### ●乗客取扱監督勤務心得

制定 明四四、六、一五達一

自今各出張所ニ乗客取扱監督ヲ置ク  
但シ乗客取扱監督ハ當分ノ内現ニ途中整理及巡視監督ヲ以テ之ニ充テ整理及巡視事務ハ乗務トシテ從來ノ通り取扱ハシム



- 一 乗客取扱監督ハ車内ニ於ケル秩序ヲ保持シ最モ親切ニ乗客ノ取扱ヲナシ且ツ車輛ノ操縦ニ注意シテ車體ノ激動及途中ノ危害ヲ避クルコトニ努メ篤實ニ乗務員ヲ指揮監督スヘシ
- 二 乗客取扱監督ハ電車著發ノ際自ラ乗客ニ接シテ專ラ客ノ乗降ヲ扶ケ便利ト満足ヲ與フルコトニ努メ且ツ乗客取扱上ノ模範トナリテ乗務員ヲ指導スヘシ
- 三 乗客取扱監督ハ電車停留ノ際窓外若クハブラットニ於テ明晰ニ停留所名ヲ呼ビ鄭重親切ニ客ノ乗降ヲ整理スヘシ
- 四 乗客取扱監督ニシテ巡視ヲ兼務スルモノハ特ニ言語應對ニ注意シテ車内ノ客ヲ整理シ豫テ示サレタル乗務員ノ用語ヲ活用シ自己ノ動作ヲ慎ミ自ラ率先シテ乗務員ヲ指導スヘシ
- 五 乗客取扱監督ニシテ整理ヲ兼用スルモノ發車信號ヲナス場合ニハ全ク乗降シ了リタルコトヲ確認シタル後ニアラサレハ發車笛ヲ吹鳴スヘカラス
- 六 乗客取扱監督ハ整理ヲ兼務シテ駐在スル場合若クハ巡視ヲ兼務シテ乗務中當該電車ニ發生シタル事故ニ付テハ乗務員ト俱ニ各其ノ責ニ任スヘシ
- 七 乗客取扱監督其ノ受持区域内ニ當該出張所ヨリ補助車掌ノ派遣ヲ受ケタル場合ハ天候又ハ客ノ多寡ヲ考察シ適宜補助乗務ノ場所ヲ指定シ補助ヲ要セスト認メタルトキハ意見ヲ申報シテ出張所主任者ノ指揮ヲ求メ成可現業員ノ徒勞ヲ避ケ休養セシムルコトニ努ムヘシ
- 八 乗客取扱監督ハ常ニ乗務員ノ乗務成績ヲ公平ニ考察シ不良ト認

メタルモノハ事例ノ詳細ヲ具シ出張所主任者ニ報告スヘシ

### ● 運轉手車掌勤務規程

制定 明三七、一、一三市參事會議決

#### 第一章 總則

- 第一條 運轉手、車掌ハ大阪府令電氣鐵道取締規則其ノ他諸般ノ規定ヲ遵守シ且上長ノ命令ニ服従スヘシ
- 第二條 運轉手、車掌ハ別ニ定ムル所ノ執務時間ニ依リ乗務ニ就キ保員又ハ監督員ヨリ指示スルノ外休業スル事ヲ得ス且ツ疾病其他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ出勤時間前ニ書面ヲ以テ事務所ヘ届出ツヘシ其疾病七日以上ニ涉ルトキハ七日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 第三條 運轉手、車掌ハ勤務中制服ヲ着用スヘシ
- 第四條 運轉手、車掌ハ乗務中自己所有ノ金錢ヲ所持シ若クハ他人ノ金錢ヲ預リ所持スヘカラス
- 第五條 運轉手、車掌ハ如何ナル場合ト雖同時ニ受持車輛ヲ離ルヘカラス
- 第六條 運轉手、車掌ハ左ノ行爲アルヘカラス
  - 一 行違ヒ電車ノ運轉手車掌ト職務上必要ナラサル談話ヲナス事
  - 二 乗客其ノ他ノ人ト職務上必要ナラサル談話ヲナス事
  - 三 乗務中喫煙飲食スル事

- 四 乗務中新聞雜誌ノ類ヲ閱讀スル事
- 五 乗務中各客内ニ腰ヲ掛クル事
- 第七條 運轉手、車掌ハ乗務中自己ノ名札ヲ車内ニ掲ケヘシ
- 第八條 運轉手、車掌ハ乗客並公衆ニ對シ懇切ニ接遇シ侮慢ノ行爲アルヘカラス
- 第九條 信號ハ左ノ區別ニ依ルヘシ
  - 一點 停車
  - 二點 發車
  - 三點 トロリー車カ電線ヨリ外レタルトキ
- 第十條 本規程ニ於テ運轉手、車掌ノ職掌ヲ區別スルト雖各自全部ヲ服膺遵守スルノ責アルモノトス

#### 第二章 運轉手

- 第十一條 運轉手ハ電車ヲ管理シ其運用ヲ掌ルモノトス
- 第十二條 運轉手ハ電車内ニ裝置セル機械ノ要領ヲ了解シ運轉中ニ起リタル事故ハ成可自ラ修繕シ得ル様平素注意スヘシ
- 第十三條 電車ニ損傷若クハ異狀ヲ生シタルトキハ運轉手ハ可成速ニ係員ニ通知スヘシ
- 第十四條 運轉手臺ニハ客ヲ乗載スヘカラス
- 第十五條 運轉手ハ如何ナル場合ト雖運轉手臺ヲ離ルヘカラス但シ已ムヲ得スシテ其ノ位置ヲ離ル、トキハ(アレーキ)ヲ卷キ而シテ(コントローラー、ハンドル)ヲ外シ之ヲ携帶スヘシ
- 第十六條 運轉手ハ制限ノ速度ヲ超過シ行車スヘカラス但シ制限内ト雖道路ノ交叉部、街角、橋上、阪路又ハ往來雜沓ノ場所ニ於テハ音

- 警器ヲ鳴シ特ニ徐行スヘシ
- 第十七條 通常停車ノ場合ニハ(ハンドル、アレーキ)ヲ使用シ(電車アレーキ)ハ危険切迫ノ際ニアラサレハ使用スヘカラス
- 第十八條 已ムヲ得サル事情ニ依リ行車ノ遅レタルトキト雖急激ニ速度ヲ増スヘカラス此場合ニ於テハ少シク速度ヲ早メテ徐々ニ順序ヲ正スヘシ
- 第十九條 車馬及歩行者カ電車ノ前路ヲ通行シ又ハ電車ニ接近シタルトキハ運轉手ハ警器ヲ鳴ラシ特ニ徐行シ又ハ停車スヘシ
- 第二十條 運轉手ハ行車中各車間ニ四十間以上ノ距離ヲ保ツヘシ
- 第二十一條 消防機械又ハ郵便車馬通行ノトキハ運轉手ハ其進行ニ障礙ヲ與ヘサル様徐行シ又ハ停車スヘシ軍隊、學生、生徒ノ隊伍及葬儀等ノ行列通過ノトキモ亦同シ
- 第二十二條 運轉手ハ(ス井ツチ)ノ(トンギー)カ正シキ位置ニアルコトヲ自ラ確認スルカ轉轍手及信號人ノ安全信號アルニアラサレハ其所ヲ通過スヘカラス曲線、(ス井ツチ)交叉點ニテハ電車ノ速度ヲ減スヘシ非常ノ場合ノ外曲線ニテ停車スヘカラス
- 第二十三條 運轉手ハ線路ニ線類、石塊、棒切等ノ障礙物ヲ認メタルトキハ其他危險ヲ認ムヘキ場合ニハ其安全ナルコトヲ確カメタル後ニアラサレハ通過スヘカラス
- 第二十四條 (ハット、ライト)ノ硝子板ハ常ニ清潔ニ磨キ置クヘシ且日出前、日没後ハ必ス點燈シ前後ヲ誤ラサル様注意スヘシ
- 第二十五條 送電中止ニ遭ヒタルトキハ直チニ(コントローラー、ハンドル)ヲ「オフ」ニ返スヘシ發電所ニテハ送電ヲ中止セルカ(トロリ



一、(ホール)カ電線ヨリ外レタルカ又ハ其他ノ原因ナルカヲ確メタル上ナラテハ發車スヘカラス

第二十六條 運轉手ハ電車ニ屬スル機械ヲ保持スルノ任ヲ有スルモノトス故ニ每朝發車前豫備品ヲ檢シ不足ナカラシムヘシ

第三章 車掌

第二十七條 車掌ハ電車ノ進過ヲ掌リ乘客ニ接シ乘車賃及乘車切符ノ取扱ヒニ從事スルモノトス

第二十八條 乘客ハ必ス後部乗降臺ノ軌道ナキ側ノ入口ヨリ乗降セシムヘシ又曲線、橋梁、踏切及上リ勾配アル所ニ於テハ決シテ乗降セシムヘカラス

第二十九條 車掌ハ乗務中乘客ニ對シ不敬無禮ノ言語ヲ用フヘカラス  
溫雅丁寧ヲ旨トシ殊ニ老幼婦女ニ對シテハ最モ親切ナルヲ要ス但シ乗降セントスル客ニ對シ故ナクシテ手ヲ貸スヘカラス

第三十條 車掌ハ成可乘客ニ腰ヲ掛ケシムル様注意シ止ヲ得サルトキ順次詰メ合スコトヲ勉ムヘシ此場合ニ於テ左ノ如ク稱フヘシ  
ドヲカ御願ニ前ノ方ニ御詰メヲ願ヒマス

第三十一條 乘客ノ乗り終リ又ハ降り終リタル後ニアラサレハ發車ノ信號ヲナスヘカラス

第三十二條 乘客カ乘車シタルトキハ速ニ乘車賃引換ニ乘車切符ヲ賣渡シ降車ノトキハ之ヲ受取ヘシ多人數一時ニ乘車スルカ又ハ乘客多數ノトキハ新ニ乘込ミタル乘客カ判別シ能ハサルトキハ左ノ如ク稱フヘシ  
切符ノナイ御方ハアリマセンカ

止マリタルヲ見定メタル後ニアラサレハ發車ノ信號ヲナスヘカラス  
第四十三條 車掌ハ電車進行中可成車掌臺ニ在リテ「トローリー、ポール」紐ヲ把持シ居リ架空ノ「フロック」ノ下若ハ曲線通過ノ際ニハ特ニ「トローリー、ポール」ニ注意スヘシ「トローリー、ポール」ノ外レタルトキハ直ニ之ヲ引下ケ運轉手ニ其信號ヲナシ速ニ復舊ノ上發車信號ヲナスヘシ

第四十四條 車掌ハ如何ナル場合ニ於テモ決シテ「コントローラー」ヲ動スヘカラス

第四十五條 車掌ハ日出前及日没後ハ電車内ニ點燈スヘシ

第四十六條 車掌ハ事務所ニ歸リタルトキハ毎回又ハ數回毎其際集金ヲ係員ニ交付スヘシ

第四十七條 車掌ハ終業ノ際電車ヲ入庫シタルトキ「トローリー、ポール」ヲ電線ヨリ外シ且電燈用「ス」井ツチ「ヲ」オフ「ニ」ナシ置クヘシ

第四十八條 車掌ハ電車體ヲ清潔ニ保持スルノ任ヲ有スルモノトス故ニ每朝發車前之レカ注意ヲ怠ルヘカラス

第四十九條 運轉手方左ニ掲グル行爲アルトキハ車掌ハ直ニ係員ニ報告スヘシ  
一 故意ニ車輛進行ノ速度ヲ増シ乘客ノ乗降ヲ妨グル事  
二 車掌ヨリ停車發車ノ合圖ヲ受クルモ速ニ之ニ應セサル事  
三 車輛ノ進退ニ關シ車掌ノ意志ニ反對スル事

第五十條 車掌ハ乘客ニ對シ言語ヲ發スルニハ概ネ左ノ如キ句調ヲ用井成ルヘク簡單明瞭ナルヲ要ス  
一 御早ク願マス

第三十三條 乘客ニ乘車切符ヲ賣渡ストキ鈞錢ヲ要スル場合ハ左ノ如ク稱フヘシ(假令ハ參錢ノ貨錢ニ對シ拾錢受取りタルトキ)

拾錢テ御座イマス七錢御鈞リテス

第三十四條 乘車賃ヲ受取りタル後其ノ乘客カ電車ノ乘違ヒヲ發見シ乘車賃ノ返戻ヲ求ムルトモ車掌ハ之レニ應スヘカラス此場合ニ於テハ丁寧ニ挨拶スヘシ

第三十五條 優待乘車券又ハ無賃乘車券ヲ有スルモノ若ハ係員ノ徽章アルモノノ外ハ必ス乘車切符ヲ賣渡スヘシ

第三十六條 車掌ハ他客ノ迷惑トナルヘキ乘客又ハ乘車賃ヲ拂ハサル乘客ニ對シテ下車セシムルトキハ先ツ電車ヲ止メ丁寧ナル言語ヲ用ヒ下車ヲ請フヘシ

第三十七條 車掌ハ乘客カ携帶セル靴又ハ手荷物ノ類ヲ預カルヘカラス  
暴力又ハ爭論等ノ行爲アルヘカラス

第三十八條 電車内ニ發見シタル遺留品ハ事務所ニ到着ノ際係員又ハ監督員ニ渡シ車掌ノ姓名月日電車ノ番號及發見ノ時刻等ヲ報告スヘシ

第三十九條 電車内ニ飲食物其他物品ノ販賣ヲ許スヘカラス

第四十條 電車進行中乘車又ハ降車セントスル客ヲ強ヒテ妨グヘカラス  
下車ノ際他ノ電車其他荷車等ニテ怪我ノナキ様能ク注意スヘシ  
第四十一條 電車カ各停留場ニ到リタルトキハ其名稱ヲ呼フヘシ  
第四十二條 老幼婦女ノ乘客カ降車スルトキハ其降車シテ路上ニ立チ

- 一 ドチラマテ御乗リデスカ
- 一 何處(停留場)各稱(デ)ス御降りノ御方ハアリマセンカ
- 一 御懷中物ノ御用心ヲ願ヒマス
- 一 御忘れ物ノナキヨウニ願ヒマス
- 一 アナタ切符ハ
- 一 コチラヘ御回り下サイ
- 一 アチラカラ願ヒマス
- 一 動キマス
- 一 御覽ノ通りデスカラ後ノ車ニ願ヒマス

● 高速從業員勤務規程

制 定 昭八、七、一一 達電二二  
最近改正 昭九、一一 達電二五

高速從業員勤務規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則

第一條 高速從業員(以下單ニ從業員ト稱ス)ハ本規程及諸般ノ規定ニ從ヒ各自其ノ本分ヲ守リ所屬上長ノ命令ニ服シ誠實ニ職務ニ從事スヘシ

第二條 從業員ハ常ニ業務ノ安全ト取扱ノ公正ヲ期シ乘客ニ對シテハ丁寧切實ヲ旨トシ苟モ禮讓ヲ失スル舉動アルヘカラス



- 第三條 從業員ハ職務上必要ナル知識技能ヲ會得上達スルコトニ努メ職務ヲ行フニ際シテハ簡捷正確ヲ旨トシ常ニ相互ノ連絡協調ヲ圖リ互助和親ノ精神ヲ失フヘカラス
  - 第四條 從業員ハ濫ニ缺勤、遅刻、早退シ又ハ職務場所ヲ離ルヘカラス
  - 第五條 從業員ハ職務中必ス制服ヲ着用シ其ノ整裝ニ注意スヘシ
  - 第六條 從業員ハ他人ヲシテ濫ニ職務場所内ニ立入ラシムヘカラス
  - 第七條 從業員ハ勤務交代ノ場合ハ所定ノ引繼ヲ爲スヘシ
  - 第八條 從業員遺留品ヲ發見シ又ハ乘客其ノ他ヨリ拾得ノ申出アリタルトキハ規定ニ從ヒ處理スヘシ
- 第二章 高速車掌及女子高速車掌**
- 第九條 高速車掌及女子高速車掌(以下單ニ車掌ト稱ス)ハ乗務所主任ノ指揮ヲ承ケ電車ニ乗務シ乘客ノ輸送ニ從事シ電車内ノ秩序ヲ保持ス
  - 第十條 車掌ハ電車力驛ニ在ルトキハ驛長ノ指示ニ從フヘシ
  - 第十一條 車掌ハ特ニ指定セラレタル場合ノ外乗務スヘキ電車ノ出發時刻二十分前ニ出勤スヘシ
  - 第十二條 車掌ハ出勤シタルトキハ關係達示類ヲ熟讀シ且乗務所主任ニ付執務上必要ナル指示ヲ受ケヘシ
  - 第十三條 車掌ハ終著驛又ハ交代驛ニ於テハ乘客ノ乗降力完了シ又ハ交代者ト引繼ヲ完了スルニ非サレハ退場スヘカラス
  - 第十四條 車掌ハ常ニ電車ノ定時運轉ニ注意スヘシ
  - 第十五條 車掌ハ電車ノ組成、車輛ノ連結、電車標識及備品ノ整備ヲ

- 確認スヘシ
  - 第十六條 車掌ハ常ニ電車内各部ノ機能車内ノ清掃ニ注意スヘシ
  - 第十七條 車掌ハ常ニ乘客ノ案内及座席ノ分配ニ注意シ懇切丁寧ニシテ乘客ニ満足ヲ與フルコトニ努ムヘシ
  - 第十八條 車掌ハ特ニ命セラレタルトキ又ハ必要ト認メタルトキハ檢札ヲ爲スヘシ
  - 第十九條 車掌ハ電車力出發シタルトキ停車場ニ近ツキタルトキ及停車シタルトキハ驛名ヲ呼稱スヘシ
  - 第二十條 車掌ハ信號機及線路等ノ不良又ハ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ高速運轉手及最寄驛長ニ通告スヘシ
  - 第二十一條 車掌ハ運轉中事故發生シタルトキハ高速運轉手ト協力シテ電車ノ防護救援其ノ他ノ手段ヲ盡シ乘客ニ對シテハ機宜ノ處置ヲ誤ラサルコトニ努メ其ノ狀況ヲ乗務所主任並高速係長ニ急報スヘシ
- 第三章 高速運轉手**
- 第二十二條 高速運轉手(以下單ニ運轉手ト稱ス)ハ乗務所主任ノ指揮ヲ承ケ電車ノ運轉ニ從事ス
  - 第二十三條 運轉手ハ電車ノ出發、進退及入換等ニ付テハ驛長又ハ車掌ノ指示ニ從フヘシ
  - 第二十四條 運轉手ハ特ニ指定セラレタル場合ノ外乗務スヘキ電車ノ出發時刻二十分前ニ出勤スヘシ
  - 第二十五條 運轉手ハ出勤シタルトキハ關係達示類ヲ熟讀シ且乗務所主任ニ付執務上必要ナル指示ヲ受ケヘシ
  - 第二十六條 運轉手ハ電車ニ乗務スルトキハ各部ヲ點檢シ所定ノ器具

- 及物品ヲ整備スヘシ
- 第二十七條 運轉手ハ特ニ定メラレタル場合ヲ除クノ外車掌ト同乗スルニ非サレハ電車ヲ運轉スルコトヲ得ス
- 第二十八條 運轉手ハ電車運轉ノ安全正確ヲ期シ特ニ速度ノ調節ヲ誤ラサル様注意スヘシ
- 第二十九條 運轉手ハ常ニ信號ニ注意シ必ス其ノ現示ニ從フヘシ
- 第三十條 運轉手ハ車輛並線路ノ状態ニ注意シ事故ヲ惹起セサル様努ムヘシ
- 第三十一條 運轉手ハ運轉中停電ノトキハ直ニ制御器ノ把手ヲ遮斷ノ位置ニ轉換スヘシ
- 第三十二條 運轉手ハ乗務中其ノ位置ヲ離ルヘカラス事故其ノ他已ムヲ得サル場合ハ方向轉換器ノ把手ヲ取外シ之ヲ携帶スヘシ
- 第三十三條 運轉手ハ車輛及機械器具ノ安全ニ注意シ濫ニ速度ヲ加ヘテ電力ヲ浪費スルコトヲ許ス範圍ニ於テ成ルヘク階力ヲ利用スヘシ
- 第三十四條 運轉手ハ電車ノ交換又ハ乘繼ヲ爲ストキハ運轉上必要ナル事項ヲ洩レナク引繼ケヘシ
- 第三十五條 運轉手ハ電車ニ乗務スルトキハ運轉時刻表其ノ他必要ナル書類ヲ携帶スヘシ
- 第三十六條 運轉手ハ運轉中事故發生シタルトキハ車掌ト協力シ其ノ性質程度ニ應ジ機宜ノ處置ヲ爲シ電車ノ運轉ヲ停止シ乘客及車輛ノ安全ヲ期スヘシ
- 第三十七條 運轉手ハ信號機又ハ線路等ノ不良不完全ナルコトヲ發見

- シタルトキハ機宜ノ處置ヲ爲シ且最寄驛長ニ急報スヘシ
  - 第三十八條 運轉手ハ運轉中車輛ニ故障ヲ生シ前途ノ運轉ニ堪エスト認ムルトキハ直ニ續行電車ノ運轉ヲ妨ケサル様安全ナル處置ヲ爲シ乗務所主任並高速係長ニ急報スヘシ
- 第四章 高速信號手**
- 第三十九條 高速信號手(以下單ニ信號手ト稱ス)ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ信號機及轉轍器ノ取扱並車輛ノ入換ニ從事ス
  - 第四十條 信號手ハ常ニ信號機、聯動裝置及轉轍器ノ調整ニ注意シ其ノ作用ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ速ニ驛長ニ報告スヘシ
  - 第四十一條 信號手ハ寒暖ノ變化著シキトキニ在リテハ特ニ信號機聯動裝置及轉轍器ノ作用ニ注意シ其ノ完全ナルコトヲ確メ置クヘシ
  - 第四十二條 信號手ハ轉轍器ヲ轉換スルトキハ開通セシムヘキ線路カ電車ノ進行ニ支障ナキコトヲ確ムヘシ
  - 第四十三條 信號手ハ轉轍器ヲ轉換シタルトキハ完全ニ作用シタルコトヲ確ムヘシ
  - 第四十四條 信號手ハ常ニ聯動裝置及轉轍器ノ清掃ヲ爲スヘシ
  - 第四十五條 信號手ハ電車ノ入換ヲ爲スニ當リテハ作業ノ順序ニ注意シ且關係係員トノ打合ヲ完全ニシ事故ヲ發生セシメサル様努ムヘシ
  - 第四十六條 信號手ハ電車ノ入換ヲ爲ストキハ當該線路ニ支障ナキコトヲ確認シ且衝突セシメサル様注意スヘシ
  - 第四十七條 信號手ハ發火信管ヲ整備スヘシ
  - 第四十八條 信號手ハ他人ヲシテ濫ニ信號機、聯動裝置及轉轍器等ニ觸レシムヘカラス



第五章 改札手

第四十九條 改札手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券類ノ検査改缺取集料金ノ追徴及之ニ關スル一切ノ事務ニ従事ス

第五十條 改札手ハ乗客カ有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ其検査ヲ拒ミ若ハ取集ノ際之ヲ渡ササルトキハ相當料金收受ノ手續ヲ爲スヘシ前項ノ場合ニ於テ乗客カ料金を支拂ハサルトキハ其ノ旨驛長ニ報告スヘシ

第五十一條 改札手ハ無日附又ハ無改缺ノ乗車券ヲ所持スル乗客アリタルトキハ其ノ理由ヲ開示シ驛長ニ報告スヘシ

第五十二條 改札手ハ乗客携帯ノ手荷物ノ品質及容積等カ電車内持込ニ適セサルモノト認メタルトキハ丁寧ニ説明シタル上適當ニ處置スヘシ

第六章 出札手

第五十三條 出札手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券類ノ發賣及之ニ關スル一切ノ事務ニ従事ス

第五十四條 出札手ハ定メラレタル乗車券ニハ發賣ノ際日附ヲ押捺スヘシ

日附ヲ誤リ又ハ日附不鮮明ナルモノハ廢札ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十五條 出札手ハ乗車券ノ發賣ニ際シ乗客ノ求ムル驛名及枚數ヲ誤ラサル様注意シ料金及釣銭ニ過不足ナキヲ期スヘシ

第五十六條 出札手ハ乗車券類ノ受入ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ調査スヘシ  
一 番號ノ脱漏又ハ重複

二 驛名、運賃其他記載事項ノ誤謬  
三 員數ノ過不足

第七章 驛手

第五十七條 驛手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ改札ノ補助構内並電車ノ清掃其ノ他ノ雜務ニ従事ス

第五十八條 驛手ハ待合所、乗降場又ハ電車ヲ掃除スルトキハ乗客ノ迷惑トナラサル様注意シ撒水其ノ他ノ方法ニヨリ塵埃ヲ飛散セシメサルコトニ努ムヘシ

第五十九條 驛手ハ乗客ヨリ電車ノ時刻及料金等ニ付質問ヲ受ケタルトキハ丁寧ニ應答スヘシ

● 自動車運轉手自動車車掌勤務規程

制定 昭二、二、二四達電一五

最近改正 昭五、三 達電一一

自動車運轉手自動車車掌勤務規程左ノ通制定シ昭和二年二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則

第一條 自動車運轉手自動車車掌(以下單ニ運轉手車掌ト稱ス)ハ内務省令自動車取締令大阪府令自動車取締令施行規則其ノ他業務ニ關ス

〔大電〕

〔大電〕

第九條 運轉手ハ制限ノ速度ヲ超過シテ運轉スヘカラス但シ制限内ト雖モ歩車道ノ區別ナキ道路及道路ノ交叉部街角、橋上、阪路、雨雪泥濘ノ場合又ハ往來雜沓ノ場所ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ特ニ注意シテ運轉スヘシ

第十條 運轉中ハ危險切迫ノ場合ノ外急停車スヘカラス  
第十一條 運轉中他ノ乗合自動車ヲ追越スヘカラス  
第十二條 運轉中故障ヲ生シタル場合ノ外途中ヨリ引返運轉ヲ爲スヘカラス

第十三條 停留場ニ於テハ三分間以上停車シ又ハ三輛以上同時ニ停車スヘカラス  
第十四條 軌道併用ノ路線ニ於テハ電車ノ進行ニ支障ヲ與ヘサル様運轉スヘシ

第十五條 運轉手ハ自動車ニ屬スル機械器具ヲ保持スルノ任ヲ有スルヲ以テ發車前之ヲ検査シ不足ナカラシムヘシ

第三章 車掌

第十六條 車掌ハ自動車ノ發車、停車ヲ掌リ乗客ニ接シ乗車料金及乗車券ノ取扱ニ従事スルモノトス

第十七條 車掌ハ成ルヘク乗客ニ腰ヲ掛ケシムル様注意シ止ムヲ得サルトキハ順次詰メ合スコトニ努ムヘシ此ノ場合ニ於テハ左ノ如ク稱スヘシ  
ドウカ御願ニ御詰メ合セテ願ヒマス

第十八條 乗客カ乗車シタルトキハ速ニ乗車料金又ハ代用券引換ニ乗車券ヲ改缺交付シ降車ノトキハ之ヲ受取ルヘシ

ル諸般ノ規程ヲ遵守シ且ツ上長ノ命令ニ服従スヘシ  
第二條 運轉手車掌ハ別ニ定ムル勤務時間ニ依リ勤務ニ就キ上長ヨリ指示シタル場合ノ外休業スルコトヲ得ス但シ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ缺勤セムトスルトキハ出務定時刻前書面ヲ以テ届出ツヘシ其ノ疾病七日以上ニ互ルトキハ七日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ  
第三條 運轉手車掌ハ乗務中自己ノ名札ヲ車内ニ掲ケヘシ  
第四條 運轉手車掌ハ乗客並公衆ニ對シ懇切丁寧ニ接遇スヘシ  
第五條 發車又ハ停車ノ場合車掌ハ運轉手ニ對シ口頭ヲ以テ左ノ通合圖スヘシ

一 發車ノ場合ハ「發車」

二 停車ノ場合ハ「停車」又ハ「次停車」

三 乗降客ナキ停留場ヲ通過スル場合ハ「通過」

第六條 運轉手車掌ハ乗務中左ノ行爲アルヘカラス

- 一 私金ヲ所持スルコト
- 二 猥ニ擔當車ヲ離ルルコト
- 三 新聞雜誌ノ類又ハ書類ヲ閱讀スルコト
- 四 客席ニ腰ヲ掛ケ又ハ横臥スルコト
- 五 乗客ヨリ金品ヲ預ルコト

第二章 運轉手

第七條 運轉手ハ乗合自動車(以下單ニ自動車ト稱ス)ヲ管理シ其ノ操縦運用ヲ掌ルモノトス

第八條 運轉手ハ自動車ニ裝置セル機械器具ノ要領ヲ解シ運轉中ニ起リタル事故ハ成ルヘク自ら應急修理ヲナシ得ル様平素注意スヘシ



第十九條 乘客ニ乗車券發賣ノ際釣銭ヲ要スルトキハ左ノ如ク稱フヘシ

(例ハハ六錢ノ乗車料ニ對シ十錢受取りタルトキ)

第二十條 乗車料金ヲ受取りタル後乘客カ乘違ヒ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ乗車料金ノ返戻ヲ求ムルモ車掌ハ之ニ應スヘカラス此ノ場合ニ於テハ叮嚀ニ挨拶スヘシ

第二十一條 監査票ヲ所持スル者ノ外何人ニテモ無料ニテ乗車セシムヘカラス

第二十二條 他客ノ迷惑トナルヘキ乘客又ハ大阪府令自動車取締令施行規則ニ違反シタル乘客ニ對シテハ叮嚀ナル言語ヲ以テ注意ヲ與ヘ又ハ下車セシムヘシ但シ下車セシムヘキトキハ先ツ停車シテ之ヲ請フヘシ

第二十三條 自動車内ニ於テハ飲食物其ノ他ノ物品販賣廣告ニ類スル印刷物ノ配付又ハ演說、説教其ノ他之ニ類スル行爲ヲ許スヘカラス

第二十四條 停留場以外ノ場所ニ於テ乗降客ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第二十五條 乗務中乘客其ノ他ノ者疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ最寄ノ醫師ニ依頼シ應急手當ヲ爲スト共ニ係員ニ報告スヘシ

第二十六條 運轉手カ左記各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ車掌ハ直チニ之ヲ係員ニ報告スヘシ

- 一 命セラレタル路線ヲ運轉セサリシトキ
二 車掌ヨリ停車又ハ發車ノ合圖ヲ受クルモ之ニ應セサリシトキ
三 故意ニ事故ヲ隠蔽シタルトキ

技術職員、技術従業員、事務職員及備員服務規程

制 定 昭三、九、二九達電四九
最近改正 昭八、七 達電二六

電氣局技術職員、技術従業員、事務職員及備員服務規程左ノ通相定メ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 電氣局技術職員、技術従業員、事務職員及備員服務規程

第一條 技術職員、技術従業員、事務職員及備員ハ本規程ノ定ムルトコロニ依リ所屬上長ノ命ニ從ヒ誠實ニ其ノ勤務ニ服スルモノトス

第二條 勤務時間、休憩時間及定時間別表ノ如シ但シ局長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時變更スルコトアルヘシ

第三條 休日左ノ如シ

Table with columns: 事務職員, 普通勤務, 吏員一般休日ニ準ス, 特別勤務, 吏員特別勤務者ノ休日ニ準ス, 技術職員、技術従業員, 甲種定休, 祝祭日、一月一日、一月二日, 乙種定休, 毎月(自前月二十一日)公休三日

左ノ各號該當ノ場合ハ各下記ノ如ク取扱フモノトス
一 休日ノ前後引續キ缺勤ノモノ 該休日ハ之ヲ缺勤トス

第二十七條 車掌ハ乘客ニ對シ概ネ左ノ如キ言語ヲ用ヒ成ルヘク簡單明瞭ナルヲ要ス

- 一 シバラク御待ヲ願ヒマス
一 御待違サマ
一 ドチラマテ御乗リテスカ
一 何何(停留場名)デアリマス御降りノ方ハアリマセマカ
一 御忘れ物ノナイヨウニ願ヒマス
一 發車シマス
一 御覽ノ通デスカラ次ノ車ニ願ヒマス

集金員班長設置規程

制 定 昭一、一、三、二五達電一

大正十二年達電第五八號集金員班長設置ノ件左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

集金員班長設置規程

第一條 集金員ヲ數班ニ分チ各班ニ集金員班長ヲ置ク

第二條 集金員班長ハ集金員ニシテ操行善良成績拔群他ノ模範トナルヘキ者ヲ選ビ電燈部長之ヲ命ス

第三條 集金員班長ハ所屬集金員ヲ指揮監督シ集金ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任シ其ノ責ニ任ス

二 休日ノ前日缺勤ノモノ 該休日ハ之ヲ無給休トス
一 一箇月ノ實務日數二十日未滿 乙種定休三日ノ内一日ハ之ヲ無給休トス

同 十日未滿ノモノ 乙種定休三日ノ内二日共之ヲ無給休トス

第四條 乙種定休日ハ所屬部課長ニ於テ之ヲ定メ局長ニ報告ス之カ線替ヲナシタルトキ亦同シ但シ線替ハ左ノ場合ニ限り當該月中ニ於テ之ヲナスコトヲ得
一 業務上ノ必要アリタルトキ
二 乙種定休日甲種定休日ト重複シタルトキ

甲種定休日ニ所定ノ勤務以外ノ實働ニ就カシメタルトキハ局長ニ於テ特ニ一定期間中ニ之カ代休ヲ與フルコトアルヘシ
第五條 所屬部課長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキハ左ノ勤務ニ服セシム
一 時間外勤務 (始業時前ノ早出又ハ終業時後ノ殘業勤務)
二 廢休勤務 (甲種定休日ヲ廢シ所定勤務ニ服セシメ又ハ一箇月中乙種定休日線替不能ニ終ラシム)
三 宿 直 (勤務時間終了時ヨリ宿直)
四 晝夜勤務 (勤務時間終了時ヨリ引續キ翌日ノ始業時迄所定勤務ニ服ス)

前項晝夜勤務ニ服シ翌日勤務ニ堪ヘスト認メタルトキハ所屬長ニ於テ特ニ休養セシムルコトヲ得但シ當日ノ給料ハ之ヲ支給セス
第六條 前條各號ノ勤務ニ服シタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ加給ス



勤務別	給與名	給與額	給與名	給與額
勤務別	給與名	給與額	給與名	給與額
時間外勤務	賄料	吏員(労働課使丁)ニ在リテハ使丁)夜勤賄料ニ準ス	歩増	一時間毎(未滿切捨)ニ日給八分ノ
廢休勤務	同	同休日勤務賄料ニ準ス	倍額	定時間ニ付日給全額
宿直	同	同宿直賄料ニ準ス	宿直當直	金六拾錢
晝夜勤務	同	同晝夜勤務賄料ニ準ス	特別歩増ノ二	外日給八分

勤務時間ノ定時間ヲ超ユルモノハ其ノ超過時ニ對シ前項ノ勤務ニ準シ加給ス

第七條 第五條ノ勤務ノ外勤務時間外ニ於テ特殊作業ノ爲不時勤務ニ就カシムルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ左ノ不時勤務ニ從事シタルトキハ各下記ノ特殊作業手當ヲ支給ス

所屬別職名別	作業別	手當額
電燈部 技術職員及技術従業員	劇場寄席等ノ電氣工作物巡視	五拾錢
同	廣告燈、公共便所燈、橋梁燈、路傍燈並露店電燈巡視	同

第十條 前條ノ規定ニ該當シタル者ハ缺勤トシ勤務中之ニ該當スルニ到リタルモノハ早退トス

第十一條 出勤及退出取扱方ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 服務上心得ヘキ事項左ノ如シ

- 一 所定ノ始業時限マテニ出勤シ終業時限ヲ以テ業務ヲ終リ取片附ケタル後退出スヘシ
  - 二 出門又ハ入門ノ際守衛ニ於テ所持品検査ヲ行フトキハ柔順ニ之ニ應スヘシ
  - 三 服務中ハ外來者ト面會スルコトヲ許サス但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ係員ノ許可ヲ受ケヘシ
  - 四 作業用ノ機械器具ハ大切ニ使用保存シ材料消耗品ハ其ノ節約利用ニ注意スヘシ之方毀損滅失又ハ損耗消失ヲ來シタルトキハ直ニ係員ニ申出ツヘシ其ノ申出ヲ怠リタル者若クハ其ノ責ニ歸スヘキ事由アリタル者ニ對シテハ相當辨償セシムルコトアルヘシ
  - 五 作業用ノ材料消耗品ハ豫メ係員ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スヘシ
  - 六 詰所及作業場ハ常ニ清潔ニシテ火氣ニ注意スヘシ
  - 七 構内ニ於テ遺失物件ヲ拾得シタルトキハ直ニ係員ニ届出ツヘシ
  - 八 公品ヲ構外ニ搬出スルトキハ所屬係長又ハ主任ヨリ物品搬出證ノ交付ヲ受ケ守衛詰所ニ提出スヘシ
  - 九 普通携帶品以外ノ私有物品ニ付亦同シ
- 勤務時間中病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ退出セムトスルトキハ係員ノ許可證ヲ受ケ守衛詰所ニ提出スヘシ公用出門ノトキ亦同シ

同	同	電燈部營業所出張(自終業時)至始業時	七拾錢
同	同	電線路故障修繕ノタメ宿直(同)	同
同	同	電力故障修繕ノタメ(自終業一時間後)至始業二時間前	六拾五錢
技術部	同	電壓ノ出張調査	責任者六拾錢其ノ他五拾錢
同	同	工作物巡視夜警ノ(自終業時)至始業時	日給一日分
技術部	同	夜間呼出電線路修繕作業	一時間ニ付日給八分ノ一

第八條 技術職員、技術従業員及備員ニシテ出勤時ニ遲參シタルトキハ三十分(及未滿ノ端數)ニ付、退出時ヨリ早退シタルトキハ一時間(及未滿ノ端數)ニ付日給八分ノ一ヲ歩引ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ勤務スルコトヲ許サス

- 一 技術職員、技術従業員及備員ニシテ三十分ヲ超ヘ遲參シタル者但シ所屬長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキ又ハ事情已ムヲ得サルモノアリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 酒氣ヲ帶フル者
- 三 所定ノ服裝ヲナササル者
- 四 他人ニ傳染シ又ハ就業ノ爲憎悪スル虞アル病氣若ハ急性熱病ニ罹リタル者及其ノ兆候アル者

〔大電〕

〔大電〕

十 業務上傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨係員ニ申出ツヘシ

十一 傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セムトスルトキハ事由ヲ具シ事緊急ヲ要スル場合ノ外必ス其ノ日ノ始業時前届出ツヘシ缺勤一週間以上ニ渉ル場合ハ疾病ニ依ルモノナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付シ其ノ他ノ事故ニ依ルモノナルトキハ其ノ事由ヲ具シ届出ツヘシ

十二 局構内又ハ所屬ノ箇所ニ於テ出火其ノ他ノ非常事變アルトキハ其ノ勤務時間中ナルトキハ直ニ現場ニ馳付ケ係員ノ指揮ヲ受ケ應急ノ處置ヲナスヘシ指揮ヲ受ケル邊ナキトキハ臨機ノ處置ヲナスヘシ

十三 公用其ノ他ノ爲電車ニ便乗スルトキハ一般ノ規則命令ヲ遵守スヘキハ勿論特ニ乗客ノ迷惑トナラサル様注意スヘシ

十四 電線路ノ架設軌道ノ敷設其ノ他ノ屋外工事中ハ通行人ノ妨害トナラサル様注意スヘシ

十五 自己又ハ其ノ保證人轉居改名改印シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

十六 保證人カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ直ニ所定ノ保證人ヲ定メ連署ノ上届出ツヘシ

十七 前各號ニ定ムルモノノ外事務員ニ在リテハ吏員服務心得ヲ遵守スヘシ

第十三條 技術職員及技術従業員中品行方正ニシテ業務ニ熟達シ來テ統制スルニ足ル者ヲ選拔シ工長又ハ組長ニ任命ス







第二條 職長及組長ハ現業員中品行方正ニシテ業務ニ熟達シ衆ヲ統制スルニ足ル者ヲ選抜シテ之ヲ命ス

第三條 職長ハ服務ニ關スル規程ヲ遵奉スルノ外所屬係員ヲ補佐シ係員不在ノ場合ハ其ノ要務ヲ代理シ共同使用物品ノ監視ニ任シ所屬組長及現業員ヲ指導シ其ノ秩序ノ維持ニ注意シ且ツ上長ノ旨ヲ承ケテ作業ノ過程施行ノ順序等ヲ所屬組長及現業員ニ指示スヘシ

第四條 組長ハ所屬員及職長ヲ補佐シ其ノ命ヲ承ケテ其ノ組内ノ共同使用物品ノ監視並現業員ノ指導及秩序ノ維持ニ注意シ且作業ノ過程施行ノ順序等所屬現業員ニ指示スヘシ

第二章 採用事項

第五條 志願者ハ志願書(第一號様式)、履歷書(第二號様式)、身分證明書及戸籍謄本(又ハ抄本)ヲ差出スヘシ

第六條 工場現業員ハ身體検査ニ合格シ左ノ年齢及資格ヲ有スル者ヨリ詮衡ノ上採用ス資格變更又ハ轉職ノ場合又同シ

一 技術職員 十八年以上 四十五年未満

工業學校又ハ同程度ノ學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者、五箇年以上當局技術從業員ニ在職シタル者若クハ優秀ナル技術ヲ有スル經驗者

一 技術從業員 十四年以上 四十年未満 尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者

一 備員 十四年以上 五十年未満 尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者

資格變更又ハ轉職ノ場合並第八條ノ二第一項第一號及第三號ニ依ル

退職者ニシテ所屬長ノ推薦アリタル者ヲ前職若クハ備員ニ採用スル場合ハ前項年齢ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ採用スルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ處分ヲ受ケタル者

二 破産者ニシテ未ダ復權セサル者

三 禁治産者又ハ準禁治産者

四 當局現業員懲戒規程ニ依リ懲戒解備ニ處セラレタル者

五 前職中酌量シ難キ不都合アリタリト認メタル者

第八條 現業員ニ採用セラレタル者ハ身元保證人二人ヲ定メ誓約書(第三號様式)ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ保證人中其ノ一人ハ大阪市内ニ一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者ニシテ本市ノ承認シタル者タルコトヲ要ス

第八條ノ二 現業員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職セシムルモノトス

一 六箇月ヲ超ユル兵役ニ應召シタルトキ

二 出缺常ナク業務ニ支障ヲ來スモノト認メタルトキ

三 傷病ノ爲引續キ百日ヲ超エテ缺勤シタルトキ又ハ六箇月間ニ百二十日ヲ超エテ缺勤シタルトキ但シ公傷病ニ因リ缺勤ニ關シテハ此限ニ在ラス

四 傷病以外ノ事由ニ因リ引續キ三十日ヲ超エテ缺勤シタルトキ又ハ二箇月間ニ四十日ヲ超エテ缺勤シタルトキ

五 前二號ヲ通シ其ノ缺勤第三號ニ該當シタルトキ

六 第七條各號ニ該當スルニ至リタルトキ

〔大電〕

〔大電〕

七 肺結核、喉頭結核、癩病又ハ癩癩其ノ他ノ精神病ニ罹リタルトキ

八 左ノ年齢ニ達シタルトキ

一 技術職員ニ在リテハ六十年

一 技術從業員ニ在リテハ五十五年 備員ニ在リテハ六十五年

九 退職ノ申出又ハ業務上ノ都合ニ依リ解備ノ必要アリト認メタルトキ

前項第三號乃至第五號ノ月ノ計算ニ關シテハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル期間ヲ以テ一箇月トス

第三章 服務心得事項

第九條 規定ニ遵ヒ所屬上員ノ命令ヲ服膺シ誠實ニ其ノ職務ニ從事スヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ勤務スル事ヲ許サス

一 勤務時限ニ遅參シタル者但シ三十分以内ノ遅參ハ此ノ限ニ在ラス

二 酒氣ヲ帶フル者

三 所定ノ服裝ヲ爲ササル者

四 他人ニ傳染スヘキ虞アル病氣ニ罹リタル者及其ノ兆候アル者

五 産後六週日ヲ經過セサル者

第十一條 所定ノ始業時限迄ニ出勤シ終業時限ヲ以テ業務ヲ終リ取片付タル後退出スヘシ出門ノ際守衛ニ於テ所持品検査ヲ行フトキハ柔順ニ之ニ應スヘシ

第十二條 勤務時間中ハ外來者ト面會スルコトヲ許サス但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ所屬係員ノ許可ヲ受ケヘシ

第十三條 執務ニ必要ナル機械器具ヲ大切ニ使用シ材料及消耗品ヲ節約スルニ努ムヘシ

第十四條 使用器具機械類ノ保存及掃除ニ注意シ破損又ハ紛失シタルトキハ直ニ所屬員ニ申出ツヘシ故意又ハ過失怠慢ニヨリ器具機械類其ノ他ノ物品ヲ毀損滅失又ハ紛失シタルトキ竝之ニ依リテ財物ヲ減少セシメタルトキハ相當ノ價格ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十五條 作業用材料其ノ他ノ消耗品ハ所屬係員ノ許可ヲ經タル後之ヲ使用スヘシ

第十六條 詰所及作業場ハ清潔ニ掃除シ特ニ火氣ニ注意スヘシ

第十七條 勤務中遺失物件ヲ拾得シタルトキハ直ニ當該係員ニ現場ノ届出ヲ爲シ且參考トナルヘキ事項アルトキハ同時ニ之ヲ報告スヘシ

第十八條 普通携帶品以外ノ私有物品ヲ構外ニ搬出セムトスルトキハ所屬係長又ハ主任ヨリ物品搬出證ノ交付ヲ受ケ之ヲ守衛詰所ニ提出スヘシ

第十九條 公用ノ爲臨時出門ヲ要スル場合ハ所屬係員ヨリ公用出門ノ證明ヲ受ケ守衛詰所ニ提示スヘシ

第二十條 就業時間中ニ病氣其ノ他已ムヲ得サル事情ニ依リ退出セムトスルトキハ係員ノ許可證ヲ受ケ之ヲ守衛ニ提示スヘシ

第二十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ日ノ午前中ニ之ヲ届出ツヘシ疾病ノ爲缺勤一週間以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付シテ之ヲ届出テ事故ノ爲缺勤一週間



以上ニ涉ルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ願出ツヘシ

第二十二條 勤務中ニ非スト雖局構内又ハ所屬ノ個所ニ於テ出火其ノ他非常事變アルトキハ直ニ現場ニ馳付ケ係員ノ指揮ニ依リ應急ノ處置ヲ爲スヘシ

前項係員ノ指揮ヲ受クル違ナキトキハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十三條 公用其ノ他ノ爲電車ニ便乗スル場合ハ一般ノ規則命令ヲ遵守スヘキハ勿論特ニ乘客ノ迷惑トナラサル様注意スヘシ

第二十四條 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨所屬係員ニ申出ツヘシ

第二十五條 自己又ハ其ノ保證人轉居、改名、改印シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第二十六條 保證人カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ直ニ相當ノ保證人ヲ定メ連署ノ上届出ツヘシ

第四章 勤務時間、休日、休暇事項

第二十七條 勤務時間ハ左ノ通トス但局長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

- 一 普通勤務者
  - (甲) 自四月一日 自午前七時 至午後四時
  - 自九月三十日 自午前八時 至午後五時
  - 自十月一日 自午前八時 至午後五時
  - 自三月三十一日 自午前八時 至午後五時
- (乙) 調度課被服所、工務部車輛課所屬ノ者
  - 一年ヲ通シ 自午前八時 至午後五時
- (丙) 調度課、電氣部電氣課

- 自四月一日 自午前八時 至午後五時
- 自七月十日 自午前七時 至午後四時
- 自九月十日 自午前八時 至午後五時
- 自九月十一日 自午前八時 至午後五時
- 自三月三十一日 自午前八時 至午後五時

二 特別勤務者

(イ) 工務部車輛課所屬ノ者(交替勤務)

- 甲勤務 一年ヲ通シ 自午前八時 至午後七時
- 乙勤務 同 自午後七時 至午前八時

(ロ) 電氣部電氣課變電所及開閉所所屬交替勤務者

- 甲勤務 自四月一日 自午前八時 至午後七時
- 自九月三十日 自午前八時 至午後七時
- 自十月一日 自午前八時 至午後六時
- 自三月三十一日 自午前八時 至午後六時

- 乙勤務 自四月一日 自午後七時 至午前八時
- 自九月三十日 自午後七時 至午前八時
- 自十月一日 自午後六時 至午前八時
- 自三月三十一日 自午後六時 至午前八時

(ホ) 電氣部電氣課發電所所屬ノ者

- 一 九條第一發電所所屬運轉作業従事者(交替勤務)
- 九條第二發電所所屬運轉作業従事者(交替勤務)
- 甲勤務 自四月一日 自午前八時 至午後七時
- 自九月三十日 自午前八時 至午後七時
- 自十月一日 自午前八時 至午後六時
- 自三月三十一日 自午前八時 至午後六時
- 乙勤務 自四月一日 自午後七時 至午前八時
- 自九月三十日 自午後七時 至午前八時

自十月一日 自午後六時 至午前八時

至三月三十一日 自午後六時 至午前八時

二 安治川發電所所屬運轉作業従事者

- 甲勤務 前號甲勤務ニ同シ
- 乙勤務 一年ヲ通シ 自午後一時 至午後十一時
- (ハ) 同發電所所屬機械手入作業従事者
  - 一年ヲ通シ 自午前七時 至午後三時三十分
- (ト) 同發電所所屬雜役従事者
  - 一年ヲ通シ 自午前八時 至午後五時

前項第一號(乙)(丙)及同第二號(イ)(ト)勤務者ニ對シテハ内一時間(ハ)勤務者ニ對シテハ三十分ヲ各其ノ休憩時間ニ充ツ

生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得

第二十八條 女子ヲシテ工場法第四條及第九條ノ禁止勤務ニ就カシムルコトヲ得ス

第二十九條 休日ハ左ノ通トス

大祭日、祝日、一月二日

前項ノ外毎月二十一日ヨリ翌月二十日ニ至ル一箇月間ニ公休二日ヲ給ス但其ノ月ノ勤務日數二十日未滿ノ者ニ對シテハ公休二日ノ内一日、十日未滿ノ者ニ對シテハ公休二日共其ノ給料ハ之ヲ支給セサルモノトス

第三十條 忌引シ得ヘキ親族並其ノ忌引期間左ノ如シ

親	族	期	籍内		籍外
			種別	戸籍	
續柄	種別	同一	同一	同一	同一
父母	血族又ハ準血族	七日間	七日間	七日間	七日間
配偶者	血族又ハ準血族	七日間	七日間	七日間	七日間
祖父母	血族又ハ準血族	三日間	三日間	三日間	三日間
子	血族又ハ準血族	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿
兄弟、姉妹	血族	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿
伯叔父母	準血族	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿
孫	血族	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿
	準血族	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿	年三以上未滿
	血族	二日間	二日間	二日間	二日間
	準血族	二日間	二日間	二日間	二日間
	血族	一日間	一日間	一日間	一日間
	準血族	一日間	一日間	一日間	一日間

忌引中ト雖モ所屬長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキハ忌引ヲ廢シ勤務セシムルコトアルヘシ

第三十一條 忌引日ハ出勤セサルモ日給ヲ支給ス

休日及忌引日ニ出勤ヲ命セラレ勤務シタル者ハ日給二分ヲ支給ス

第三十二條 出勤定時刻ニ遅參セシ者ハ三十分迄ハ日給九分ノ一歩引ス

第三十三條 早退ハ一時間又ハ其ノ端數毎ニ日給九分ノ一歩引ス

第三十四條 技術職員ニシテ毎年一月二十一日ヨリ七月二十日迄及七月二十一日ヨリ翌年一月二十日迄ノ毎六箇月間中缺勤、遅刻、早退



ヲ通シ五回ヲ超エサル者ニ對シテハ五日間ノ精勤休暇ヲ附與ス  
**第三十五條** 技術從業員及傭員ニシテ三箇月間中缺勤、遅刻、早退無キ者ニ對シテハ二日間ノ精勤休暇ヲ附與ス  
 前項ノ計算ニ關シテハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ヲ以テ一箇月トス

**第三十六條** 公傷病、交通遮斷ニ因ル缺勤ハ前二條ノ適用ニ關シテハ五日ヲ以テ一日トシ徵兵検査、簡閱點呼、勤務演習及其ノ往復ノ爲要スル最少日數ノ缺勤ハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス

**第三十七條** 精勤休暇ヲ廢シ勤務シタル場合ト雖モ第三十九條第二項ニ依ルノ外倍給又ハ増給ヲ爲サス

**第三十八條** 調査期間ノ中途ニ於テ他ノ現業員ニ轉職シタルトキハ現職ニ依リ調査決定ス

**第三十九條** 精勤休暇ハ之ヲ附與セラレタルトキヨリ一箇年以内ニ豫メ所屬長ノ許可ヲ得テ休暇スルモノトス  
 所屬長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキハ本休暇ヲ廢シ勤務セシムルコトアルヘシ

第五章 賃金事項

**第四十條** 日給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ毎月二十五日又ハ二十七日ニ之ヲ支給ス  
 但支給日カ休日ニ相當スルトキハ繰下トス

**第四十一條** 新任ハ職務ニ就キタル當日ヨリ轉任又ハ増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算ス

**第四十二條** 日給ハ執務ノ日數ニ依リ之ヲ給ス休日若ハ公務ノ爲負傷

**第四十八條** 勤績給與金ハ三年以上勤績シタル者ニ之ヲ給與ス  
 勤績三年ノ者ハ年額金二十五圓トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

**第四十九條** 勤績給與金ハ六箇月毎ニ年額ノ二分ノ一ヲ給與ス但退職又ハ死亡ノ際ハ六箇月未滿ノ端數ニ對シテハ之ヲ給與セス

第六章 褒賞事項

**第五十條** 褒賞ノ種類及方法左ノ如シ

- 一 賞狀 局長自署シ且拾五圓以上百圓以下ノ賞狀ヲ附與ス
- 二 賞金 拾圓以下文書其ノ他ノ方法ヲ以テ本人ニ通知ス
- 第五十一條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ賞狀ヲ授與ス
  - 一 勤務成績優秀ニシテ一般現業員ノ模範トナルヘキ善行アリタル者
  - 二 特殊ノ技能又ハ考案ニ依リ事業上裨益ヲ與ヘタル者
  - 三 事業上ノ事故ニ際シ危険ヲ冒シ人ヲ救助シタル者
  - 四 天災其ノ他非常事變ニ際シ事業上特ニ功勞アリタル者
  - 五 前各號ニ準スヘキ行爲アリタル者

前項ニ依リ賞狀ヲ受ケタル者ニシテ電氣局長ニ於テ特ニ表彰ノ必要アリト認メタルモノニ對シテハ賞牌ヲ佩用セシムルコトアルヘシ賞牌ハ之ヲ交付シタル日ヨリ六箇月間佩用セシムルモノトス但第七章懲戒事項ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ褫奪ス

**第五十二條** 成績優良ニシテ三箇月間缺勤、遅刻、早退ナク且懲戒處分ヲ受ケサル者又ハ其ノ處分ヲ受ケ之カ執行中ニアラサル者ニ對シ

シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ執務セスト雖モ之ヲ給ス但休日ハ其ノ前日勤務セシモノニアラサレハ之ヲ給セス  
 職工工夫扶助規程ノ適用ヲ受ケル者公務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ執務セサルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

**第四十三條** 傳染病發生ノ際交通遮斷セラレシモノハ執務セスト雖モ其ノ日數ニ應シ給料ヲ支給スルモノトス

**第四十四條** 電氣局現業員(事務雇員ヲ除ク)ノ徵兵検査受檢及兵役應召ニ關スル給與ハ左ノ通トス

種別	徵兵検査	簡閱點呼	勤務召集
給與	當日ニ限り當日ニ限り	應召期間及往復最短日數ヲ通算シ三十日ヲ限リ給料相當額ヲ支給ス但陸海軍給與令ニ依リ給料ヲ受ケタルトキハ之ヲ控除ス	
支給ス	當日ニ限り		

**第四十五條** 月給者又ハ一年志願兵ニシテ甲種勤務ノ爲召集セラレタルモノニ對シテハ前條ノ給與ハ之ヲ爲サス

**第四十六條** 兵役應召ニ關スル往復最短日數ノ計算ハ陸軍旅費規則第七條ニ依ル

**第四十七條** 定時間外勤務セシモノニ對シテハ一時間ニ付日給九分ノ一ノ割合ニヨリ歩増給料ヲ支給ス但一時間未滿ハ之ヲ切捨ツ  
 交替徹夜勤務以外ノ特別徹夜勤務ヲ爲シタル場合ハ歩増給料ノ外ニ日給九分ノ二ヲ加給ス  
 第二十七條第二號(イ)勤務者ノ定時間ハ九時間トシ(ロ)(ホ)勤務者ノ定時間ハ八時間トス

テハ賞金參圓ヲ授與ス  
 徵兵検査及簡閱點呼ノ當日及忌引ハ前項ノ適用ニ就テハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス  
 本條ノ調査ハ毎年六月、九月、十二月及翌年三月(毎月二十日現在)ノ四期トシテ前三箇月間ノ成績ニ依ル

**第五十三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ賞金ヲ授與ス  
 一 第五十條第一項ノ行爲アリタルモ賞狀ヲ與フルニ至ラサル者

- 二 事業上ノ事故ヲ未然ニ防キタル者又ハ其ノ發生ニ當リ應急機宜ノ處置ヲ執リタル者
- 三 職務ニ關聯スル不正者ヲ發見シ又ハ其ノ調査ニ特ニ功勞アリタル者
- 四 需用家ニ對シ事業上第三者ノ爲シタル不正行爲ヲ發見シタル者
- 五 需用家ニ對シ親切叮嚀ニシテ現業員ノ模範トナルヘキ者
- 六 需用家ノ不穩當ナル言行ニ對シ克ク之ニ耐ヘ其ノ職務ヲ全クシタル者
- 七 前各號ニ準スヘキ行爲アリタル者

第七章 懲戒事項

**第五十四條** 懲戒ノ種類、方法及其ノ輕重順序左ノ如シ

- 一 解僱 日給五錢乃至十五錢 文書ヲ本人ニ交附ス
- 二 減給 日給五錢乃至十五錢 文書ヲ本人ニ交附ス
- 三 過怠金 五圓 以下 文書其ノ他ノ方法ヲ以テ本人ニ通告ス
- 四 譴責
- 五 訓戒 口頭ヲ以テス

**第五十五條** 懲戒處分ニ該當スル所爲アリタルモノニ對シテハ情狀ニ



依リ其ノ決定前出勤停止ヲ命スルコトヲ得出勤停止期間ハ之ヲ缺勤トシテ取扱フ

第五十六條

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ解僱ニ處ス

- 一 局内ノ秩序ヲ亂シ不穩ノ言動アリタル者
- 二 不正行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメ若クハ之ヲ幫助シタル者
- 三 數次規定又ハ命令ニ違背シ改悛ノ狀ナキ者
- 四 故意ニ事故ヲ發生セシメタル者
- 五 出勤常ナク業務上ニ支障ヲ及ボス者
- 六 職務ヲ拋棄シ又ハ正當ノ理由ナクシテ引續キ二十日以上缺勤シタル者
- 七 一定ノ期間就職ノ義務アルモノニシテ期間内ニ辭職ヲ敢行セムトスル者
- 八 現業員タル體面ヲ汚ス行爲アリタル者

第五十七條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ解僱又ハ減給ニ處ス

- 一 事業上ニ關シ制規ノ手續ヲ經ヌシテ第三者ニ不當ノ利益ヲ與ヘ又ハ損害ヲ加ヘタル者
- 二 無賃乗車ヲ爲サシムル目的ノ爲必要ナル物件ヲ他人ニ交附シタル者
- 三 過失又ハ怠慢ニヨリ重大ナル事故ヲ發生セシメタル者
- 四 職務ノ執行ニ際シ需用家若ハ其ノ他ノ者ニ暴言又ハ暴行ヲ加ヘタル者
- 五 火氣又ハ發火ノ虞アルモノノ取扱ヲ忽ニシ因テ危險ヲ發生セシメタル者

- 六 貸與品ヲ讓渡又ハ轉貸シ若ハ之ヲ擔保ニ供シタル者
- 七 故ナク職員證ヲ呈示セサル者
- 八 職員證ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ讓渡シタル者
- 九 猥ニ他人ヲシテ自己ノ職務ヲ執行セシメ又ハ他人ノ職務ヲ執行シタル者
- 一〇 遺留品ノ届出ヲ爲サス又ハ之ヲ怠リタル者
- 一一 事故ヲ隱蔽シ又ハ其ノ届出ヲ怠リタル者並ニ之カ應急處置ヲ爲ササリシ者
- 一二 他人ノ職務ヲ妨害シタル者

第五十八條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ減給以下ニ處ス

- 一 職員證ヲ紛失シタル者
- 二 過失又ハ怠慢ニ因リ事故ヲ發生セシメタル者
- 三 過失又ハ怠慢ニ因リ器具機械其ノ他貸與品ヲ紛失又ハ毀損シタル者
- 四 勤務中制規ノ服裝ヲ爲サス又ハ所定以外ノ徽章ヲ佩用セル者
- 五 猥ニ勤務場所ヲ離レ若ハ勤務上不必要ナル談話ヲ爲シタル者
- 六 勤務ニ必要ナル物品ヲ携帯セス又ハ不必要ナル物品ヲ携帯シタル者
- 七 前各號ニ準スヘキ者

第五十九條

前各號ノ處分ハ其ノ情狀ヲ斟酌シテ之ヲ加減量定スルコトヲ得

附則

本規則第四十四條乃至第四十六條及第五十二條第二項ノ規定ハ大正十

五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第五條乃至第八條ノ二ハ昭和二年七月一日(但シ第八條ノ二第一項第七號ハ昭和三年一月一日ヨリ同第八號ハ同年十月一日ヨリ)、第三十條ハ昭和二年五月二十五日ヨリ施行ス

(第一號様式)

志願書

現住所

氏

名

私儀今般貴局(何々)志願ニ付御採用被成下度別紙履歷書、身分證明書及戶籍謄本(又ハ抄本)相添此段相願候也

年月日

右

氏

名

大阪市電氣局長 殿

(一)、本志願書ハ自筆ノコト、二、用紙ハ美濃型白紙又ハ罫紙

(第二號様式)

履歷書

本籍

現住所

族籍

氏

名

年月日生

一 學業及其ノ他經歷

第三類 人事

第三章 勤務

一賞罰  
右之通相違無之候也

年月日

右 氏

名

(第三號様式)

參錢收

入印紙

誓約書

私儀今般御市電氣局現業員ニ採用相成候ニ付左ノ件々誓約仕候

第一條 御市ノ命令規則ヲ遵守シ忠實ニ勤務可仕候

第二條 勞務ノ條件若ハ報酬等ニ關スル御市ノ方針ニ對シ不穩ノ言動ヲ致間敷候

第三條 御市ノ物品又ハ被服其ノ他ノ貸與品ヲ紛失毀損シタルトキハ御市ノ指定ニ從ヒ辨償可致候

第四條 前各條ニ違背シタルニ依リ又ハ御市規定ノ定ムルトコロニ依リテ懲戒又ハ解僱セラルルハ固ヨリ異議無之候

第五條 解職、退職、轉職又ハ死亡シタルトキハ速ニ貸與品ノ全部ヲ返納可致候萬一之ヲ履行セサルトキハ直ニ相當手續セララルモ異議無之候

年月日

本籍

現住所

本籍

現住所



本人

年月日生

右本人前記誓約ニ違背シ又ハ不都合ノ所爲アリタルトキハ保證ノ責ニ任スヘキハ勿論一切保證人ニ於テ引受御迷惑相掛申間數仍テ本人及保證人連署ノ上誓約仕候也

住所

保證人

年月日生

大阪市電氣局長 殿

### 第二節 勤務時間、休暇日及忌服

#### ●勤務時間及休暇規程

制 定 昭一一、三、一二達 三六

最近改正 昭一一、六、一五達 一三九

勤務時間及休暇規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勤務時間及休暇規程

第一條 本市吏員及雇傭員ノ勤務時間及休暇ハ別ニ定アルモノノ外本規程ニ依ル

第二條 吏員及雇傭員ノ勤務時間及公休日ハ各其ノ勤務ヲ命セラレタル箇所ノ執務時間又ハ供用時間及休日ノ定ニ依ルノ外別表ニ依ル但シ臨時傭員ニ對シテハ公休ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第三條 前條ノ規定ニ依ル公休日ノ外吏員及雇傭員(臨時傭員ヲ除ク)ニ對シテハ普通休暇及特別休暇ヲ與フ

第四條 普通休暇ハ左ノ標準ニ依リ事務ニ支障ナキトキ之ヲ與フ

一 吏員及之ニ準スル者 一年 十日以内

二 雇員及事務ニ従事スル傭員(給仕使丁ヲ含ム) 一年 七日以内

前項ノ休暇ニ付テハ毎年六月一日ヨリ翌年五月末日迄ヲ以テ一年トス

勤務一年未滿ノ場合ニ在リテハ標準休暇日數ハ勤務ノ月ヨリ起算シ

〔大電〕

タル月數ニ比例シ算定シタル日數ニ依ル但シ一日未滿ハ之ヲ切捨

資格變更ノ場合ニ在リテハ變更後ノ資格ニ依ル標準休暇日數ト既給

#### 第五條 特別休暇左ノ如シ

- 一 徴兵検査及簡閱點呼日 其ノ當日
- 二 演習召集及教育召集應召期間 三十日以内
- 三 父母ノ祭日 其ノ當日
- 四 配偶者ノ父母ノ死亡ニ因リ出勤シ能ハスト認ムルトキ 二日以内

前項第四號ノ場合ニ於テハ市吏員並雇員忌服規程第二條第二項及第三條ノ規定ヲ準用ス

第六條 休暇ヲ受ケントスル者ハ豫メ局、部、課、課、區長ニ在リテハ市長、其ノ他ノ者ニ在リテハ所屬長ノ承認ヲ經テ休暇ヲ受ケヘキ日ノ前日迄ニ届出ツヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ當日執務時間中ニ之ヲ届出ツヘシ

別表

所管	勤務箇所	名	稱	勤	務	時	間	公	休
秘				七月二十一日迄	午前七時三十分ヨリ午後四時迄			大祭祝日	
				八月三十一日迄	午前七時三十分ヨリ午後十時迄			曜日	

第七條 普通休暇中忌服シタル場合ハ當該忌服日數ハ之ヲ休暇日數ニ算入セス

第八條 事務上必要アルトキハ各局、部、課、課、區長ハ勤務時間外又ハ休暇日ト雖勤務ヲ命スルコトヲ得

第九條 電氣局ノ吏員及雇員中特別勤務者ノ勤務時間及休暇日ハ電氣局長之ヲ定ム

第十條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ各局、部、課、課、區長之ヲ定ム

附則

左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

昭和五年達第一〇八號雇員其ノ他常備ノ日給者休暇方ノ件

昭和八年達第一三號有給吏員休暇方ノ件

附則 (昭一一、六、達一三九)

大正七年達第三五號港灣部所屬工場員、現場監督員並船艇員執務時間及休暇日ハ之ヲ廢止ス







水	部		灣	
			現場及工場	港灣部
	大船橋開閉作業 従事員		工場勤務ノ守衛	
普通勤務 事業所執務時間ニ依ル 特別勤務 甲 勤 乙 勤 丙 勤 甲、乙、丙ノ三交替勤務トス	甲 勤務 午後三時三十分迄	乙 勤務 午後零時三十分迄	甲 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄 乙 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄 甲 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄	甲 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄 乙 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄 甲 勤務 四月三十一日迄 翌年三月三十一日迄
普通勤務出勤時刻ヨリ 午後五時三十分迄	午後三時三十分迄	午後零時三十分迄	午前七時三十分迄 翌日午前八時迄	午前七時三十分迄 翌日午前七時迄
職員 大祭祝日 月三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	月三日以内	月三日以内	月三日以内	月三日以内

〔大電〕

部	木	土	部	道
動此大城中天櫻扇 物花阪北之玉宮町 園園公公園園園	吏員及雇員	スノ工事係道務津安 ヘ他之現場出路所川治 キ場準其修繕繕及 場所其繕繕事木	及事 詰業 所所	及事 詰業 所所
		吏員及雇員	職職	職職
			夫員	夫員
六月ヨリ八月迄	九月、十月、十一月迄	十二月三十一日迄	第一班 午後四時迄	夜勤 翌日出勤時刻ヨリ
午後五時三十分迄	午後七時三十分迄	午後四時三十分迄	第二班 午後十二時迄	乙 勤 午後四時迄
午後七時三十分迄	午後八時三十分迄	午後四時三十分迄	第三班 翌日午前八時迄	第一班 午後八時迄
右ニ同シ	大祭祝日 月三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	大祭祝日 月三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	職夫 大祭祝日 水道職夫 月三日以内 但シ乙特別勤務者ハ月二日以内 常備職夫 月二日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	職夫 大祭祝日 水道職夫 月三日以内 但シ乙特別勤務者ハ月二日以内 常備職夫 月二日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄



社	部	育	教
市民館	記念館	明治天皇	
診療従業員	事務員以上	雇員	員及
第一班	七月二十一日迄	七月二十一日迄	七月二十一日迄
第二班	七月三十一日迄	七月三十一日迄	七月三十一日迄
右ニ同シ	大祭祝日	日	日

〔大電〕

保	雜	保
姆	役	育
姆	夫	従
姆	夫	業
姆	夫	員
第一班	七月二十一日迄	託兒所保姆ノ勤務時間ニ依ル
第二班	七月三十一日迄	但シ託兒施設アル市民館ニ在リテハ託兒所雜役夫ノ勤務開始時刻ニ依ル
右ニ同シ	大祭祝日	日

〔大電〕



託兒所		雜役夫		保護所
七月二十一日迄	午後四時迄	七月二十一日迄	午後六時迄	第一班 午前九時ヨリ 午後五時迄
八月三十一日迄	午後四時迄	八月三十一日迄	午後六時迄	第二班 午後二時ヨリ 午後十時迄
九月三十一日迄	午後五時迄	九月三十一日迄	午後七時迄	輪番ニ依リ右ノ勤務ニ従事ス
十月三十一日迄	午後五時三十分迄	十月三十一日迄	午後七時三十分迄	
十一月三十一日迄	午後六時迄	十一月三十一日迄	午後八時迄	
翌年三月三十一日迄	午後六時三十分迄	翌年三月三十一日迄	午後八時三十分迄	
四月二十一日迄	午後七時迄	四月二十一日迄	午後九時迄	
七月二十一日迄	午後七時三十分迄	七月二十一日迄	午後九時三十分迄	
八月三十一日迄	午後八時迄	八月三十一日迄	午後十時迄	
九月三十一日迄	午後八時三十分迄	九月三十一日迄	午後十一時迄	
十月三十一日迄	午後九時迄	十月三十一日迄	午後十二時迄	
十一月三十一日迄	午後九時三十分迄	十一月三十一日迄	午後一時迄	
翌年三月三十一日迄	午後十時迄	翌年三月三十一日迄	午後二時迄	
右ニ同シ		右ニ同シ		吏員及雇員 月四日以内 備員 月三日以内

〔大電〕

住宅事務所 西成共同住宅		労働紹介所		會 質 舗
職 員	大 工、手 傳、 夫	所 員	所 員	雜 役 夫
住宅事務所ノ執務時間ニ依ル	午前八時ヨリ 午後五時迄	第一班 四月三十一日迄 十月三十一日迄 十一月三十一日迄 翌年三月三十一日迄	第二班 午前十二時ヨリ 午後八時迄	甲勤務 午前十時ヨリ 午後六時迄 乙勤務 午前十二時ヨリ 午後八時迄 午前十時ヨリ 午後六時迄 但シ質舗内ニ居住スル者ハ午前十一時三十分ヨリ午後八時迄トス
毎月其ノ月ニ於ケル日曜日及祝祭日ニ相當スル日數以内	月 三日以内	吏員及雇員 毎月其ノ月ニ於ケル日曜日及祝祭日ニ相當スル日數以内 一月一日ヨリ一月三日迄 備員 月三日以内 一月一日ヨリ一月三日迄	備員 月三日以内 一月一日ヨリ一月三日迄	大祭祝日 毎月八日及二十三日 一月一日ヨリ一月五日迄 右ニ同シ

〔大電〕



宿 泊 所			
主任者	事務員以上	守 衛	雑 役 夫
甲勤務 午前 九 時ヨリ 午後 六 時迄 乙勤務 午前 十二時ヨリ 午後 九 時迄 毎日交替勤務スルモノトス	甲勤務 午後 二 時ヨリ 午後 十 時迄 乙勤務 午後 十二時ヨリ 午後十一時迄 丙勤務 午前 六 時ヨリ 午後 十二時迄 甲乙毎日交替勤務トシ乙勤務ノトキハ宿直シ 翌日丙勤務ニ服スルモノトス	甲勤務 午後 四 時ヨリ 午後十一時迄 乙勤務 午後 十 時ヨリ 翌日午前九時迄 一週間毎ニ交替勤務スルモノトス	イ 雑務ニ従事スル者 甲勤務 午前 八 時ヨリ 午後 五 時迄 乙勤務 午前 五 時ヨリ 午後 十二時迄 甲勤務ヲ原則トシ中一名交替宿直ノ上翌日乙勤務ニ服ス ロ 汽罐、浴場ニ従事スル者
月 四日以内	月 三日以内	右ニ同シ	右ニ同シ

寄 宿 寮		
主任者	事務員以上	雑 役 婦
甲勤務 午前 九 時ヨリ 午後 五 時迄 乙勤務 午前 十二時ヨリ 午後 九 時迄 毎日交替勤務スルモノトス	甲勤務 午前 十二時ヨリ 午後十一時迄 乙勤務 午前 七 時ヨリ 午後 十二時迄 甲勤務ヲ原則トシ中一名交替宿直ノ上翌日乙勤務ニ服ス	イ 裁縫ニ従事スル者 午前 八 時ヨリ 午後 五 時迄 ロ 接待ニ従事スル者 甲勤務 午前 十 時ヨリ 午後 七 時迄 乙勤務 午前 六 時ヨリ 午後 三 時迄 丙勤務 午後 二 時ヨリ 午後 十一時迄 甲乙丙順次毎日交替スルモノトス
毎月其ノ月ニ於ケル日曜日及祝祭日ニ相當スル日數以内	右ニ同シ	右ニ同シ



部				
寮 舎				
雑 役 夫	事務員以上	主任者	雑 役 婦	雑 役 夫
イ 雑務ニ従事スル者 甲勤務 午前 九 時ヨリ 午後 五 時迄 乙勤務 午後 九 時ヨリ 翌日午前八時迄	甲勤務 午前 十二時ヨリ 午後 十一時迄 乙勤務 午前 七 時ヨリ 午 十二時迄 甲勤務ヲ原則トシ中一名交替宿直ノ上翌日乙勤務ニ服ス	甲勤務 午前 九 時ヨリ 午後 五 時迄 乙勤務 午 十二時ヨリ 午後 九 時迄 毎日交替勤務スルモノトス	甲勤務 午前 七 時ヨリ 午後 四 時迄 乙勤務 午前 十 時ヨリ 午後 七 時迄 毎日交替勤務スルモノトス	甲勤務 午前 九 時ヨリ 午後 五 時迄 乙勤務 午後 九 時ヨリ 翌日午前八時迄 一週間毎ニ交替勤務スルモノトス
月 三日以内	右ニ同シ	毎月其ノ月ニ於ケル日曜及祝祭日ニ相當スル日數以内	右ニ同シ	月 三日以内

〔大電〕

保				
健康相談所	乳 兒 院		産 院	雑 役 夫
雑 役 夫	雑 役 夫	保 育 婦	雑 役 夫	雑 役 夫
乳兒院雑役夫ニ同シ	四月 月 三十一日ヨリ 午後七時三十分ヨリ迄 十一月 月 三十一日ヨリ 午後四時三十分ヨリ迄 翌年 三月 三十一日ヨリ 午後八時三十分ヨリ迄	四月 月 三十一日ヨリ 午後五時ヨリ迄 十一月 月 三十一日ヨリ 午後九時ヨリ迄 翌年 三月 三十一日ヨリ 午後五時ヨリ迄	四月 月 三十一日ヨリ 午後七時三十分ヨリ迄 十一月 月 三十一日ヨリ 午後四時三十分ヨリ迄 翌年 三月 三十一日ヨリ 午後八時三十分ヨリ迄	口 一週間毎ニ交替勤務スルモノトス 汽罐、浴場ニ従事スル者 午 十二 時ヨリ 午後 十一 時迄 甲勤務 午前 七 時ヨリ 午後 四 時迄 乙勤務 午前 十 時ヨリ 午後 七 時迄 毎日交替勤務スルモノトス
大 祭 祝 日 十二月二十九日ヨリ翌年一月三日迄	大 祭 祝 日 月 三日以内 十二月二十九日ヨリ翌年一月三日迄	大 祭 祝 日 月 四日以内 十二月二十九日ヨリ翌年一月三日迄	月 四日以内	右ニ同シ

〔大電〕



保刀養根所山		尿尿汲取			保刀養根所山	
雑役夫		公共便所掃除夫	自動車及船舶乗務者	尿尿汲取工夫	職員	雑役夫
四月三十一日迄	十月三十一日迄	十月三十一日迄	六月三十一日迄	午前七時ヨリ	午前八時ヨリ	四月三十一日迄
午前七時三十分ヨリ	午後五時ヨリ	午前六時三十分ヨリ	午後三時ヨリ	午後四時迄	午後四時迄	午前七時三十分ヨリ
大祭祝日	月三日以内	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	大祭祝日
大祭祝日、一、四、五、八、九及十一月ハ各其ノ月ノ一日、二、三、六、七、十及十二月ハ各其ノ月ノ一日、二日以内 右ノ外勤務格別勉勵ナル者ニ對シテ八月一日ノ特別公休ヲ與フ						

〔大電〕

健

葬儀所		事業所及	
職員	職員	清掃區従業員	清掃區従業員
十月三十一日迄	十月三十一日迄	十月三十一日迄	十月三十一日迄
午前十時ヨリ午後八時迄	午後八時ヨリ	午前六時三十分ヨリ	午後三時三十分迄
右ニ同シ	月四日以内	右ニ同シ	右ニ同シ

〔大電〕



取跑 扱衣 所物		屠 場			
職 夫	職 員	職 夫	職 員		
四月三十一日迄 十一月三十日迄 翌年三月三十一日迄	市役所勤務時間ニ依ル但シ木津川消毒焼却場 勤務者ハ職夫ニ同シ	五月三十一日迄 十一月三十日迄 翌年四月三十日迄	七月二十一日迄 八月三十一日迄 九月三十一日迄 十月三十一日迄 十一月三十日迄 但シ一年ヲ通シ土曜日ハ午十二時迄トス	七月二十一日迄 八月三十一日迄 九月三十一日迄 十月三十一日迄 十一月三十日迄	七月二十一日迄 八月三十一日迄 九月三十一日迄 十月三十一日迄 十一月三十日迄
右ニ同シ	大祭 祝 日(一月五日ヲ除ク) 月 三日以内 一月一日ヨリ一月三日迄	右ニ同シ	大祭 祝 日 月 三日以内 十二月三十一日ヨリ翌年一月三日迄		

〔大電〕

〔大電〕

部				
病 院	防疫 消毒所	家畜 市場		
職 員	消毒作業ニ従事 スル吏員及履傭 員	職 夫	職 員	
丁 監守長及給仕使 七月二十一日迄 七月三十一日迄	四月三十一日迄 十月三十一日迄 翌年三月三十一日迄	九月三十一日迄 十月三十一日迄 翌年三月三十一日迄	執務時間ニ依ル	
午後四時ヨリ迄 午後八時ヨリ迄	午前七時三十分ヨリ迄 午後五時五十分ヨリ迄 午後八時ヨリ迄	午前二時三十分ヨリ迄 午後六時三十分ヨリ迄 午後三時三十分ヨリ迄	大祭 祝 日 月 三日以内 年末及年始ニ各一日	
大祭 祝 日 月 三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	大祭 祝 日 月 三日以内 年末及年始ニ各一日	右ニ同シ	吏員及履傭 大祭 祝 日 年末及年始ニ各一日 備員 大祭 祝 日 皆勤一月以上ノトキ一日 年末及年始ニ各一日	



業		從電氣作業員		守衛	
火機	雜役	從電氣作業員	從電氣作業員	守衛	守衛
夫手	夫	員	員	衛	衛
午前八時ヨリ午後五時迄 煖房作業期間中ハ交替ニ宿直ス	午前七時ヨリ 午後五時迄	甲班 四月三十一日ヨリ迄 乙班 十一月三十一日ヨリ迄 丙班 十一月三十一日ヨリ迄	甲班 四月三十一日ヨリ迄 乙班 十一月三十一日ヨリ迄 丙班 十一月三十一日ヨリ迄	甲班 七月三十一日ヨリ迄 乙班 九月三十一日ヨリ迄 丙班 十一月三十一日ヨリ迄	甲班 七月三十一日ヨリ迄 乙班 九月三十一日ヨリ迄 丙班 十一月三十一日ヨリ迄
右ニ同シ	右ニ同シ	大祭祝日 月三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	大祭祝日 月三日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	月二日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄	月二日以内 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄

產		電話交換手	
甲班	乙班	甲班	乙班
七月二十一日ヨリ迄	七月二十一日ヨリ迄	七月二十一日ヨリ迄	七月二十一日ヨリ迄
午前六時ヨリ	午前六時ヨリ	午前六時ヨリ	午前六時ヨリ
午後八時迄	午後八時迄	午後八時迄	午後八時迄
右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ	右ニ同シ







所役區	九月一日ヨリ 翌年七月二十日迄	午後七時ヨリ 翌日午前八時迄	市役所給仕ニ同シ
區役所	同上	同上	同上
使給	同上	同上	同上
丁仕	同上	同上	同上

事務ニ従事スル備員ハ本表ノ適用ニ關シテハ雇員ノ例ニ依ル

### ● 電氣局特別勤務者勤務時間及 休暇日規程

制定 昭一、四、三〇達電二八

電氣局特別勤務者勤務時間及休暇日規程左ノ通相定メ昭和十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局特別勤務者勤務時間及休暇日規程

第一條 電氣局所屬吏員及雇員ニシテ普通勤務時間ニ依ラサル特別勤務者ノ勤務時間及休暇日ハ本規程ニ依ル

第二條 特別勤務ノ種別及勤務時間左ノ如シ

- 一 甲勤務
  - 一年ヲ通シ 自午前八時 至午後五時
- 二 乙勤務
  - 自七月十一日 至九月十日 自午前八時 至午後四時
  - 自九月十一日 至翌年七月十日 自午前八時 至午後五時
- 三 丙勤務

- 四 丁勤務
  - 自七月十一日 至九月十日 自午前七時 至午後四時
  - 自九月十一日 至翌年七月十日 自午前八時 至午後五時
- 一日 十二時間
- 五 戊勤務
  - 自四月一日 至十月三十日 自午前八時 至午後五時
  - 自十一月一日 至翌年三月三十一日 自午前九時 至午後五時

第三條 特別勤務者ノ休暇日左ノ如シ

- 一 甲、丙勤務
  - 祝日、祭日、一月一日、一月二日
  - 一月ニ付公休日三日
- 二 乙、丁勤務
  - 一月ニ付公休日三日
- 三 戊勤務
  - 普通勤務者ニ同シ
  - 公休日ハ出勤日數十日未滿ノ月ハ一月ニ付一日、二十日未滿ノ月ハ一月ニ付二日トス

〔大電〕

在リテハ月ノ二十一日ヨリ翌月二十日迄ヲ一期トシテ計算ス

第四條 丁勤務ハ一晝夜隔日勤務トシ普通勤務者ノ出勤時間ヲ以テ交替ス但シ當該所屬部、課長ニ於テ業務上必要アリト認ムルトキハ庶務課長ノ承認ヲ得テ交替時間ヲ繰上ケ又ハ繰下ケ或ハ晝間勤務又ハ夜間勤務ノ日勤ト爲スコトヲ得

第五條 第二條ノ出勤退出時間ハ當該所屬部、課長ニ於テ業務上必要アリト認ムルトキハ庶務課長ノ承認ヲ得テ三月以内ノ期間ニ限り勤務時間割合ヲ以テ繰上ケ又ハ繰下ケルコトヲ得

第六條 業務上必要アルトキハ當該所屬部、課長ハ時間外又ハ休日勤務ヲ命スルコトヲ得

第七條 特別勤務者左ノ如シ

庶務課	同	守衛
電氣課	同	配電係指令室係員
	同	發電係現場員
主計部計理課	甲勤務	營繕係現場員
同 部購買課	同	被服工場員
運輸部業務課	丙勤務	印刷工場員
	丁勤務	運輸事務所勤務計算員
同 部電車課	同	高速係驛員
	同	運輸係員
	同	監督係員
	同	乘客係員
同 部自動車課	同	運輸係員

同 部車輛課	同	車庫係員及出張所員
同 部工務課	同	工場員
同 部電車運輸事務所	同	改良工事及軌道工作出張所員
同 部自動車運輸事務所	同	保線出張所員
同 部營業課	同	電線路係員及電線路出張所員
同 部內線課	同	所員及出張所員
同 部外線課	同	所員及出張所員
同 部電燈營業所	同	陳列所員
		修理工場員
		出張所及詰所員
		工事掛員

大正十三年達電第一四號職員特別勤務者ノ執務時間及休暇日ハ之ヲ廢止ス

### ● 運輸職員、運輸從業員休暇規程

制定 昭二、三、一九達電二一  
最近改正 昭七、六 達電三六



運輸職員、運輸従業員休暇規程左ノ通制定シ昭和二年二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

運輸職員、運輸従業員休暇規程

第一條 運輸職員ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ノ間ニ三日間ノ公休ヲ附與ス但シ中途就職者及缺勤者ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ附與ス

一 月ノ二十二日ヨリ翌月一日迄ノ間ニ就職セシ者 二日

二 月ノ二日ヨリ十一日迄ノ間ニ就職セシ者 一日

三 缺勤六日以上十日以内ノ者 二日

四 缺勤十一日以上二十日以内ノ者 一日

中途就職シタル者ニシテ缺勤アル場合ハ前項ノ割合ニ依ル一日未滿ハ之ヲ切捨ツ

第二條 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車運轉手、自動車車掌補及自動車運轉手補ノ勤務ハ八日間ヲ以テ一循環トシ七日間皆勤ノ者ニ對シ最終日ニ公休ヲ附與ス但シ其ノ期間ノ中途ニ就職シタル者ニ在リテハ四日以上勤務シタル場合ニ於テ所屬組ノ公休日ニ之ヲ附與ス

第三條 前條ノ運輸従業員ニシテ勤務ノ都合ニ依リ其ノ所屬組ヲ轉シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依リ休暇ヲ附與ス

一 新所屬組ノ第一次公休日力經過勤務日數七日未滿ニシテ到達スル場合ハ勤務日數四日以上ノ者ニハ該公休日ヲ公休トシ三日以内ノ者ニハ該公休日ヲ無給休トス

二 新所屬組ノ第一次公休日力經過勤務日數七日以上ニシテ到達スル場合ハ八日目ニ公休ヲ附與シ該公休日ヨリ組ノ公休日迄ノ勤務日數四日以上ナルトキハ該公休日ヲ公休トシ三日以内ナルトキ

務日數四日以上ナルトキハ該公休日ヲ公休トシ三日以内ナルトキハ該公休日ヲ無給休トス

第四條 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補及電車車掌助手ニシテ運輸事務所ノ新設、廢止又ハ移轉ノ爲轉勤ヲ命セラレタル場合勤務上其ノ住所ヲ新勤務場所附近ニ移轉スル必要アルニ依リ所屬長ノ許可ヲ得テ轉勤發令ノ日ヨリ六十日以内ニ移轉スルトキハ其ノ移轉當日一日間ノ休暇ヲ附與スルコトヲ得但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 從前ノ住所カ新勤務場所ヨリ二千米突以内ナルトキ

二 新勤務場所ト新住所トノ距離カ二千米突ヲ超ユルトキ

第五條 第二條以外ノ運輸従業員ノ公休ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ノ間ニ三日トス但シ一月ヲ二十一日ヨリ其ノ月ノ末日迄、翌月一日ヨリ十日迄及翌月十一日ヨリ二十日迄ノ三期ニ分チ各期公休一日宛トシ前期ニ缺勤アルトキハ其ノ期ノ公休ヲ附與セス月ノ中途ニ就職シタル者ハ就職ノ日ヨリ十日以上勤務シタルトキハ一日、二十日以上勤務シタルトキハ二日ノ公休ヲ附與ス

第六條 第二條ノ一循環及前條但書ノ一期間内ニ於テ病氣ニ因ル缺勤日數三日以内ノ場合又ハ徵兵検査、簡閱點呼、勤務演習（其往復ニ要スル最少日數ノ缺勤ヲ含ム）ノ爲メノ缺勤アル場合ハ次期ノ公休指定日ハ之ヲ無給休トス

第七條 第一條及第五條ノ公休日ハ豫メ之ヲ定メ其ノ日以外ニ於テハ之ヲ許サス

第八條 所屬長ハ營業上必要アルトキハ廢休ヲ命シ又ハ公休日ノ繰替

ヲ爲スコトヲ得

第九條 前條ニ依リ運輸従業員（給仕、使丁ヲ除ク）ニ廢休ヲ命シタル場合ハ一日ニ付日給一日分ヲ加給ス

第十條 一月一日、同二日及同三日ニ定時間勤務ニ服シタル者ハ以後一年内ニ於テ業務ニ支障ナキ限リ其ノ勤務一日ニ付一日ノ割合ニ依リ特別休暇ヲ附與ス但シ本休暇ヲ廢シ勤務スルモ給與ニ關シテハ之ヲ休日勤務トシテ取扱ハス

附則

大正九年三月三十一日達電第六號運輸現業員休暇規程及本規程ト重複又ハ抵觸スル規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

現業員精勤休暇規程

制 定 大一四、八、一三達電五五

現業員精勤休暇規程

第一條 運輸職員、技術職員及事務職員ニシテ毎年一月二十一日ヨリ七月二十日迄及七月二十一日ヨリ翌年一月二十日迄ノ毎六ヶ月間中

缺勤、遅刻、早退ヲ通シ五回ヲ超エサル者ニ對シテハ五日間ノ精勤

休暇ヲ附與ス

第二條 運輸従業員、技術従業員及傭員ニシテ三ヶ月間中缺勤、遅刻、

第三類 人事 第三章 勤務

早退ナキ者ニ對シテハ二日間ノ精勤休暇ヲ附與ス

前項月ノ計算ニ關シテハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ヲ以テ一ヶ月トス

第三條 公傷病、交通遮斷ニ因ル缺勤ハ本規程ノ適用ニ關シテハ五日ヲ以テ一日トシ徵兵検査、簡閱點呼、勤務演習及其ノ往復ノ爲要スル最少日數ノ缺勤ハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス

第四條 精勤休暇ヲ廢シ勤務シタル場合ト雖モ第六條第二項ニ依ルノ外倍給又ハ増給ヲ爲サス

第五條 調査期間ノ中途ニ於テ他ノ現業員ニ轉職シタルトキハ現職ニ依リ調査決定ス

第六條 精勤休暇ハ之ヲ附與セラレタルトキヨリ一ヶ年以内ニ豫メ所屬長ノ許可ヲ得テ休暇スルモノトス

所屬長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキハ本休暇ヲ廢シ勤務セシムルコトアルヘシ

附則

本規程ハ事務職員ニ限リ大正十五年一月二十一日ヨリ之ヲ實施ス

大正八年十一月電氣鐵道部長決精勤休暇支給方ノ件大正十年七月電氣鐵道部長決運輸現業員ニ精勤休暇附與ノ件及大正十三年十一月達電第七四號局雇職工工夫人夫精勤休暇規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

三九八

三九九



### ●現業員父母祭日休暇方ノ件

制定 昭五、六、五達電二三

電氣局現業員父母祭日休暇方左ノ通相定メ昭和五年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局現業員父母祭日休暇方ノ件

- 一 現業員父母ノ祭日ニハ其ノ當日一日ノ休暇ヲ附與ス但シ自ラ本休暇ヲ廢シ勤務スルモ給與ニ關シテハ之ヲ休日勤務トシテ取扱ハス
- 二 父母ノ祭日ハ別紙様式ニ依リ豫メ當該所屬長ニ届出テ當日休暇セムトスルトキハ更ニ其ノ旨前日迄ニ届出ツヘシ
- 三 左ノ場合ハ之ヲ父母ノ祭日ニ依ル休暇トシテ取扱ハス
  - (イ) 父母祭日ノ前後缺勤ノ場合
  - (ロ) 公休日(技術職員、技術従業員ニ在リテハ甲種、乙種定休)簡閱點呼及徴兵検査ノ當日ニ相當スル場合
  - (ハ) 勤務演習(往復ノ最短期間ヲ含ム)、交通遮斷、公傷病ニ因ル缺勤及忌引期間中ニ含マルル場合
- 四 父母ノ祭日カ公休日(技術職員、技術従業員ニ在リテハ甲種、乙種定休)ニ相當シタルトキ出勤ヲ命セラレ勤務シタル場合ニ於テハ以後一月内ニ一日ノ休暇ヲ附與ス
- 五 父母ノ祭日ニ出勤ヲ命セラレ勤務シタル場合ニ於テハ日給者ニ對シテハ給料日額ノ一日分、月給者ニ對シテハ給料月額ノ三十分ノ一ヲ加給ス

### ●第二條 忌服期間左ノ如シ

- 一 實父母、養父母、繼父母、配偶者(内縁ヲ除ク) 七日間
  - 二 祖父母、曾祖父母、子、兄弟姉妹、伯叔父母 三日間
  - 三 高祖父母、孫 二日間
  - 四 曾孫、玄孫、甥姪、從兄弟姉妹 一日間
- 親族遠隔ノ地ニ於テ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ死亡ノ日ヨリ死亡ノ事實ヲ聞知シタル日ノ前日迄ノ日數ヲ前項ノ期間ヨリ控除シタル期間トス
- 第一項第二號及第三號ニ該當スル者ニシテ戸籍外ノ者ナルトキ又ハ三歳未満ノ幼兒ナルトキハ子ニ在リテハ二日間其ノ他ノ者ニ在リテハ一日間トス
- 忌服重複スルトキハ忌服期間ハ其ノ重キニ從フ
- 第三條 忌服ノ日數ハ死亡ノ日(死亡ノ時刻午後ナルトキハ其ノ翌日)又ハ死亡ノ事實ヲ聞知シタル日ヨリ之ヲ起算ス
- 第四條 第二條ノ忌服期間中ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スル期間ハ忌服スルヲ要セス
- 一 公務ノ爲旅行中ノトキ
  - 二 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺勤中ノトキ但シ親族ノ病氣看護ノ爲缺勤中ノ者其ノ事由止ミタルトキハ此ノ限ニ在ラス
  - 三 事務ノ都合ニ依リ除服出仕ヲ命セラレタルトキ
- 第五條 喪ニ遭ヒタル者ハ其ノ親族ノ續柄、姓名、年齢、生前ノ居所

### ●吏員並雇員忌服規程

制定 昭二、二、一九達一二

市吏員並雇員忌服規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市吏員並雇員忌服規程

第一條 本市吏員並雇員第二條第一項ニ掲グル親族ノ喪ニ遭ヒタルトキハ本規程ニ依リ忌服スヘシ

父母命日届		長部
父ノ命日	年 月 日	長課
母ノ命日	年 月 日	長係
右及御届候也		員係
昭和 年 月 日		
所屬職名	所住	印
名氏		
大阪市電氣局長 殿		

〔大電〕

〔大電〕

及死亡ノ日時ヲ記載シ其ノ旨即日(第二條第二項ノ場合ニ在リテハ聞知シタルトキ直ニ)届出ツヘシ此ノ場合第二條第三項ニ該當スル者ナルトキハ之ヲ附記スヘシ

### 附則

本規程施行ノ際現ニ忌服中ノ者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

### ●電氣局所屬給仕及使丁ノ忌服ニ關スル件

制定 昭和四、一、一九達電一

電氣局所屬給仕及使丁ノ忌服ニ關スル件左ノ通相定メ昭和四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局所屬給仕及使丁ノ忌服ニ關スル件

昭和二年五月達電第四〇號電氣局現業員忌服規程ハ電氣局所屬給仕及使丁ニ之ヲ準用ス

### ●現業員忌引規程

制定 昭二、五、二五達電四〇  
最近改正 昭八、三、達電七

電氣局現業員忌引規程左ノ通制定シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
電氣局現業員忌引規程



第一條 現業員其ノ親族ノ喪ニ遭ヒタルトキハ本規程ニ依リ忌引スルコトヲ得

第二條 忌引シ得ヘキ親族並其ノ忌引期間左ノ如シ

親族	種別	期	
		同一戸籍内	同一戸籍外
續柄	血族又ハ準血族	七日間	七日間
父母	血族又ハ準血族	七日間	七日間
配偶者		七日間	
子	血族又ハ準血族	年齢三年以上 年齢三年未満	三日間 二日間
祖父母	血族又ハ準血族	三日間	一日間
兄弟、姉妹	血族	年齢三年以上 年齢三年未満	三日間 一日間
伯叔父母	準血族	年齢三年以上 年齢三年未満	二日間 一日間
孫	血族	二日間	一日間
配偶者ノ母	準血族又ハ準血族	二日間	二日間

前項ノ血族トハ血統ノ連絡アル親族、準血族トハ養子縁組、繼親子及嫡母庶子ノ關係ヨリ生スル親族ヲ謂フ

第三條 忌引重複スルトキハ忌引期間ハ其ノ長キニ從フ

第四條 忌引期間ハ死亡ノ日(死亡ノ時刻午後ナルトキハ其ノ翌日)ヨリ起算ス

キ書類ヲ整ヘ提出スヘシ

附則

本規程施行ノ際現ニ忌引中ノ者ニ在リテハ從前ノ規程ニ依ル大正十一年十一月達電第七九號運輸現業員忌引規程及本規程ト重複又ハ抵觸スル從前ノ規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

忌引期間中死亡ノ事實ヲ聞知セサルトキ又ハ業務上出張旅行中ナルトキ該經過日數ニ關シテハ之ヲ忌引トシテ取扱ハサルモノトス

第五條 忌引期間ハ出勤セサルモ勤務成績ニ關シテハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外出勤トシテ取扱ヒ日給者ニ對シテハ一日ニ付給料日額ヲ支給ス

第六條 忌引中ト雖モ所屬長ニ於テ業務上必要アリト認メタルトキハ忌引ヲ廢シ勤務セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前條ノ給與ノ外日給者ニ對シテハ一日ニ付給料日額ヲ、月給者ニ對シテハ給料月額ノ三十分ノ一ヲ加給ス

第七條 缺勤中ノ者ニシテ引續キ第二條第一項ノ親族ノ喪ニ遭ヒタルトキハ當該忌引期間終了ノ日ノ翌日(祭日、公休日其ノ他確定休日ニ相當スルトキハ其ノ翌日)勤務スルニアラサレハ之ヲ忌引トシテ取扱フコトヲ得ス但シ忌引期間前後ノ缺勤ニシテ當該親族ノ看病又ハ葬祭ヲ直接ノ理由トスルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項缺勤中ノ者忌引直前ノ日ヲ以テ精勤休暇其ノ他ノ自由休暇ニ充ツルモ依リテ該忌引ヲ有效ナラシムルコトヲ得ス

第八條 忌引期間中ハ祭日、公休日、交通遮斷アルモ忌引トシテ取扱フ

第九條 第二條第一項ノ喪ニ遭ヒタルトキハ其ノ親族ノ續柄、氏名年齢、生前ノ居所並死亡ノ日時ヲ記載シ即日届出ツヘシ

第四條第二項ニ該當スル場合ハ聞知ノ日時ヲモ附記シ聞知シタルトキ又ハ歸著ノ時即時ニ届出ツヘシ

〔大電〕

〔大電〕



## 第四章 教 習

### ●事務講習會規程

制 定 昭四、八、三 達 九一  
最近改正 昭九、九 達 一三二

事務講習會規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

事務講習會規程

第一條 本市職員ニ事務上必要ノ知識ヲ授クル爲市役所ニ事務講習會ヲ設ク

第二條 事務講習會ニ左ノ職員ヲ置ク

會長  
主 幹 若干人  
主 師 若干人  
書 記 若干人

第三條 會長ハ助役中ヨリ市長之ヲ命ス

講師ハ市吏員其ノ他適當ナル者ノ中ニ付市長之ヲ命シ又ハ囑託ス  
主幹ハ人事課長、書記ハ人事課調査係員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

主幹ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス  
講師ハ講習生教養ノ任ニ當ル  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條 事務講習會ニ第一部及第二部ヲ置ク

第三類 人事 第四章 教習

〔大電〕

第一部ニ於テハ市役所ノ事務ニ従事スル者ニ對シ必要ナル知識ヲ授ク

第二部ニ於テハ區役所ノ事務ニ従事スル者ニ對シ必要ナル知識ヲ授ク  
前三項ノ規定ニ依ルモノノ外會長ハ市長ノ承認ヲ經テ特殊科目ニ付  
隨時講習會ヲ開催スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ之  
ヲ適用セス

第六條 講習生ノ定員ハ毎回各部百人以内トス

第七條 講習生ハ吏員及雇員ノ中ヨリ市長之ヲ命ス但シ左ノ各號ノ一  
ニ該當スル者ハ之ヲ除ク

一 主事、視學、技師又ハ之等ノ者ト同等以上ノ身分ヲ有スル者及  
係長、主任又ハ之等ノ者ト同等以上ノ地位ニ在ル者

二 第五條第一項ノ規定ニ依ル講習ヲ受ケ修業證書ヲ授與セラレヌ  
ル者

三 採用後三月ニ滿チサル者

四 其ノ他市長ニ於テ講習ヲ受クルノ必要ナシト認ムル者

第八條 事務講習ヲ受ケ其ノ目的ヲ達シタリト認ムル者ニハ修業證書  
ヲ授與ス

第九條 講習科目、講習時間、授業時間割其ノ他講習ニ關シ必要ナル  
事項ハ市長ノ承認ヲ經テ會長之ヲ定ム



●事務講習會細則

制定 昭四、九、一九會長決定  
最近改正 昭九、一一 監乙二三一

事務講習會細則

第一條

事務講習會規程第七條第四號ニ該當スル者左ノ如シ

一 醫員、藥劑員、研究員、助手、船長、機關長、機關手、監手長、看護婦監督、看護婦長、產婆長(以上吏員)

臨時醫員、臨時船長、臨時船舶機關長、臨時船舶機關手、水道點檢員、守衛、監視員、機關手、自動車運轉士、保母、助産婦、看護婦、電話交換手、集金員其ノ他之ニ準スヘキ者

二 吏員ニシテ昭和四年三月三十一日迄ニ採用セラレタル者

第二條 講習生候補者ノ數定員ヲ超過シタルトキハ會長ニ於テ適宜定員ヲ配當シ各所屬長ヲシテ其ノ配當數ニ應シ指名セシム

第三條 講習期間ハ約一月トス但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 講習科目及講習時數別表ノ如シ但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ一部變更スルコトアルヘシ

第五條 前條別表中專修科目ハ講習生ノ現ニ從事スル事務又ハ技術ノ別ニ依ル所屬長ノ申告ニ從ヒ之ヲ課ス

第六條 會長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ實地見學又ハ課外講演ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 講習ハ午後一時ニ始リ同四時若ハ五時ヲ以テ終ル但シ若干ノ休憩時間ヲ設ク

第八條 大祭祀日及日曜日ハ休講ス

第九條 講習終了シタルトキハ試験ヲ行ヒ其ノ合格者ニ第一號様式ノ修業證書ヲ授與ス

前項試験ノ科目ハ第四條別表中ヨリ會長之ヲ選定ス

第十條 前條ノ合格者中其ノ成績特ニ優秀ナル者ニハ第二號様式ノ證明書ヲ授與ス

第十一條 講師事故ニ因リ出講スルコト能ハサルトキハ其ノ旨主幹ニ届出ツヘシ豫メ指定シタル補缺講師ヲシテ臨時出講セシムル場合亦同シ

前項ノ届出ハ豫期セサル事故ニ因ルノ外講義ノ前日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第十二條 講習生ハ始業前ニ出席簿ニ捺印スヘシ

始業時限ニ遅レタルトキハ遅參簿ニ捺印スヘシ

前二項ノ手續ヲ爲ササルトキハ缺席ト看做ス

第十三條 早退セムトスルトキハ其ノ旨係員ニ届出ツヘシ

無斷早退シタルトキハ爾後ノ出席ヲ停止スルコトアルヘシ

第十四條 遲參及早退ヲ通シ三回ヲ以テ缺席一日ト看做ス

第十五條 講習日數ノ三分ノ一以上缺席シタル者ハ第九條ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 講習科目、期間、授業時間割、會場、修業試験其ノ他講習ニ關スル事項ハ決定ノ都度市公報ヲ以テ公告ス

附則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(様式略) 別表

第一	必修科目	時數	第二	科目	時數
都市政策汎論	四	同	都市計畫汎論	四	同
都市計畫汎論	四	同	都市法	一〇	同
都市法	一〇	同	土木關係法規	六	同
土木關係法規	六	同	電氣事業關係法規	六	同
電氣事業關係法規	六	同	市管事業	(一九)	同
市管事業	(一九)	同	電車及自動車事業	二	同
電車及自動車事業	二	同	電燈事業	二	同
電燈事業	二	同	港灣事業	二	同
港灣事業	二	同	水道事業	二	同
水道事業	二	同	教育事業	二	同
教育事業	二	同	社會事業	二	同
社會事業	二	同	保健事業	二	同
保健事業	二	同	產業	二	同
產業	二	同			

土木及都市	計畫	大阪府財政概要	豫算及決算手續	會計事務(物品會計ヲ含ム)	經理事務	處務及服務心得	事務管理	事務專修科目	統計學概論	統計學業務論	事務概論	事務檢査	簿記	技術專修科目	土木關係技術者心得(工事ノ設計施行及手續ヲ含ム)	電氣關係	技術者心得
三	同	六	六	四	三	二	四	七	五	五	三	八	八	五	五	五	六
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
三	六	四	四	二	二	四	四	五	五	三	三	六	六	六	四	六	六



工	事	材	料	六	八一
品	質	檢	査	法	

### 電氣局給費講習生規程

制定 大二三、一〇、一達電六六  
最近改正 昭七、一 達電一

電氣局給費講習生規程左ノ通制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
電氣局給費講習生規程

- 第一條 財團法人電氣工士養成所ニ入學セシムヘキ電氣局給費講習生ニ關シテハ本規程ノ定ムルトコロニ依ル
- 第二條 給費講習生ハ毎回二十名ヲ以テ限度トス
- 第三條 給費講習生ハ内線引込工事並修繕等ニ従事セル現業員ニシテ特ニ成績優秀ナルモノヨリ電氣局長之ヲ選定ス
- 第四條 講習中懲戒處分ヲ受ケ又ハ不都合アリト認メタル者ニ對シテハ出席停止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 講習中傷病其他已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ所屬長ニ届出ツヘシ
- 前項ノ缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書又ハ確實ナル證明書ヲ添ヘ豫メ電燈部長ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第六條 第四條ノ出席停止又ハ自己ノ都合ニ因リ修了證書ヲ受ケルコト能ハサルニ至リタル者並第七條ニ違背シタル者ニ對シテハ給費額全部ヲ辨償セシムルモノトス但シ電氣局長ニ於テ理由アリト認メタ

ルモノニ對シテハ之ヲ免除スルコトアルヘシ  
第七條 給費講習生ハ講習終了後滿一箇年間自己ノ都合ニ依リ辭職スルコトヲ得サルモノトス

第八條 給費講習生ニ選定セラレタル者ハ左ノ條件ヲ具備セル保證人連署ノ上別紙様式ノ誓約書ヲ提出スルコトヲ要ス

- 一 大阪市内又ハ其ノ接續町村ニ居住スル者
- 二 一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者
- 三 丁年以上ノ男子

前項保證人ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ他ノ者ヲ選定シ届出ツヘシ

第九條 給費講習生ニ關スル事務ハ内線課工事係ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

#### (別紙様式)

##### 誓約書

私儀今般特別ノ御詮議ニ依リ財團法人電氣工士養成所電氣局給費講習生ニ御選拔被下入學金並授業料金參拾圓也御支拂相成候ニ就テハ熱心ニ講習相受益益職務ニ精勵シ凡テ御規定ヲ嚴守スルハ勿論講習終了後滿壹ケ年間ハ貴局ノ御都合ニ依ルノ外自己ノ都合ニ依リ辭職致間敷萬一違背致候場合ハ前記ノ金額辨償可致候

右誓約候也

年月日

所屬 所保  
本人 資格 氏 名  
本籍 府縣 郡市 町村 番地

〔大電〕

〔大電〕

大阪市電氣局長 殿

現住所 同 同 同 同  
職業 同 同 同 同  
保證人 氏 名  
年月日生

### 教習所教習規程

制定 大三四、五、二〇達電三三

大正十一年八月達電第二七號教習所教習規程左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 教習所教習規程

第一條 教習所ニ左ノ科ヲ置ク

普通科	車掌部	高等科
車掌助手部	運轉手部	別科
手働制動部	研究科	科
空氣制動部	講習科	甲部
		乙部

第二條 普通科ハ車掌、運轉手又ハ車掌助手ニ必要ナル學術及技能ヲ教習ス

第三條 高等科ハ優秀ナル運輸現業員ヲ養成スル爲之ニ必要ナル高等ノ學術技能ヲ教習ス

第四條 專科手働制動部ハ車掌ニシテ運轉手タラントスルモノニ必要

第三類 人事 第四章 教習

ナル學術及技能ヲ教習シ同空氣制動部ハ運轉手ニ空氣制動機使用ノ電車運轉ニ必要ナル學術及技能ヲ教習ス

第五條 別科ハ轉轍手、信號人タルニ必要ナル學術及技能ヲ教習ス

第六條 研究科ハ運輸事業上重要ナル術ニ當ラシムルニ足ル人材ヲ養成スル爲之ニ必要ナル專門ノ學術ヲ教習ス

第七條 講習科甲部ハ運輸事務員及運輸事務員補ニ、同乙部ハ運輸監督及運輸監督補ニ電車運轉ニ必要ナル學術及技能ヲ教習ス

第八條 各科ノ教習期間及各學級ノ定員左ノ如シ但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮變更スルコトアルヘシ

普通科	教習期間	一學級定員
車掌部	五十日	二十名
運轉手部	七十日	二十名
車掌助手部	七十日	三十名
高等科	三十日	三十名
專科		
手働制動部	三十日	十名
空氣制動部	十五日	十名
別科	十日	十名
研究科	一年	三十名
講習科		
甲部	四十五日	十名
乙部	百日	十名

第九條 各科ノ教習科目及其ノ課程ハ別表ニ依ル但シ教習所長ニ於テ



第三類 人事 第四章 教習

必要ト認メタルトキハ教習時數ノ範圍内ニ於テ臨時伸縮變更ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 普通科第三學期及專科第二學期ニ於ケル實務ハ運輸部長ノ定ムル教手ニ於テ教習ス

第十一條 各科ノ入學日左ノ如シ但時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

車掌部	普通科	運轉手部	每月一日、十六日
車掌部	高等科	車掌助手部	每月一日
車掌部	高等科	手働制動部	毎月十六日
車掌部	高等科	空氣制動部	毎月一日、十一日、二十一日
別科	別科	隨時	隨時
研究科	研究科	隨時	毎年四月一日
講習科	講習科	隨時	隨時
講習科	講習科	隨時	隨時
普通科	普通科	車掌部	毎日
普通科	普通科	運轉手部	毎日
普通科	普通科	車掌助手部	毎日
高等科	高等科	手働制動部	毎日
高等科	高等科	空氣制動部	毎日
專科	專科	空氣制動部	毎日

第十二條 各科ノ教習日及教習時間左ノ如シ

普通科	車掌部	教習時間	自午前八時 至午後五時
普通科	運轉手部	教習時間	自午前八時 至午後四時
普通科	車掌助手部	教習時間	自午前八時 至午後五時
高等科	手働制動部	教習時間	自午前八時 至午後五時
高等科	空氣制動部	教習時間	自午前八時 至午後五時
專科	空氣制動部	教習時間	自午前八時 至午後五時

別科 毎日 同  
研究科 月、水、金曜日 自午後六時 至午後九時  
講習科 甲部 毎日 自午前八時 至同十二時  
講習科 乙部 隔日 自午前九時 至同十二時  
第十三條 各科ノ休日左ノ如シ但シ普通科實習中ハ所屬教手(車掌、運轉手及車掌助手見習生ノ指導者)ノ公休ニ準ス  
普通科 十日毎ニ一日  
高等科 同  
專科 同  
別科 同  
研究科 日曜日、祝祭日、十二月二十六日ヨリ一月十日迄及八月一日ヨリ同三十一日迄  
講習科 十日毎ニ一日

第十四條 各科ノ入學資格左ノ如シ

普通科 各 部 所定ノ採用規程ニ該當シ入學試験ニ合格シタル者  
高等科 所屬長ノ推薦ニ係ル運輸現業員ニシテ所定ノ入學試験ニ合格シタル者  
專科 手働制動部 所屬長ノ推薦ニ係ル者  
專科 空氣制動部 所定ノ採用規程ニ該當シ入學試験ニ合格シタル者  
別科 自筆履歷書及自作論文ヲ提出シ銓衡ヲ經テ所定ノ入學試験ニ合格シタル者  
研究科 所定ノ入學試験ニ合格シタル者

講習科 甲部 運輸事務員及運輸事務員補ニシテ所屬長ノ推薦ニ係ル者  
講習科 乙部 運輸監督及運輸監督補ニシテ所屬長ノ推薦ニ係ル者

第十五條 各學生ハ規定ヲ遵守シ職員ノ命ニ從ヒ専心課程ノ修得ニ努ムヘシ

第十六條 左記各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ス

- 一 出缺常ナク課程ノ修得ニ不熱心ナル者
- 二 品行不良ナル者
- 三 成績不良ニシテ成業ノ見込ナキ者
- 四 規定ニ違背シタル者
- 五 引續キ十五日以上缺勤シタル者但研究科ニアリテハ四週間以上トス
- 六 教習所長ニ於テ必要ト認メタル者

第十七條 疾病又ハ止ムヲ得サル事情ニヨリ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ願出ツヘシ

第十八條 普通科、高等科及研究科ノ課程ヲ修了シ所定ノ試験ニ合格シタル者ニ對シテハ左記第一號様式ノ卒業證書ヲ授與シ專科、別科及講習科ヲ修了シ所定ノ試験ニ合格シタル者ニ對シテハ第二號様式ノ修業證書ヲ授與ス

第一號様式 別表

普通科(車掌部) 教科目及課程  
運轉手部

第三類 人事 第四章 教習

卒業證書

職名氏

生年月日 名

年 教習 所 月 日 印

大阪市電氣局運輸部教習所長

名 教習 所長 印

第 號

第二號様式 修業證書

職名氏

生年月日 名

年 教習 所 月 日 印

大阪市電氣局運輸部教習所長

名 教習 所長 印

第 號



科目	時數及課程	學期	
		第一學期 (十五日間)	第二學期 (十日間)
計	一〇六	六四	六四
乘客教練	四	二四	二四
車輛及軌道	六	八	同上
電氣大要	六	二	同上
機械器具名稱	六	二	同上
運轉	二一	三〇	同上
乘客	二七	三八	同上
地理	二五	二	同上
規程	七		
法身	二		
修身	八		
實踐道德ノ要旨、規律、修養、訓話			
電氣鐵道取締規則及交通法規			
電氣局關係諸規程			
停留場名及其所在市內及其附近並運轉系統			
乘車券及乘車料、乘客及乘客取扱一般			
電車運轉方法、信號、事故及其應急處置			
電氣鐵道ニ關スル機械器具名稱			
電氣大要、電力發生及配電、電力經濟			
車輛ノ種類、構造及裝置、軌道ノ敷設其他			
實踐道德ノ要旨、市公民益事業ノ觀念、修身訓話			
電氣鐵道並交通法規			
停留場名及其所在、市內及其附近運轉系統			
乘車券、乘車料、用語及乘客取扱			
電車運轉方法、車掌關係事項、信號、事故及應急處置			
車輛及架線軌道ニ關スル主要機械器具名稱			
電線大要、電力經濟			
車輛及軌道			
禮儀、規律、體操、其ノ他精神、肉體ノ訓練			
乘務ノ實際的教練			
計	一一七	一五四	三〇

第三學期 實務見習

〔車掌〕 二十五日間  
〔運轉手〕 四十五日間

普通科(車掌助手部)教科目及課程

〔大電〕

科目	時數及課程	學期	
		第一學期 (二十日間)	第二學期 (二十五日間)
計	一一七	一五四	三〇
乘客教練	二七	三三	同上
車輛及軌道	二	六	同上
電氣大要	八	一四	同上
機械	二一	五五	同上
運轉	三〇	二	同上
地理	一〇	一〇	同上
法身	八		
修身	二		
實踐道德ノ要旨、市公民益事業ノ觀念、修身訓話			
電氣鐵道並交通法規			
停留場名及其所在、市內及其附近運轉系統			
乘車券、乘車料、用語及乘客取扱			
電車運轉方法、車掌關係事項、信號、事故及應急處置			
車輛及架線軌道ニ關スル主要機械器具名稱			
電線大要、電力經濟			
車輛及軌道			
禮儀、規律、體操、其ノ他精神、肉體ノ訓練			
乘務ノ實際的教練			
計	一一七	一五四	三〇

第三學期

實務見習

二十五日間

高等科教科目及課程



國語	二〇	講讀、作文
算術	一八	四則、分數、比例、步合、珠算
法制經濟大意	一四	國家ノ概念、國體及政體、法ノ概念、公法大意、生產、移法、消費、財政、私法大意
法規	八	市制、電氣鐵道取締規則、遺失物法拔萃、軌道條例、交通警察其ノ他關係諸規則
規程	八	車掌、運轉手勤務規程、大阪市電氣鐵道乘車料條例、同施行細則、大阪市電氣鐵道乘車規程、其ノ他關係諸規程
電氣軌道經營	二七	電氣軌道定義、種類、沿革、乘客輸送、營業收支公共團體ノ電氣軌道
運轉	二二	運轉方法、操車方法、信號、運轉設備、運轉事故、運轉諸注意事項、見習生指導要項
事故取扱	六	事故取扱要領、傷害事故應急處理其ノ他
電氣	二三	電氣大要、發電、送電、配電、電線路其ノ他
電車	一二	電車構造、電車內裝置制御機、制動機、電力節約其ノ他
軌道	一二	軌道、曲線、勾配、軌條其ノ他一般
計	一七八	

專科(手働制動部)教科目及課程

教科目	時數及課程	時數	課程
車臺及機能		四	電車ノ構造、各名稱及機能
電氣		一二	電氣及發電、送電、配電大意
運轉		一二	電車運轉方法

(第一學期)

〔大電〕

故障應急處理	四	電車故障應急處理方法
乘務教練	一九	
計	五一	

〔大電〕

二學期 實務見習 二十三日間

專科(空氣制動部)教科目及課程

教科目	時數及課程	時數	課程
車臺及機械		一〇	各種ホギ、車構造及機能
空氣制動機		四	構造及機能
故障應急處理		二	電車故障應急處理方法
乘務教練		六四	
計		八〇	

(第一學期)

二學期 實務見習 四日間

別科教科目課程

科	目	教習時數	課程
修身		五	實踐道德ノ要旨
法規		四	電氣鐵道取締規則、道路取締令
組織		二	事務章程及服制一班

程



科目	時數	課程
信	七	信號ノ目的、種別及其取扱法
轉	四	轉轍器ノ構造及其取扱法
運	一一	運轉系統及停留場名
乘	五	乘車券ノ種類、乘車券事故取扱
事	二	人身事故、斷線、脫線其ノ他應急處置
電	五	電氣大要、電車關係諸名稱
輸	五	乘客輸送、用語
服	五	諸規程諸願屆様式
實	八	信號實習、轉轍實習
計	六三	

研究科教科目及課程

科目	時數	學期	
		前	後
法	二	法制ノ大意	二 同 上
經	一	經濟原論ノ大意	一 經濟政策ノ大要
自	一	自治行政組織ノ概論	
勞	一	勞働問題ニ關スル大要	

科目	時數	課程
關	二	鐵道法其ノ他ノ關係法規ノ解説
電	二	同 上
土	二	同 上
經	九	電氣鐵道經營論ノ大要
計	九	

講習科(甲部)教科目及課程

科目	時數	課程
機	三	電車ニ關スル機械、器具ノ名稱構造及機能
運	一〇	電車運轉方法及信號
故	五	電車故障應急處理方法
電	一七	電氣及發電、送電、配電大意、機械機能
單	七六	
車	四八	
運	一五九	
計	一五九	

講習科(乙部)教科目及課程

科目	時數	課程
機	二	電車ニ關スル機械、器具ノ名稱構造及機能
運	八	電車運轉方法
計	八	



故障應急處理	六	電車故障應急處理方法
電氣制動及空氣機	一六	電氣及發電、送電、配電大意、機械機能
單車運轉實習	六〇	
運轉實習	三九	
計	一三一	

### 第五章 褒賞及懲戒

#### ●現業員褒賞規程

制定 大二三、一一、二九達電七九  
最近改正 昭七、六 達電三九

電氣局現業員褒賞規程左ノ通相定メ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電氣局現業員褒賞規程

第一條 電氣局現業員ノ褒賞ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 褒賞ノ種類及方法左ノ如シ

- 一 賞狀 局長自署シ且ツ拾五圓以上百圓以下ノ賞金ヲ附與ス
- 二 増點 七千點以下
- 三 増手當 拾圓以下
- 四 賞金 拾圓以下

前項第二號ノ増點ハ電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車運轉手、自動車車掌補及自動車運轉手補ニ、増手當ハ運輸職員、轉轍手、信號人及雜役夫ニ、賞金ハ其ノ他ノ者ニ之ヲ行フ但シ第四條ノ賞金ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ賞狀ヲ授與ス

- 一 勤務成績優秀ニシテ一般現業員ノ模範トナルヘキ善行アリタル者

- 二 特殊ノ技能又ハ考案ニ依リ事業上裨益ヲ與ヘタル者
- 三 事業上ノ事故ニ際シ危險ヲ冒シ人ヲ救助シタル者
- 四 天災其ノ他非常事變ニ際シ事業上特ニ功勞アリタル者
- 五 前各號ニ準スヘキ行為アリタル者

前項ニ依リ賞狀ヲ受ケタル者ニシテ電氣局長ニ於テ特ニ表彰ノ必要アリト認メタル者ニ對シテハ賞牌ヲ佩用セシムルコトアルヘシ  
賞牌ハ之ヲ交付シタル日ヨリ六箇月間佩用セシムルモノトス但シ現業員懲戒規程ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ褫奪ス

第四條 成績優良ニシテ三箇月間缺勤、遅刻、早退ナク且懲戒處分(業務上ノ訓戒處分ヲ除ク)ヲ受ケサル者又ハ其ノ處分ヲ受ケ之カ執行中ニアラサル者ニ對シテハ賞金參圓ヲ授與ス

徵兵検査及簡閱點呼ノ當日及忌引ハ前項ノ適用ニ就テハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス  
本條ノ調査ハ毎年六月、九月、十二月及翌年三月(毎月二十日現在)ノ四期トシ前三箇月間ノ成績ニ依ル

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ増點、増手當又ハ賞金ヲ授與ス

- 一 第三條第一項ノ行為アリタルモ賞狀ヲ與フルニ至ラサル者
- 二 事業上ノ事故ヲ未然ニ防キタル者又ハ其ノ發生ニ當リ應急機宜ノ處置ヲ執リタル者
- 三 職務ニ關聯スル不正者ヲ發見シ又ハ其ノ調査ニ當リ特ニ功勞アリタル者



- 四 不正ノ手段ヲ以テ乗車セル者ヲ發見シタル者
- 五 需用家ニ對シ事業上第三者ノ爲シタル不正行爲ヲ發見シタル者
- 六 運輸技術ニ熟達シ常ニ制規ノ方法ニ依リ電車又ハ乗合自動車ヲ運轉セル者
- 七 乗客又ハ需用家ニ對シ親切叮嚀ニシテ現業員ノ模範トナルヘキ者
- 八 乗客又ハ需用家ノ不穩當ナル言行ニ對シ克ク之ニ耐ヘ其ノ職務ヲ全フシタル者
- 九 前各號ニ準スヘキ行爲アリタル者

附則

大正三年四月達電第一〇號運輸現業員褒章規程及本規程ト重複又ハ抵触セル從前ノ規程ハ之ヲ廢止ス

●現業員懲戒規程

制 定 大二三、一一、二九達電八〇  
最近改正 昭七、六 達電四〇

電氣局現業員懲戒規程左ノ通相定メ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局現業員懲戒規程

- 第一條 電氣局現業員ノ懲戒ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 懲戒ノ種類、方法及其ノ輕重順序左ノ如シ  
一 解 僱 文書ヲ本人ニ交付ス

八 現業員タルノ體面ヲ汚ス行爲アリタル者  
第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ解僱又ハ減給ニ處ス

- 一 事業上ニ關シ制規ノ手續ヲ經スシテ第三者ニ不當ノ利益ヲ與ヘ又ハ損害ヲ加ヘタル者
- 二 無賃乗車ヲ爲サシメ又ハ之ヲ默認シタル者並之カ目付ニ供スル爲ニ必要ナル物件ヲ他人ニ交付シタル者
- 三 過失又ハ怠慢ニヨリ重大ナル事故ヲ發生セシメタル者
- 四 職務ノ執行ニ際シ乗客需用家若ハ其ノ他ノ者ニ暴言又ハ暴行ヲ加ヘタル者
- 五 火氣又ハ發火ノ虞アルモノノ取扱ヲ忽ニシ因テ危險ヲ發生セシメタル者
- 六 貨與品ヲ讓渡又ハ轉貸シ若ハ之ヲ擔保ニ供シタル者
- 七 故ナク職員證ヲ呈示セサル者
- 八 職員證ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ讓渡シタル者
- 九 猥ニ他人ヲシテ自己ノ職務ヲ執行セシメ又ハ他人ノ職務ヲ執行シタル者
- 一〇 遺留品ノ届出ヲ爲サス又ハ之ヲ怠リタル者
- 一一 事故ヲ隱蔽シ又ハ其ノ届出ヲ怠リタル者並之カ應急處置ヲ爲ササリシ者
- 一二 他人ノ職務ヲ妨害シタル者

第六條

- 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ減給以下ニ處ス
- 一 職員證ヲ紛失シタル者
- 二 過失又ハ怠慢ニ因リ事故ヲ發生セシメタル者

- 二 減 給 同 上
- 三 減 點 三千五百點以下
- 減手當 五 圓 以下
- 過怠金 五 圓 以下
- 四 譴 責 文書其ノ他ノ方法ヲ以テ本人ニ通知ス
- 五 訓 戒 口頭ヲ以テス

前項第三號ノ減點ハ電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車運轉手、自動車車掌補及自動車運轉手補ニ、減手當ハ運輸職員、轉轍手、信號人及雜役夫ニ、過怠金ハ其ノ他ノ現業員ニ對シ之ヲ行フ

第三條 懲戒處分ニ該當スル所爲アリタル者ニ對シテハ情狀ニ依リ其ノ決定前出勤停止ヲ命スルコトヲ得

出勤停止ノ期間ハ之ヲ缺勤トシテ取扱フ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ解僱ニ處ス

- 一 局内ノ秩序ヲ亂シ不穩ノ言動アリタル者
- 二 不正行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメ若ハ之ヲ幫助シタル者
- 三 數次規定又ハ命令ニ違背シ改悛ノ情ナキ者
- 四 故意ニ事故ヲ發生セシメタル者
- 五 出勤常ナク業務上ニ支障ヲ及ボス者
- 六 職務ヲ拋棄シ又ハ正當ノ理由ナクシテ引續キ二十日以上缺勤シタル者
- 七 一定ノ期間就職ノ義務アル者ニシテ期間内ニ辭職ヲ敢行セムトスル者

- 三 過失又ハ怠慢ニ因リ器具機械其ノ他貨與品ヲ紛失又ハ毀損シタル者
- 四 勤務中制規ノ服裝ヲ爲サス又ハ所定以外ノ徽章ヲ佩用セル者
- 五 信號標示又ハ「ポイント」ノ開閉ヲ誤リ又ハ信號ヲ誤認シタル者
- 六 猥ニ勤務場所又ハ乗務電車乗合自動車ヲ離レ若ハ勤務上不必要ナル談話ヲ爲シタル者
- 七 勤務ニ必要ナル物件ヲ携帶セス又ハ不必要ナル物品ヲ携帶シタル者
- 八 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車運轉手、自動車車掌補及自動車運轉手補ニシテ勤務中私金ヲ携帶セル者
- 九 自動車車掌、自動車運轉手、自動車車掌補、自動車運轉手補ニシテ勤務中大阪府ノ免許證ヲ携帶セサル者
- 一〇 乗客ノ乗降終ラサルニ發車シ又ハ發車信號ヲ爲シタル者
- 一一 飛乗又ハ飛降ニ注意ヲ與ヘサル爲事故ヲ發生セシメタル者
- 一二 乗降客ヲ軌道内側ヨリ乗降セシメタル者
- 一三 乗車券ノ改缺ヲ怠リ若ハ其ノ取扱粗漏ナル者
- 一四 制規ノ信號ヲ爲サス又ハ車側ノ注意ヲ爲サスシテ發車信號ヲ爲シ若ハ信號ナクシテ發車シタル者
- 一五 停留場到達前ニ於テ停留場名ヲ稱呼セサル者
- 一六 運轉臺ニ佇立スル乗客ニ對シ注意ヲ加ヘサル者
- 一七 方向幕ヲ正確ニ掲ケス又ハ車内ノ整理ヲ怠リタル者
- 一八 車間距離ヲ適當ニ保持セサル者



- 一九 「リバーシ」グハンドルヲ携帶セシテ運轉臺ヲ離レタル者
  - 二〇 「ブレーキ」ヲ繫結セル儘「ノッチ」ヲ入レ又ハ猥ニ「エマゼン」シ「ブレーキ」ヲ使用シタル者
  - 二一 徐行スヘキ場所ヲ徐行セズ其ノ他制規ノ運轉方法ヲ執ラサル者
  - 二二 停電斷線又ハ離桿其ノ他車輛軌道電氣工作物ニ故障ヲ生シタル場合適當ノ處置ヲ爲ササリシ者
  - 二三 乗降客アル停留場ヲ故ナク通過シタル者
  - 二四 前各號ニ準スヘキ者
- 第七條 前各條ノ處分ハ其ノ情狀ヲ斟酌シテ之ヲ加減量定スルコトヲ得

附則

大正三年四月達第九號運輸現業員懲戒規程及本規程ト重複又ハ抵觸セル從前ノ規程ハ之ヲ廢止ス

●運轉事故ニ關スル懲戒規程

制 定 大五、九、二一達電三三  
最近改正 昭一〇、六 達電二〇

大正十一年五月達電第一〇號電車運轉事故ニ關スル懲戒處分取扱規程左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電車及乗合自動車運轉事故ニ關スル懲戒規程

- 第一條 電車及乗合自動車運轉事故ニ關スル懲戒處分取扱ハ本規程ノ定ムル處ニ依ル
- 第二條 左ノ場合ニ於テハ懲戒委員會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス
  - 一 乗客又ハ通行人ニ重傷ヲ負ハシメ又ハ之ヲ死ニ至ラシメタル場合
  - 二 追突又ハ衝突事故ヲ發生セシメタル場合
  - 三 乗降損シ事故ニシテ被害アリタル場合
  - 四 電車接觸脱線事故調査會ニ於テ脱線ニ關シ運輸部所屬員ニ責任アリト認メラレタル場合
  - 五 其ノ他減給以上ノ處分ニ該當スルモノ
- 前項ニ該當セサルモノト雖モ路面電車ニ在リテハ電車課乗客係長、高速電車ニ在リテハ業務課高速係長、乗合自動車ニ在リテハ自動車課運輸係長又ハ當該所屬長ニ於テ必要ト認メタル場合ハ懲戒委員會ノ審査ヲ請求スルコトヲ得
- 第三條 懲戒委員會ハ左ノ運輸部職員ヲ以テ之ヲ組織ス
  - 一 部 長
  - 一 業務 課 長
  - 一 電車 課 長
  - 一 自動車 課 長
  - 一 車輛 課 長
  - 一 工務 課 長
  - 一 業務課庶務係長
  - 一 業務課企畫係長

〔大電〕

- 一 業務課高速係長
- 一 電車課運輸係長
- 一 電車課監督係長
- 一 電車課乘客係長
- 一 自動車課運輸係長
- 一 自動車課車輛係長
- 一 車輛課技術係長
- 一 電車運輸事務所長
- 一 自動車運輸事務所長
- 一 教習所 長

懲戒委員長ハ運輸部長ヲ以テ之ニ充ツ

懲戒委員長事故アルトキハ委員中ノ上席者之ヲ代理ス

懲戒委員長必要アリト認ムルトキハ所定委員ノ外ニ軌道其ノ他ノ關係職員ヲ臨時委員トシテ出席セシムルコトヲ得

第四條 懲戒委員會ノ審査ニ附スヘキ事故ニ關シテハ被審査人ノ所屬長ニ於テ事實調査、證憑、運輸委員會委員ノ意見書並被審査人ノ説明書、其ノ他參考トナルヘキ書類ニ其ノ意見ヲ附シ被審査人ノ既往六箇月間ニ於ケル勤務成績表ヲ添付シ懲戒委員長ニ具申スルモノトス

第五條 懲戒委員會ノ審査ヲ經タル事故ハ懲戒委員長之ヲ局長ニ報告スヘシ

第六條 懲戒委員會ノ審査ニ附セサル事故ノ懲戒處分ハ當該所屬長之ヲ專決シ運輸部長ニ報告スヘシ

〔大電〕

前項專決處分ニ關シ當該所屬長必要アリト認メタルトキハ運輸委員會委員ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第七條 被審査人ハ其ノ處分決定前當該事故ニ關シ自己ニ利益ノ證憑ヲ提出スルコトヲ得

第八條 減給處分ヲ受ケタル者改悛ノ情顯著ニシテ優良ナル成績ヲ以テ相當期間經過シタルトキハ當該所屬長ハ情ヲ具シ懲戒委員會ニ爾餘ノ執行ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

第九條 電氣局現業員懲戒規程第二條第三號乃至第五號ノ處分ニ附セラレタル者既前一箇年間懲戒處分ヲ受ケタルコトナキトキハ情狀ニヨリ其ノ處分決定ノ日ヨリ六箇月間其ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

第十條 懲戒委員會ニ於テ決定シタル懲戒處分ニ對スル執行猶豫ハ懲戒委員會ニ於テ之ヲ行ヒ當該所屬長ニ於テ專決シタル懲戒處分ニ對スル執行猶豫ハ當該所屬長ニ於テ運輸部長ニ具申シタル上之ヲ行フ

第十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ執行猶豫ノ決定ヲ取消スヘシ
 一 猶豫ノ期間内ニ於テ更ニ處分ヲ受ケタルトキ
 二 事故ノ事實ヲ隱蔽シ因テ猶豫ヲ受ケタルコト後ニ至リ發覺シタルトキ

第十二條 懲戒處分ノ執行猶豫ノ決定ヲ取消サルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ該處分ハ其ノ效力ヲ失フ



第四類給與

此類給與之對象，係指那些在社會上具有特殊地位或貢獻者而言。其範圍包括皇室成員、政府官員、社會名流、以及在各個領域中做出傑出成就的人士。此類給與通常具有榮譽性質，旨在表彰其卓越貢獻，並以此激勵更多人努力奮鬥。

在具體實施過程中，應遵循公平、公正、公開的原則。給與標準應明確化、制度化，避免因人而異。同時，應加強社會監督，確保給與過程的透明與公正。此外，還應注意給與的社會效果，使其真正起到表彰先進、激發活力的作用。

總之，第四類給與是社會榮譽體系的重要組成部分。通過科學合理的實施，可以有效地彰顯社會價值觀，促進社會和諧與進步。







第四類 給與 第一章 給料及旅費

第六條 退職、解職又ハ死亡シタル者ハ其ノ月分ノ給料全額ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ當月分ノ給料ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

- 一 懲戒處分ニ因リ解職セラレタル者
二 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ害スヘキ行為アリタルニ因リ解職セラレタル者
三 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルニ因リ解職セラレタル者
四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ失職シタル者

第七條 休職、退職又ハ解職ノ者事務引繼、殘務整理ノ爲特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間日割ヲ以テ仍從前ノ給料ヲ支給ス但シ既ニ支給ヲ受ケタル月ノ分ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 市吏員陸海軍ニ召集セラレ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受ケルトキハ其ノ間給料ノ支給ヲ停止ス但シ其ノ額方本職給料額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第九條 私事ノ故障ニ因リ職務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ其ノ給料ノ半額ヲ減ス公務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル場合ヲ除クノ外病氣療養ノ爲職務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ亦同シ

第十條 第五條及前條ノ規定ニ依リ減給セラレタル者休職、退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ減給ニ依ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第十一條 給料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十二條 本市囑託員ニシテ日勤スル者ノ報酬支給ニ關シテハ本條例ヲ準用ス

- 圖書 學校、幼稚園
心華婦人館 北市民館
衛生試驗所 病院
工業研究所 區役所

給料支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

第二條 退職、解職又ハ死亡シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得但シ退職者引續キ本市有給吏員ト爲リタルトキハ前條ノ支給定日ニ依ル

第三條 轉勤者ノ給料ハ其ノ發令ノ當日迄ノ分ヲ前局、部、課、課、課又ハ區ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ後局、部、課、課、課又ハ區ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條 日割計算法ハ年給ハ年額ヲ月給ハ月額ヲ基礎トシ其ノ月ノ現日數ニ依リ前乘後除トス

第五條 大阪市有給吏員給料支給條例(以下條例ト稱ス)第九條ノ適用ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事故ハ病氣若ハ私事故障ト連續スルモ減給ノ理由トナルヘキ缺勤日數中ニ之ヲ算入セス但シ其ノ前後ノ缺勤日數ハ之ヲ通算ス

- 一 演習召集又ハ教育召集應召日但シ三十日限トス
二 徵兵検査又ハ簡閱點呼ノ各當日
三 忌服期間
四 其ノ他特ニ定メタル休暇日
- 條例第九條ノ期間ノ計算ニ付テハ引續キ七日以上出勤セサルトキハ之ヲ中斷セス

第四類 給與 第一章 給料及旅費

學校、幼稚園及圖書館ノ教職員ニ對スル給料支給ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本條例ヲ準用ス

第十三條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

明治二十二年大阪市告示第六號給料支給規則

明治二十三年大阪市告示參第二十八號報酬支給規則

大正九年大阪市告示第三十四號市吏員給料規程

昭和五年大阪市條例第十號掃除監視吏員設置條例

●有給吏員給料支給條例施行細則

制定 昭一一、三、一二告示一一一

大阪市有給吏員給料支給條例施行細則左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市有給吏員給料支給條例施行細則

第一條 給料ハ毎月二十二日之ヲ支給ス但シ左記所屬ノ者ノ給料ハ毎月二十一日之ヲ支給ス

- 電氣局 港灣部
水道部 經濟研究所

〔大電〕

〔大電〕

第六條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受ケタルトキハ左記様式ニ依リ俸給支給部隊又ハ當該官吏ノ證明書ヲ受ケ勤務所屬長ヲ經テ人事課長ニ(休職中ノ者ハ直接人事課長ニ)届出ツヘシ

第七條 條例第八條但書ノ規定ニ依リ給料ノ差額ヲ支給スヘキ者ノ支出命令書ニハ前條ノ規定ニ依リ證明書ヲ添付スヘシ

附則

大正十二年達第一一號給料支給定日ハ之ヲ廢止ス

様式

證明書
所屬部隊名
役種官等氏名
應召年月日
召集解除ノ月日
陸海軍給與令ニ依リ受ケタル俸給額
右證明ス
年月日

召集部隊長 何

某團



●雇傭員給料支給規程

制 定 昭一一、三、一二告示一一二
最近改正 昭一一、六 告示四一三
雇傭員給料支給規定左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

雇傭員給料支給規程

- 第一條 雇傭員ノ給料支給ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル
第二條 雇傭員ノ給料ハ之ヲ日給トス但シ特ニ必要アルトキハ月俸ト爲スコトアルヘシ
第三條 日給ハ新ニ採用ノ者ハ業務ニ就キタル當日ヨリ、増給、減給ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス
第四條 日給ハ執務ノ日數ニ依リ之ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ執務セスト雖之ヲ支給ス
一 演習、教育又ハ勳員ノ爲召集セラレタル期間但シ三十日限トス
二 徵兵検査又ハ簡閱點呼ノ各當日
三 傳染病發生ノ爲交通ヲ遮斷セラレタルトキ
四 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルカ爲執務スルコト能ハサルトキ
五 忌服セルトキ
六 父母ノ年忌祭日
七 休暇日但シ休日又ハ定休日ノ前後兩日ニ互リ缺勤シタルトキ

除ク

前項第一號ノ場合ニ於テハ大阪市有給吏員給料支給條例第八條同施行細則第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第一項第四號ノ規定ハ雇傭員扶助規程ノ適用ヲ受クル者ニ對シテハ之ヲ適用セス

第一項第一號、第二號、第五號及第六號ノ規定ハ臨時傭員ニ對シテハ之ヲ適用セス

第五條 別表ニ定ムル者ヲ除クノ外日給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ左記所屬員ニ對シテハ毎月二十七日ニ、其ノ他ノ者ニ對シテハ二十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月二十一日ヨリ同月末日迄ノ分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

Table with 2 columns: Department (e.g., 港灣部, 經濟部, 學校, 幼稚園, 北市民館, 病院) and Division (e.g., 水道部, 圖書館, 心華婦人館, 衛生試驗所, 工業研究所)

給料支給當日休日ニ當ル場合ハ順次繰下トス

第六條 退職、解職又ハ死亡シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第七條 轉勤者ノ給料ハ其ノ發令ノ當日迄ノ分ヲ前局、部、課、課、課、課又ハ區ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ後局、部、課、課、課、課又ハ區ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第八條 第二條但書ノ規定ニ依ル月給者ニシテ傭員扶助規程ノ適用ヲ受クル者民法ノ規定ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ給料支給額ヨリ休業扶助料相當額(休業扶助料相當額賠償額ヨリ多キトキハ賠償額)ヲ控除ス

〔大電〕

ハ當該地方ノ通貨ヲ以テ之ヲ支給ス

第十二條 本規程ハ日傭人夫ノ給料支給ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

明治二十八年市參事會議決交通遮斷中ニ係ル給料支給方

明治二十八年大阪府內務部第一課通牒第三九七號傭員忌引中ニ係ル給料支給方

別表

Table with 4 columns: 所屬 (Department/Division), 締切 (Closing Date), 期間 (Period), 支拂期日 (Payment Date). Rows include various departments like 港灣部, 土木部, 現業, 保健部, etc.



小額給料生活者失業應急事業就業者

當月十六日ヨリ前月末迄ノ分  
當月一日ヨリ當月十五日迄ノ分

當月 五  
二十日

- 一 支拂日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス但シ二月二十八日及十二月二十八日ハ繰上トス
- 二 三月分ノ給料ニシテ翌月支給スルモノニ付テハ本表ヲ適用セス

### ●運輸職員、運輸從業員給料規程

制 定 大九、四、一達電二二  
最近改正 昭七、六 達電三四

運輸職員、運輸從業員給料規程左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

運輸職員、運輸從業員給料規程

第一條 運輸職員、運輸從業員ノ給料額ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、信號手

月給 三十圓以上百二十圓以下

二 運輸事務員補

日給 八十五錢以上三圓以下

三 運輸監督助手

日給 一圓三十五錢以上三圓五十錢以下

四 電車車掌及

日給 一圓六十錢以上三圓以下

五 電車車掌補及

日給 一圓二十錢以上二圓以下

六 電車運轉手補

日給 一圓以上一圓六十錢以下

七 撤水電車車掌及

日給 一圓以上二圓五十錢以下

### ●運輸職員、運輸從業員昇給規程

制 定 昭五、八、一達電三〇

大正九年四月達電第二一號運輸現業員昇給規程左ノ通改正シ昭和五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

運輸職員、運輸從業員昇給規程

第一條 運輸職員、運輸從業員ノ昇給ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 昇給期ハ毎年二月、五月、八月及十一月トシ昇給ニ要スル在職期間及成績調査期間ハ各六箇月トス

第三條 左ニ掲グル者ハ昇給セシムルコトヲ得ス

一 調査期間中各月ニ付缺勤四日又ハ遅刻早退四回以上アリタル者

及調査期間中缺勤十三日又ハ遅刻早退十三回以上アリタル者但シ病氣ノ爲メ連續缺勤二回以内ニシテ十四日ヲ超エス他ニ缺勤

遅刻早退ナキ者ハ此ノ限ニ在ラス

二 譴責以上ノ處分三回以上ヲ受ケタル者但シ調査期間中缺勤遅刻

早退ナキ者及褒賞ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 一箇年以上昇給セサル者ニ對シテハ前一箇年間ノ成績ヲ調査シ其ノ期間中缺勤三十日又ハ遅刻早退三十回ヲ超エサル場合ニ限り

特ニ昇給セシムルコトヲ得

第五條 公傷病、交通遮斷ニ由ル三十日以内ノ缺勤若クハ兵役及其ノ

往復ニ要スル最小日數ノ缺勤ハ本規程適用上之ヲ缺勤トシテ取扱ハ

ス

### 第四類 給與 第一章 給料及旅費

- 八 自動車車掌 日給 八十錢以上二圓五十錢以下
- 九 自動車運轉手 日給 一圓六十錢以上三圓以下
- 一〇 自動車車掌補 日給 六十錢以上一圓二十錢以下
- 一一 自動車運轉手補 日給 一圓二十錢以上二圓以下
- 一二 轉轍手及信號人 日給 一圓三十五錢以上三圓以下
- 一三 雜 役 夫 日給 一圓二十錢以上二圓五十錢以下
- 一四 運輸給仕 日給 五十錢以上一圓五十錢以下
- 一五 運輸使丁 日給 一圓二十錢以上二圓五十錢以下
- 一六 檢 札 員 日給 七十錢以上二圓五十錢以下

第二條 懲戒減給ノ處分ニヨル者其ノ他特別ノ事由アル者ハ前條最低以下ノ給料ヲ支給スルコトヲ得

〔大電〕

〔大電〕

第六條 昇給人員、昇給額及其ノ手續ニ關シテハ其ノ都度之ヲ定ム

本改正規程施行ノ際現ニ在職セル電車車掌、電車車掌補、電車車掌助手、電車運轉手、自動車車掌又ハ自動車運轉手ニシテ其ノ在職年數二箇年未滿ノ者ノ昇給ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

### ●現業員昇給規程

制 定 大一一、一二、五達電五八  
最近改正 大一一、九 達電五八

現業員昇給規程左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現業員昇給規程

第一條 現業員(運輸職員及運輸現業員ヲ除ク)ノ昇給ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ局長必要アリト認メタル場合ハ昇給ノ停年月ヲ變更

スルコトアルヘシ

第二條 昇給期ハ毎年三月、六月、九月及十二月ノ四回トス

第三條 昇給ノ停年月及成績調査期間ハ左ノ通トス

一 日給貳圓未滿ノ者 六箇月

二 日給貳圓以上ノ者 一箇年

第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ昇給セシムルコトヲ得ス但シ一

調査期間中皆勤者、受賞者等ニシテ局長ニ於テ特別ノ理由アリト認

メタル者ハ此ノ限ニ在ラス



第四類 給與 第一章 給料及旅費

- 一 一調査期間中停年月六箇月ノ者ニ在リテハ缺勤、遅参及早退計十五回以上(女工ニ在リテハ二十回以上)、停年月一箇年ノ者ニ在リテハ缺勤、遅参及早退計三十回以上(女工ニ在リテハ四十回以上)アリタル者
- 前項缺勤ノ回数計算ハ一日ヲ以テ一回トス但シ連続缺勤ハ三日ヲ以テ一回トシ其ノ端數亦同シ
- 二 一調査期間中停年月六箇月ノ者ニ在リテハ二回以上、停年月一箇年ノ者ニ在リテハ三回以上ノ懲戒處分ヲ受ケタル者
- 三 昇給停年月ニ達セサル者
- 第五條 公傷者又ハ交通遮断ニ由ル三十日以内ノ缺勤若ハ兵役及其ノ往復ニ要スル最小日數ノ缺勤ハ本規程ノ適用ニ付テハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス
- 第六條 毎期ニ昇給セシムヘキ人員、昇給額及手續等ハ其ノ都度之ヲ定ム

● 現業員兵役服務者給與規程

制 定 大 一五、八、二〇 達電二九

電氣局現業員兵役服務者給與規程左ノ通制定シ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 現業員兵役服務者給與規程

第一條 電氣局現業員(事務雇員ヲ除ク)ノ徴兵検査受檢及兵役應召ニ關スル給與ハ別ニ規定スルモノヲ除クノ外左ノ通トス

● 從業員規程

制 定 昭 八、七、一 達電二〇  
最近改正 昭一、一、一 達電一

大阪市電氣局從業員規程左ノ通相定メ昭和八年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則

第一條 本規程ニ於テ從業員トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

技 術 從 業 員	運輸從業員	
	電車從業員 撤水車掌、換轍手、合圖手、雜役手	自動車從業員 營業自動車、營業自動車運轉手、營業自動車運轉手、營業自動車運轉手
高速從業員	高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手、改札手、出札手、驛手	機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電工手、機工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、印刷工手、雜工手、倉庫助手、業務自動車運轉手、運搬自動車運轉手

第二條 從業員ハ身體検査ニ合格シ左ノ年齢及資格ヲ有スル者ヨリ詮衡ノ上採用ス  
資格變更又ハ轉職ノ場合亦同シ

職 名	年 齡	資 格
電車 撤水車掌 運轉手 撤水運轉手	十八年以上 三十年未滿	

第四類 給與 第一章 給料及旅費

種 別	徵兵検査	簡閱點呼	勤 務 召 集
給 與	當日ニ限リ日給相當額ヲ支給ス	當日ニ限リ日給相當額ヲ支給ス	應召期間及往復最短日數ヲ通算シ三十日ヲ限リ日給相當額ヲ支給ス但シ陸海軍給與令ニ依リ給料ヲ受ケタルトキハ之ヲ控除ス

第二條 月給者又ハ一年志願兵ニシテ甲種勤務ノ爲召集セラレタル者ニ對シテハ前條ノ給與ハ之ヲ爲サス

第三條 兵役應召ニ關スル往復最短日數ノ計算ハ陸軍旅費規則第七條ニ依ル

附 則

大正十二年十二月達電第八七號現業員兵役者應召給與規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

技 術 從 業 員	員 業 從 速 高			員 業 從 車 動 自			員 業 從											
	驛手	出札手	改札手	高速信號手	車掌	女子高速	高速運轉手	高速車掌	號手	轉手	營業自動車	營業自動車	營業自動車	雜役手	合圖手	換轍手	女子車掌	
十四年以上未滿	十六年以上未滿	十八年以上未滿	二十年以上未滿	二十七年以上未滿	二十八年以上未滿	二十九年以上未滿	三十年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿	三十八年以上未滿
尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者但シ業務自動車運轉手及運搬自動車運轉手ハ大阪府ノ免許證ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者	尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者

第三條 從業員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職セシムルモノトス

- 一 六月ヲ超ユル兵役ニ應召シタルトキ
- 二 出勤常ナク業務ニ支障ヲ來タスモノト認ムルトキ



第四類 給與 第一章 給料及旅費

- 三 傷病ノ爲引續キ百五十日ヲ超エ又ハ七月間ニ百六十日ヲ超エテ 缺勤シタルトキ但シ公傷病ニ依ル缺勤ニ關シテハ此ノ限ニ在ラ ス
  - 四 傷病以外ノ事由ニ依リ引續キ三十日ヲ超エ又ハ二月間ニ四十日 ヲ超エテ缺勤シタルトキ
  - 五 前二號ヲ通シ其ノ缺勤第三號ニ該當シタルトキ
  - 六 禁錮以上ノ處分、破産ノ宣告、禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ受 ケタルトキ
  - 七 肺結核、喉頭結核、癩病又ハ癩癩其ノ他精神病ニ罹リタルトキ
  - 八 年齢五十五年ニ達シタルトキ但シ運轉手、撒水運轉手、營業自 動車運轉手、應急車運轉手及高速運轉手ニ在リテハ年齢五十年 二、女子車掌、營業自動車車掌及女子高速車掌ニ在リテハ年齢 三十年ニ達シタルトキ
  - 九 退職ノ申出アリタルトキ又ハ業務ノ都合ニ依リ解備ノ必要アリ ト認ムルトキ
- 前項第三號乃至第五號ノ月ノ計算ニ關シテハ前月二十一日ヨリ其ノ 月ノ二十日ニ至ル期間ヲ以テ一月トス

- 第五條 從業員ノ服務ニ關シテハ左ノ規程ヲ準用ス  
 現業員精勤休暇規程  
 電氣局現業員父母祭日休暇方ノ件  
 電氣局現業員忌引規程  
 電氣局職員證發行規程  
 運輸職員運輸從業員休暇規程  
 運轉手、車掌勤務規程  
 自動車運轉手、自動車車掌勤務規程
- 第六條 從業員ノ賞罰ニ關シテハ左ノ規程ヲ準用ス  
 電氣局現業員褒賞規程  
 電氣局現業員懲戒規程  
 電車及乘合自動車運轉事故ニ關スル懲戒規程  
 電氣局現業員褒賞規程第四條ノ規定ハ從業員ニ準用セス
- 第二章 給與  
 第一節 通則
- 第七條 初任者ノ日給額ヲ左ノ通定ム但シ相當ノ學歷ヲ有スル者業務 ノ關係上必要アリト認ムル者又ハ年齢二十年未滿ノ者ノ日給額ハ別 ニ定ムルコトアルヘシ

運輸從業員		電氣局現業員	
職名	日給額	職名	日給額
撒水運轉手	一、〇〇〇	應急自動車運轉手	一、〇〇〇
水車掌	一、〇〇〇	營業自動車運轉手	一、〇〇〇
女子車掌	一、〇〇〇	營業自動車車掌	一、〇〇〇
換轍手	一、〇〇〇	自動車信號手	一、〇〇〇
雜役	一、〇〇〇	圖手	一、〇〇〇
圖手	一、〇〇〇	圖手	一、〇〇〇

技術從業員		業員	
職名	日給額	職名	日給額
機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇	高速運轉手	一、〇〇〇
建築工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇	高速運轉手	一、〇〇〇
建築工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇	高速運轉手	一、〇〇〇
建築工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇	高速運轉手	一、〇〇〇
建築工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇	高速運轉手	一、〇〇〇

第八條 日給ハ出勤日數ニ應シ之ヲ支給ス所定ノ休暇日又ハ必要アリト認ムルトキハ勤務セサルモ之ヲ出勤ト看做シ一日ニ付日給額ヲ支給ス

第九條 給料ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ノ分ヲ毎月二十五日ニ之ヲ支給ス

前項ノ支給日休日ニ相當スルトキハ之ヲ順延ス

第十條 從業員ノ成績優良ナル者ニ對シテハ詮衡ノ上昇給セシム

詮衡期ハ毎年六月及十二月ノ二回トシ昇給停年月及成績調査期間ハ左表ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ昇給停年月及成績調査期間ヲ變更スルコトアルヘシ

運輸從業員		技術從業員	
職名	日給額	職名	日給額
電車從業員	一、〇〇〇	機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇
自動車從業員	一、〇〇〇	機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇
營業自動車運轉手、應急車運轉手	一、〇〇〇	機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇
營業自動車運轉手、應急車運轉手	一、〇〇〇	機關工手、汽罐工手、木工手、石工手、電路工手、建築工手、軌道工手、測量工手、塗工手、倉庫助手、業務自動車運轉手	一、〇〇〇

第四類 給與 第一章 給料及旅費



二號表

技術從業員	運輸從業員		昇給	停	年	月	成績	調	查	期	間
	電車從業員	自動車從業員									
一圓三十錢迄	合圖手、雜役手	印刷工手(男)、縫工手(男)、雜工手(男)	六		年	月	前	六		年	月
二圓九十錢以上迄	自動車信號手	改札手(男)、出札手(男)、驛手(男)	二		年	月	〃	二		年	月
一圓七十錢迄	合圖手、雜役手	印刷工手(男)、縫工手(男)、雜工手(男)	一		年	月	〃	一		年	月
二圓七十錢以上迄	合圖手、雜役手	印刷工手(男)、縫工手(男)、雜工手(男)	二		年	月	〃	二		年	月

三號表

運輸從業員	電車從業員		昇給	停	年	月	成績	調	查	期	間
	電車從業員	自動車從業員									
一圓五十錢迄	女子車掌	營業自動車車掌	六		年	月	前	六		年	月
二圓七十錢以上迄	女子車掌	營業自動車車掌	二		年	月	〃	二		年	月

〔大電〕

技術從業員	昇給	停	年	月	成績	調	查	期	間
九圓十錢迄	六		年	月	前	六		年	月
一圓三十錢迄	一		年	月	〃	一		年	月
二圓九十錢以上迄	二		年	月	〃	二		年	月

第十一條 左ニ掲クル者ハ昇給セシムルコトヲ得ス但シ特ニ成績優秀ナル者ハ別途詮衡ノ上昇給セシムルコトアルヘシ

一 昇給停年月六月ノ者

成績調査期間中缺勤(一日ヲ以テ一回トス)、遅刻、早退ヲ通シ十五回以上アリタル者但シ病氣ノ爲連續缺勤二回以内ニシテ二十日ヲ超エス他ニ缺勤、遅刻、早退ナキ者ハ此ノ限ニ在ラス  
成績調査期間中譴責以上ノ處分三回以上受ケタル者但シ譴責以上ノ處分五回以内ニシテ缺勤、遅刻、早退ナキ者又ハ褒賞ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 昇給停年月一年以上ノ者

成績調査期間中ノ各六月ヲ單位トシ一單位期間中前號ニ抵觸セル者但シ一單位期間ニ付缺勤、遅刻、早退ニ在リテハ二十回以内ナルトキ又ハ病氣ノ爲連續缺勤三回以内ニシテ三十日ヲ超エス他ニ

第四類 給與 第一章 給料及旅費

缺勤、遅刻、早退ナキトキ若クハ譴責以上ノ處分四回以内ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 成績調査期間(一年以上ノモノハ六月ノ一單位期間)中ノ公傷病、交通遮斷ニ依ル三十日以内ノ缺勤又ハ兵役及其ノ往復ニ要スル最小日數ハ之ヲ缺勤トシテ取扱ハス

第十三條 昇給人員、昇給額及其ノ手續ニ關シテハ其ノ都度之ヲ定ム

第十四條 從業員ノ給與金支拂及兵役服務者ニ對スル給與ニ關シテハ左ノ規程ヲ準用ス

現業員給與金支拂規程

現業員兵役服務者給與規程

第二節 電車從業員

第十五條 車掌、女子車掌、撤水車掌、運選手及撤水運轉手ノ歩増給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日ニ至ル一月間ノ乗務總時間ヨリ



義務乗務時間ヲ控除シ其ノ超過時間ニ對シ之ヲ支給ス

第十六條 義務乗務時間ハ車掌、女子車掌及運轉手ニ在リテハ七時間二分五厘ニ、撒水車掌及撒水運轉手ニ在リテハ八時間ニ一月ノ勤務日數ヲ乘シタルモノトス

第十七條 第十五條ノ支給金額ハ超過時間一時間ニ付車掌、女子車掌及運轉手ニ在リテハ日給額ノ七百二十五分ノ百、撒水車掌及撒水運轉手ニ在リテハ日給額ノ八百分ノ百ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

第十八條 一月間ノ超過時間ニ對シ業務上必要アリト認ムルトキハ二割以下ノ特別歩増ヲ加給スルコトアルヘシ

第十九條 換轍手、合圖手及雜役手ノ歩増給ハ一日ノ勤務時間九時間二分五厘ヲ超ユル一時間毎ニ日給額ノ九百二十五分ノ百ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

第二十條 各運轉系統ノ標準運轉時分ハ運輸部長之ヲ定ム

第二十一條 運輸部長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ各運轉系統ノ狀況ニ依リ早遲者有效時分ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 前項ノ有效時分ヨリ早遲著シタルトキハ運輸部長之ヲ審査決定ス

第二十三條 中休及其ノ他ノ勤務者ニハ左ノ乗務時間ヲ附與ス

中休勤務者 一回ニ付中休時分 六十分  
中休勤務者ヲ除キタル他ノ勤務者 一日ニ付食事時分 三十分  
營業電車ノ出庫又ハ入庫作業ニ從事セシ者 一回ニ付 出庫 七十分 入庫 十三分

第二十四條 車掌、運轉手ニシテ撒水電車、終夜運轉電車其ノ他特殊ノ電車乗務ニ服シタル者ニ對シテハ運輸部長ハ其ノ勤務狀態ヲ考査シ相當ノ乗務時間ヲ定ムルコトヲ得

十二月三十一日

十一月十日(戎祭) 七月二十五日(天神祭)

第二十五條 各運轉系統ノ標準運轉時分ハ運輸部長之ヲ定ム

第二十六條 運輸部長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ各運轉系統ノ狀況ニ依リ早遲者有效時分ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條 前項ノ有效時分ヨリ早遲著シタルトキハ運輸部長之ヲ審査決定ス

第二十八條 中休及其ノ他ノ勤務者ニハ左ノ乗務時間ヲ附與ス

中休勤務者 一回ニ付 中休時分 六十分  
中休勤務者ヲ除キタル他ノ勤務者 一日ニ付 食事時分 三十分  
營業電車ニ乗務シタル者 一回ニ付 出庫 七十分 入庫 十三分

第二十九條 車掌、運轉手見習生教養手當支給規程

第三十條 電車及自動車運轉事務所ノ組ニ關スル獎勵規程

第三十一條 營業自動車車掌、營業自動車運轉手及應急車運轉手ノ歩増給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日ニ至ル一月間ノ乗務總時間ヨリ義務乗務時間ヲ控除シ其ノ超過時間ニ對シ之ヲ支給ス

第三十二條 義務乗務時間ハ營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニ在リテハ七時間二分五厘ニ、應急車運轉手ニ在リテハ八時間ニ一月ノ勤務日數ヲ乘シタルモノトス

第三十三條 第二十九條ノ支給金額ハ超過時間一時間ニ付營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニ在リテハ日給額ノ七百二十五分ノ百、應急車運轉手ニ在リテハ八百分ノ百ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

第三十四條 一月間ノ超過時間ニ對シ業務上必要アリト認ムルトキハ二割以下ノ特別歩増ヲ加給スルコトアルヘシ

第三十五條 自動車信號手ノ歩増給ハ一日ノ勤務時間九時間二分五厘ヲ超ユル一時間毎ニ日給額ノ九百二十五分ノ百ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

シ相當ノ乗務時間ヲ定ムルコトヲ得

第二十三條 乘務シ能ハサル特別ノ事由アル者ニシテ運輸部長ニ於テ必要アリト認ムル者ニハ特ニ乗務シタルモノト看做シ相當ノ乗務時間ヲ附與スルコトヲ得

第二十四條 運輸部長ニ於テ必要ナキモノト認メタルトキハ前條ノ特殊電車乗務者及前項ノ特殊勤務者ニ對シテハ第二十一條ノ中休及食事時分ヲ附與セサルコトヲ得

第二十五條 業務手當ハ左ノ金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

第二十六條 車掌、女子車掌、運轉手 一月一人平均 八圓  
撒水車掌、撒水運轉手、換轍手、合圖手 一月一人平均 五圓  
雜役手 一月一人平均 二圓

第二十七條 乘務手當ハ運轉手兼車掌タル者車掌ノ勤務ヲ命セラレ一日三回以上乗務シタルトキニ二十錢ヲ支給ス

第二十八條 前項ノ乗務回数ハ一運轉系統ヲ以テ一回トス但シ時宜ニ依リ其ノ未滿ヲ以テ一回ト看做スコトアルヘシ

第二十九條 紋日手當ハ當日定時間勤務ニ服シタル者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 營業車ニ乗務シタル者 十二月三十一日 一圓  
十一月十日(戎祭) 七月二十五日(天神祭) 二圓

第三十條 營業車ニ乗務セサル者 一圓

〔大電〕

第三十一條 各運轉系統ノ標準運轉時分ハ運輸部長之ヲ定ム

第三十二條 運輸部長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ各運轉系統ノ狀況ニ依リ早遲者有效時分ヲ定ムルコトヲ得

第三十三條 前項ノ有效時分ヨリ早遲著シタルトキハ運輸部長之ヲ審査決定ス

第三十四條 中休及其ノ他ノ勤務者ニハ左ノ乗務時間ヲ附與ス

中休勤務者 一回ニ付 中休時分 六十分  
中休勤務者ヲ除キタル他ノ勤務者 一日ニ付 食事時分 三十分

第三十五條 營業自動車運轉手ニシテ特殊ノ自動車乗務ニ服シタル者ニ對シテハ運輸部長ハ其ノ勤務狀態ヲ考査シ相當ノ乗務時間ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 乘務シ能ハサル特別ノ事由アル者ニシテ運輸部長ニ於テ必要アリト認ムル者ニハ特ニ乗務シタルモノト看做シ相當ノ乗務時間ヲ附與スルコトヲ得

第三十七條 運輸部長ニ於テ必要ナキモノト認ムルトキハ前條ノ特殊自動車乗務者及前項ノ特殊勤務者ニ對シテハ第三十五條ノ中休及食事時分ヲ附與セサルコトヲ得

第三十八條 業務手當ハ營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニ對シ一月一人平均八圓ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

第三十九條 瓦斯倫手當ハ營業自動車運轉手ニ對シ別ニ定ムル瓦斯倫標準消費量ヨリ節約シ得タル瓦斯倫量ニ應シ一月一人平均五圓ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

第四十條 運轉手當ハ營業自動車運轉手ニ對シ各人ノ運轉料及業務成績



第四類 給與 第一章 給料及旅費

續ニ應シ一人一月八圓ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

第四十一條 非營業車乗務其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル爲第三十八條乃至第四十條ノ手當ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ運輸部長其ノ勤務狀態ヲ考查シ相當ノ補給ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 紋日手當ハ當日定時間勤務ニ服シタル者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 營業車ニ乗務シタル者
  - 十二月三十一日 一圓
  - 一月十日(戎祭) 七月二十五日(天神祭) 二圓
- 二 營業車ニ乗務セサル者
  - 十二月三十一日 五十錢
  - 一月十日(戎祭) 七月二十五日(天神祭) 一圓

第四十三條 業務手當、瓦斯倫手當及運轉手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ノ分ヲ其ノ月ノ末日迄ニ紋日手當ハ其ノ都度之ヲ支給ス

第四十四條 自動車從業員ノ手當及獎勵金ニ關シテハ仍ホ左ノ規程ヲ準用ス

車掌、運轉手見習生教養手當支給規程  
電車及自動車運輸事務所ノ組ニ關スル獎勵規程

第四節 高速從業員

第四十五條 高速從業員ノ歩増給ハ高速車掌、女子高速車掌及高速運轉手ニ在リテハ行路表ヲ、高速信號手、改札手、出札手及驛手ニ在リテハ勤務時間割表ヲ超ユル一時間毎ニ八百分ノ百ノ割合ヲ以テ之

高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手、改札手、出札手 一圓  
驛手 五十錢

第五十一條 高速車掌見習及女子高速車掌見習ヲ教養シタル高速車掌及女子高速車掌並高速運轉手見習及高速運轉手ニ轉職セントスル高速車掌ヲ教養シタル高速運轉手ニ對シテハ左ノ見習教養手當ヲ支給ス

- 一 高速車掌見習及女子高速車掌見習ヲ教養シタル者
  - 一人ニ付 二圓
- 但シ徵兵應召ノ爲退職シ再就職シタル見習ヲ教養シタル者
  - 一人ニ付 一圓
- 二 高速運轉手見習ヲ教養シタル者
  - 一人ニ付 一圓
- 但シ徵兵應召ノ爲退職シ再就職シタル見習ヲ教養シタル者
  - 一人ニ付 四圓
- 三 高速運轉手ニ轉職セントスル高速車掌ヲ教養シタル者
  - 一人ニ付 二圓

前項ノ金額ハ全期間教養ニ從事シタル者ニ對スル支給額トシ教養日數全期間ニ滿タサル者ニ對シテハ日割計算ニ依リ之ヲ支給ス但シ教養日數五日以下ノ者ニ對シテハ之ヲ支給セズ

第五十二條 業務手當、高速手當、廢休手當、宿直手當及見習教養手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ノ分ヲ其ノ月ノ末日迄ニ紋日手當ハ其ノ都度之ヲ支給ス

第五節 技術從業員

第四類 給與 第一章 給料及旅費

第四類 給與 第一章 給料及旅費

ヲ支給ス

第四十六條 行路表及時間割表ハ運輸部長之ヲ定ム

第四十七條 廢休又ハ宿直勤務ニ服シタルトキハ左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

廢休手當 定時間ニ付 日給額  
宿直手當 一回ニ付 五十錢

第四十八條 業務手當ハ左ノ金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ支給セサルコトアルヘシ

高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手

- 一月一人平均 七圓
- 一月一人平均 五圓
- 一月一人平均 三圓

第四十九條 高速手當ハ地下線ニ勤務スル者ニ對シ左ノ金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手

- 一月一人平均 八圓
- 一月一人平均 五圓
- 一月一人平均 三圓

出札手、改札手

第五十條 紋日手當ハ十二月三十一日及業務上特ニ繁忙ナリシ日ニシテ必要アリト認ムルトキ當日定時間勤務ニ服シタル者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

出札手、改札手 一月一人平均 八圓  
驛手 一月一人平均 五圓

第五十三條 時間外、廢休、晝夜又ハ宿直勤務ニ服シタルトキハ左ノ區別ニ依リ加給ス

勤務別	給與名	加給額
時間外勤務	歩増	一時間(未滿切捨)毎ニ日給額ノ八分ノ一
廢休勤務	廢休手當	定時間ニ付日給額
晝夜勤務	割増	歩増ノ外日給額ノ八分ノ二
宿直勤務	宿直手當	一回ニ付 五十錢

第五十四條 遅刻三十分、早退一時間及各其ノ未滿ノ端數ニ付日給額ノ八分ノ一ヲ歩引ス

第五十五條 技術從業員ノ手當及獎勵金ニ關シテハ別ニ定ムルモノ、外左ノ規定ヲ準用ス

- 電氣局發電所石炭節約獎勵金支給規程
- 受託電氣機械器具材料販賣勸誘料支給規程
- 電燈燭光增加勸誘獎勵規程
- 電燈勸誘獎勵規程
- 白熱瓦斯入電球販賣獎勵金支給規程
- 工事獎勵金支給規程
- 需用者所有電氣扇修繕獎勵規程
- 電氣扇勸誘獎勵規程
- 點燈手當支給規程
- 電流無斷使用發見手當支給規程



第四類 給與 第一章 給料及旅費

- 電熱勸誘獎勵規程
- 電氣扇附屬品硝酸揚々作業特別手當支給規程
- 電力勸誘獎勵規程
- 製作修理獎勵金支給規程
- 電球サツク蒐集獎勵金支給規程
- 電氣器具修理獎勵金支給規程
- 工事不良箇所發見手當支給規程
- 料金請求洩發見並集金手當支給規程
- 自動車運轉手臨時手當支給規程
- 夜間柱上作業手當支給規程

第五十六條 技術從業員ニシテ地下線ニ於テ勤務ニ服シタル者ニ對シテ一人一月五圓ノ範圍内ニ於テ高速手當ヲ支給ス

前項ノ支給額ハ所屬部長勤務狀態ヲ考查シテ之ヲ定ム

第五十七條 前條ノ金額ハ一月間連續勤務シタル者ニ對スル支給標準額ニシテ一月ニ滿タサル者ノ支給額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

附則

本規程ハ昭和八年七月十一日以降採用ノ從業員ニ之ヲ適用ス

●從業員規程施行細則

第一條 電車從業員ニ支給スヘキ業務手當ノ總額ハ左ノ各號ニ依リ之最近改正 昭九、一一 達電二四

- 一 車掌、女子車掌 五百點
- 二 運轉手 四百點
- 三 點檢ニ應シタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ增點ヲ附與ス但シ車掌及女子車掌ハ點檢前乘車券ヲ受領スルコトヲ要ス
- 四 點檢ニ應シタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ增點ヲ附與ス但シ車掌及女子車掌ハ點檢前乘車券ヲ受領スルコトヲ要ス

第五條 前三條ニ依ル各人ノ一調査期間得點數三千點ヲ超ユル點數ヲ以テ車掌、女子車掌及運轉手各人ニ對スル業務手當支給額算出ノ基礎トス

第六條 第二條及第五條ノ計算上生シタル端數ハ左ノ各號ニ依リ整理ス

- 一 毎日ノ得點數ハ一點未滿ヲ切捨ツ
- 二 一調査期間積算シタル得點數ニ百點未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五十點以上ハ之ヲ百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

第七條 撒水車掌、撒水運轉手、換轍手、合圖手及雜役手ノ業務手當支給額ハ一調査期間ノ勤務成績ヲ考查シ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム但シ調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對シテハ日割計算ニ依ル

等級	撒水車掌、撒水運轉手、換轍手、合圖手	雜役手
甲	六圓	三圓
乙	五圓	二圓
丙	四圓	一圓

第八條 撒水車掌、撒水運轉手、換轍手、合圖手及雜役手ニシテ缺勤、

第四類 給與 第一章 給料及旅費

ヲ定ム

- 一 電車乘客收入ノ月額カ前年度當該月ノ乘客收入額以上ニ達シタルトキハ其ノ翌月ノ支給標準額左ノ如シ
- 二 電車乘客收入ノ月額カ前年度當該月ノ乘客收入額ニ達セサルトキハ其ノ翌月ノ支給標準額ハ前號ノ一割五分減ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム
- 三 調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對スル支給標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

撒水車掌、撒水運轉手、換轍手及合圖手ハ一人ニ付五圓トシ之ニ總員ヲ乘シタル金額

- 一 普通車乘務 乘組車掌又ハ女子車掌一人ノトキハ賣上高十錢ニ付一點 二人ノトキハ賣上高合計十五錢ニ付各人一點
- 二 貸切車乘務 一回ニ付三十點
- 三 代用券ハ一枚六錢ノ割合ヲ以テ換算シ得點數ニ加フ

第二條 車掌及女子車掌ノ乘車券賣上高ニ依ル毎日ノ得點數ハ左ノ如シ

- 一 普通車乘務 乘組車掌又ハ女子車掌一人ノトキハ賣上高十錢ニ付一點 二人ノトキハ賣上高合計十五錢ニ付各人一點
- 二 貸切車乘務 一回ニ付三十點
- 三 代用券ハ一枚六錢ノ割合ヲ以テ換算シ得點數ニ加フ

第三條 車掌及運轉手ニシテ貸車乘務其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル者ニ對シテハ其ノ勤務成績ヲ考查シ運輸部長ニ於テ相當ノ得點數ヲ定ム

第四條 車掌、女子車掌及運轉手ニシテ一調査期間完全ニ出勤時刻前

〔大電〕

遅刻又ハ早退アリタルトキハ左ノ區別ニ依リ前條ノ手當支給額ヲ減ス

種別	撒水車掌、撒水運轉手、換轍手、合圖手	雜役手
缺勤一日ニ付	十錢	十錢
遅刻、早退各一回ニ付	二錢	七錢

第九條 營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニ支給スヘキ業務手當ノ總額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

- 一 自動車乘客收入ノ月額カ前年度當該月ノ乘客收入額ヲ基準トシ營業路線及運轉車輛等ヲ斟酌シテ定メタル金額以上ニ達シタルトキハ其ノ翌月ノ支給標準額ハ一人ニ付八圓トシ之ニ總員ヲ乘シタル金額
- 二 自動車乘客收入ノ月額カ前號ニ於テ定メラレタル金額ニ達セサルトキハ其ノ翌月ノ支給標準額ハ前號ノ一割五分減ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム
- 三 調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對スル支給標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第十條 營業自動車車掌ノ乘車券賣上高ニ依ル毎日ノ得點數左ノ如シ

- 一 普通車乘務 賣上高ニ對スル得點ヲ甲號路線ハ十錢、乙號路線ハ九錢、丙號路線ハ八錢ニ付一點トス
- 二 貸切車乘務 貸切料十錢ニ付一點但シ區間貸ニ於ケル待合料金ハ其ノ二分ノ一ノ金額ニ對シ十錢ニ付一點



第四類 給與 第一章 給料及旅費

代用券ハ一枚五錢ノ割合ヲ以テ換算シ得點數ニ加フ  
 第一項營業路線ノ種別ハ運輸部長ニ於テ之ヲ定ム

營業自動車運轉手ノ得點數ハ乘組營業自動車車掌ト同一トス

第十一條 營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニシテ特殊ノ勤務ニ服シタル者ニ對シテハ其ノ勤務成績ヲ考査シ運輸部長ニ於テ相當ノ得點數ヲ定ム

第十二條 營業自動車車掌及營業自動車運轉手ニシテ一調査期間完全ニ出勤時刻前點檢ニ應シタル者ニ對シテハ増點五百點ヲ附與ス但シ營業自動車車掌ハ點檢前乘車券ヲ受領スルコトヲ要ス

第十三條 前三條ニ依ル各人ノ一調査期間得點數二千點ヲ超ユル點數ヲ以テ各人ニ對スル業務手當支給額算出基礎トス

第十四條 營業自動車運轉手ニ支給スヘキ瓦斯倫手當ノ總額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一 一調査期間一人平均瓦斯倫節約量カ三十「ガロン」以上ニ達シタルトキハ一人ニ付五圓、三十「ガロン」ニ達セサルトキハ一人ニ付四圓トシ之ニ總員ヲ乘シタル金額

二 調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ノ支給標準額及瓦斯倫節約量ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 營業自動車運轉手各人ニ對スル瓦斯倫手當支給額ハ前條ニ依リ算出シタル瓦斯倫手當ノ總額ヲ瓦斯倫節約總量ヲ以テ除シタルモノヲ基礎トシ之ニ各人ノ節約量ヲ乘シタル金額トス

第十六條 營業自動車運轉手ニ支給スヘキ運轉手當ハ各人ノ運轉料一料ニ付一、五點トシ算出シタル點數ニ第十三條ノ基礎點數ヲ加ヘ

ル得點數ニ百點未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五十點以上ハ之ヲ百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

二 瓦斯倫手當 毎日消費ノ瓦斯倫量單位以下一位未滿ノ端數ハ切捨テ一調査期間積算ノ節約瓦斯倫量一「ガロン」未滿ハ之ヲ四捨五入トス

三 運轉手當 毎日ノ運轉料一料未滿ハ切捨テ一調査期間積算料ノ換算得點數ニ百點未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五十點以上ハ之ヲ百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

第二十條 高速從業員ニ支給スヘキ業務手當及高速手當ノ總額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一 高速電車乗客收入ノ月額カ前年度當該月ノ乗客收入額ヲ基準トシ營業路線其ノ他ヲ斟酌シテ定メタル金額以上ニ達シタルトキハ其ノ翌月ノ支給標準額左ノ如シ但シ前年度當該月ノ乗客收入ナキトキハ運輸部長ニ於テ之カ月額ヲ定ム

高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手及高速信號手ハ一人ニ付業務手當ハ七圓高速手當ハ八圓トシ之ニ總員ヲ乘シタル金額改札手及出札手ハ一人ニ付業務手當ハ五圓、高速手當ハ五圓トシテ之ニ總員ヲ乘シタル金額

驛手ハ一人ニ付業務手當ハ三圓、高速手當ハ三圓トシ之ニ總員ヲ乘シタル金額

二 高速電車乗客收入ノ月額カ前號ニ於テ定メタル金額ニ達セサルトキハ前號ノ一割五分減ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

三 調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對スル支給標準額

第四類 給與 第一章 給料及旅費

タル總點數二千點以上ニ達シタル者ニ對シテ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

總點數	支給	金額
八千點以上	一人ニ付	八圓
七千點以上	一人ニ付	七圓
六千點以上	一人ニ付	六圓
五千點以上	一人ニ付	五圓
四千點以上	一人ニ付	四圓
三千點以上	一人ニ付	三圓
二千點以上	一人ニ付	二圓

第十七條 營業自動車運轉手ニシテ特殊ノ勤務ニ服シタル者ニ對シテハ其ノ勤務成績ヲ考査シ瓦斯倫手當及運轉手當トシテ運輸部長ニ於テ相當ノ金額ヲ定ム

第十八條 營業自動車運轉手ニシテ運轉事故ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキ自己ノ過失又ハ怠慢ニ依リ車輛ヲ損傷セシメ若クハ附屬品ヲ紛失シタルトキハ其ノ程度ニ應ジ運轉手當ヨリ運輸部長ニ於テ定ムル金額ヲ控除ス

第十九條 第十條及第十三條乃至第十六條ノ計算上生シタル端數ハ左ノ各號ニ依リ整理ス

額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第二十一條 高速從業員各人ニ對スル業務手當支給額ハ前條ノ支給標準額ヲ皆勤者ニ對スル支給額トシ缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ左ノ區別ニ依リ支給額ヲ減ス

種別	缺勤一日	遅刻、早退各一回ニ付	高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手	改札手、出札手	驛手
種別	三錢	十錢	十錢	二十錢	十五錢
種別	三錢	十錢	十錢	二十錢	十五錢

第二十二條 高速從業員各人ニ對スル高速手當支給額ハ第二十二條ノ支給標準額ヲ皆勤者ニ對スル支給額トシ缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ左ノ區別ニ依リ支給額ヲ減ス

種別	缺勤一日	遅刻、早退各一回ニ付	高速車掌、女子高速車掌、高速運轉手、高速信號手	改札手、出札手	驛手
種別	三錢	十錢	十錢	二十錢	十五錢
種別	三錢	十錢	十錢	二十錢	十五錢

第二十三條 技術從業員ニ支給スヘキ高速手當ノ總額ハ一人ニ付支給標準額ヲ五圓トシ之ニ其ノ支給ヲ受ケヘキ者ノ總員ヲ乘シタル金額トス但シ調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對スル支給標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第二十四條 技術從業員ニ對スル高速手當支給額ハ前條ノ支給標準額ヲ皆勤者ニ對スル支給額トシ缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ左



ノ區別ニ依リ支給ヲ減ス  
 勤 一日ニ付 十 五 錢  
 缺 勤 各一回ニ付 十 錢  
 遅刻、早退 各一回ニ付 十 錢  
**第二十五條** 公傷病、忌引又ハ交通遮斷ニ依ル缺勤及兵役並其ノ往復ニ要スル最少日數ノ缺勤ニ關シテハ三十日ヲ限度トシ運輸從業員ノ業務手當及運輸從業員並技術從業員ノ高速手當ハ之ヲ減セス

### 旅費條例

制定 明三一、二、二六告示三四

最近改正 昭一一、三 條例一一

本市會ノ議決ヲ經テ明治二十二年十月大阪市告示第七號旅費規則ヲ左ノ通改正ス

#### 旅費條例

**第一條** 本市吏員其ノ他ニシテ公務ノ爲旅行スルトキハ本條例ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ外國ニ旅行スル場合ノ旅費ハ市參事會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

**第二條** 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、宿泊料及日當トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リテ支給ス

**第三條** 鐵道賃ハ鐵道又ハ軌道旅行、船賃ハ水路旅行、車馬賃ハ陸路旅行ニ之ヲ支給ス

〔大電〕

鐵道、軌道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

**第四條** 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

**第五條** 市用ノ船、車、馬等ニ依リ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

**第六條** 途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道、軌道旅行ハ三百二十二粒、水路旅行ハ百八十五粒、陸路旅行ハ四十七粒ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

**第七條** 日當ハ公務ノ爲宿泊シタル場合ヲ除キ陸路二十四粒未滿、鐵道及軌道百三十粒未滿又ハ水路四十八粒未滿ノ旅行ニ在リテハ定額ノ二分ノ一、陸路十粒未滿、鐵道及軌道五十四粒未滿又ハ水路二十粒未滿ノ旅行ニ在リテハ定額ノ三分ノ一トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道及軌道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道及軌道ハ五・四粒、水路ハ二粒ヲ以テ陸路一粒ト看做シ陸路ニ換算シテ前項ノ規定ヲ適用ス

**第八條** 鐵道賃、船賃、車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一料未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

**第九條** 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スル必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ之ヲ計算ス

**第九條ノ二** 兼任又ハ兼務者ニシテ公務ノ爲旅行スルトキハ其ノ本務職ノ等級ニ依リ旅費ヲ支給ス

#### 第十條

旅行中退職又ハ休職ト爲リタル者ニハ舊在職地ニ至ル前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 懲戒處分ニ因リ解職セラレタル者
- 二 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ害スヘキ行爲アリタルニ因リ解職セラレタル者
- 三 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルニ因リ解職セラレタル者
- 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ失職シタル者

旅行中死亡シタルトキハ前項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

**第十一條** 事務引繼、殘務整理等ノ爲退職又ハ休職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス

新ニ任用スル爲召喚シタル者ニハ新任職相當ノ旅費ヲ支給ス

**第十二條** 特別ノ事情ニ依リ定額ノ旅費ヲ以テ支辨シ難キトキハ其ノ別表

等	級	鐵道賃一料	船賃一料	車馬賃一料	宿泊料一夜	日當一日
一 等	市長、市參與、助役、收入役、局長、理事、區長、名譽職員	五 錢	四 錢	三 十 錢	十 二 圓	八 圓
二 等	年 給 者	四 錢 三 厘	三 錢 三 厘	二 十 五 錢	九 圓	六 圓
三 等	其ノ他ノ有給吏員	三 錢 七 厘	三 錢 三 厘	二 十 錢	六 圓 五 十 錢	四 圓

〔大電〕

實費ヲ支給スルコトヲ得

**第十三條** 常時出張者ニ對シテハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

**第十四條** 市長ハ時宜ニ依リ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

**第十五條** 雇員ニシテ特別ノ取扱ヲ要スルモノ(雇外國人ノ類)及其ノ他別表中ニ記載セサル者ニ旅費ヲ支給スルノ必要アルトキハ別表ニ準シ市長之ヲ定ム

**第十六條** 國又ハ公共團體其ノ他ヨリ旅費ノ支辨ヲ受クルトキハ本條例ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給セス但シ其ノ受クル旅費額カ本條例ノ規定ニ依ル旅費額ヨリ少キトキハ市長ノ指定スルモノニ限り其ノ差額ヲ支給ス

**第十七條** 旅費ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

**第十八條** 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム



四	等	雇	員、備	人	三	錢	一	厘	二	錢	七	厘	十	三	錢	四	圓	五	十	錢	二	圓	五	十	錢
---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### ●旅費條例施行細則

制 定 昭一、三、一二告示一三三

旅費條例施行細則左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 旅費條例施行細則

第一條 旅行中身分ノ變更ニ依リ旅費ノ支給定額ニ増減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ新ナル身分ニ相當スル定額ヲ支給ス但シ鐵道貨、船貨及車馬賃ニ付テハ最近ノ停車驛、寄港地又ハ豫定到達地ヲ以テ其ノ定額ヲ區分シテ之ヲ計算ス

第二條 旅費條例第十四條ノ規定ニ依ル旅費額左ノ如シ

- 一 同一地ニ於テ滞在十五日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ對スル宿泊料及日當ハ定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ二割、四十五日ヲ超ユルトキハ三割、六十日ヲ超ユルトキハ四割ヲ減ス
- 二 東京市、京都市、名古屋市、横濱市、神戸市以外ノ市町村ニ旅行スルモノノ日當及宿泊料ハ別表ニ依ル

旅行ノ性質ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス更ニ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

#### 附則

大正十四年達第四號旅費規程第十四條ニ依ル旅費額ハ之ヲ廢止ス別表

### ●諸職員ノ諸給與金任意處分禁止ノ件

制 定 昭九、一〇、二五達一七二

本市有給吏員、雇傭員(現業員及從業員ヲ含ム)及市立學校、幼稚園、圖書館ノ教職員並雇傭員ハ其ノ俸給、給料其ノ他本市ヨリ支給セラレル一切ノ職務上ノ給與金債權ヲ處分スヘカラス

昭和九年十月二十五日達第一七二號ヲ以テ本市有給吏員、雇傭員(現業員及從業員ヲ含ム)及市立學校、幼稚園、圖書館ノ教職員並雇傭員ニ對シ俸給、給料其ノ他本市ヨリ支給スヘキ一切ノ職務上ノ給與金債權ノ任意處分ヲ禁止シタリ

〔大電〕

## 第二章 手當及獎勵金

### 第一節 特別勤務手當

#### ●集金人手當支給規程

制 定 大一二、一二、一一達電八三

電燈部集金人手當支給規程左ノ通相定ム

第一條 電燈部集金人手當支給規程

第二條 電燈部集金人ニ對シテハ一箇月ニ付金五圓ノ手當ヲ支給ス

第三條 前條ノ手當ヲ受クルモノニ對シテハ賄料ヲ支給セス

第四條 一箇月ヲ通シ缺勤シタル者ニハ本手當ヲ支給セサルモノトス

#### 附則

本則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程

制 定 昭六、一二、二三告示三二八

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經電氣局運輸職員運輸從業員勤續給與金規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

〔大電〕

第一條 電氣局運輸職員、運輸從業員ニ對シテハ本規程ニ依リ勤續給與金ヲ給與ス

第二條 勤續給與金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給與ス

- 一 運輸職員、運輸從業員(雜役夫ヲ除ク)ニシテ勤續二年ノ者ニハ年額二十圓、以後一年ヲ増ス毎ニ金十圓ヲ加給シ年額金百五十圓ニ至リテ止ム
- 二 雜役夫ニシテ勤續三年ノ者ニハ年額金二十五圓、以後一年ヲ増ス毎ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

第三條 勤續給與金ハ六月毎ニ年額ノ二分ノ一ヲ給與ス但シ退職又ハ死亡ノ際ハ六月未滿ノ端數ニ對シテハ之ヲ給與セス

#### 附則

本規程施行ノ際電氣局ニ在職セル運輸職員、運輸從業員ノ勤續年數ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算ス

### ●運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程施行細則

制 定 昭七、一、九告示 四

最近改正 昭七、七 告示一九〇

電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程施行細則左ノ通相定ム

第一條 電氣局運輸職員、運輸從業員勤續給與金規程施行細則

程ト稱ス)ノ適用ヲ受クル運輸職員、運輸從業員ハ運輸事務員運輸



事務員補、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、運輸監督助手、信號手、信號手補、電車車掌(撒水電車車掌ヲ除ク)、電車車掌補、電車車掌助手、電車運轉手(撒水電車運轉手ヲ除ク)、電車運轉手補、自動車車掌、自動車車掌補、自動車運轉手、自動車運轉手補、轉轍手、信號人、雜役夫トス

雜役夫ヨリ撒水電車車掌又ハ撒水電車運轉手ニ轉シタル者ニハ本規程第二條第二號ヲ適用ス

第二條 勤績年數ノ計算ニ關シテハ前條ニ定ムル運輸職員、運輸從業員トシテ電氣局ニ就職シタル月ヨリ之ヲ起算ス

第三條 勤績給與金年額ノ前期分ハ當該年數ニ達シタル月ノ翌月ヨリ、後期分ハ前期滿了月ノ翌月ヨリ各起算シ六月ニ達シタル月ノ翌月中ニ之ヲ支給ス

第四條 運輸職員、運輸從業員以外ノ職務ニ轉職シタル者ハ本規程ノ適用ニ關シテハ退職シタルモノト看做ス

附則 本細則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 技術職員、技術從業員並備員 勤績給與金規程

制定 大一一四、一二、一二告示二五一

本市會ノ議決ヲ經電氣局技術職員、技術從業員並備員勤績給與金規程左ノ通相定メ大正十四年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

工、塗工、印刷工、縫工、雜工、倉庫手、自動車運轉手(乗用自動車運轉手ヲ除ク)ヲ、備員トハ雜役ヲ謂フ

第二條 勤績年數ノ計算ニ關シテ常備トシテ電氣局ニ就職シタル月ヨリ之ヲ起算ス

第三條 勤績給與金年額ノ前期分ハ當該年數ニ達シタル月ノ翌月ヨリ、後期分ハ前期滿了月ノ翌月ヨリ各起算シ六箇月ニ達シタル月ノ翌月中ニ之ヲ支給ス

#### 附則

本規程施行ノ際勤績三年以上ニ達シタル者ノ第一次ノ給與方法ニ關シテハ電氣局長之ヲ定ム

### 運輸職員給與規程

制定 大一一四、一〇、二七達四九  
最近改正 昭五、四 達五三

電氣局運輸職員給與規程左ノ通相定メ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電氣局運輸職員給與規程

第一條 運輸事務員、運輸事務員補、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、運輸監督助手、信號手及信號手補ニハ本規程ニ依リ左ノ給與金ヲ支給ス

- 一 特別勤務手當
- 二 臨時手當

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

電氣局技術職員、技術從業員並備員勤績給與金規程

第一條 技術職員、技術從業員並備員ニ對シテハ本規程ニ依リ勤績給與金ヲ給與ス

第二條 勤績給與金ハ三年以上勤績シタル者ニ之ヲ給與ス勤績三年ノ者ハ年額金二十五圓トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金五圓ヲ加給シ年額金百圓ニ至リテ止ム

第三條 勤績給與金ハ六箇月毎ニ年額ノ二分ノ一ヲ給與ス但シ退職又ハ死亡ノ際ハ六箇月未滿ノ端數ニ對シテハ之ヲ給與セス

#### 附則

本規程施行ノ期日ハ市長之ヲ定ム  
本規程施行ノ際現ニ電氣局ニ在職セル現業員ノ勤績年數ニ付テハ常備トシテ本市ニ就職シタル月ヨリ之ヲ計算ス

### 技術職員、技術從業員並備員 勤績給與金規程施行細則

制定 大一一五、一、二三告示一四

電氣局技術職員、技術從業員並備員勤績給與金規程施行細則左ノ通相定ム

第一條 電氣局技術職員、技術從業員並備員勤績給與金規程(以下本規程ト稱ス)第一條ノ技術職員トハ局雇ヲ、技術從業員トハ機關工、汽鐵工、木工、石工、電工、機工、電路工、建築工、軌道工、測量

三代 務手 當  
四 賄 料

前項ノ規定ハ本市書記ニシテ運輸監督タル者ニ之ヲ適用セス

第二條 特別勤務手當ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一 運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、信號手

二 運輸事務員補 一人平均一月 十三圓

三 運輸監督助手及信號手補 同 同 七圓

前項ノ平均額ハ之ヲ給料支給期間在職ノ者ニ對スル支給標準額トシ

第三條 臨時手當ハ大祭祝日其ノ他ノ日ニ定時間勤務セシ者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭、昭治

節及十二月三十一日 一日 一圓

二 一月十日及七月二十五日 同 二圓

第四條 代務手當ハ公休日ニ他ノ職員ノ代務ヲ命セラレ定時間勤務セシ者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ各自ノ給料日額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、運輸監督助手、信號手、信號手補



二 運輸事務員補 一日 一圓五十錢

第五條 賄料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 晝夜交替勤務又ハ三時間以上定時間外勤務ニ服セシ者  
運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、運輸監督助  
手、信號手、信號手補 一度 六十錢

二 五時間以上定時間外勤務ニ服セシ者又ハ宿直セシ者  
運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、運輸監督助  
手、信號手、信號手補 一度 八十錢

三 運輸委員會ニ出席シタル者 同 六十錢

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ電氣局長之ヲ定ム

附則 大正九年三月達第十二號運輸現業員特別勤務手當支給規程、大正十一年七月達第二十六號電氣鐵道部運輸現業員臨時手當支給規程、大正十一年七月達第二十七號電氣局運輸現業員代務手當支給規程、大正九年三月達第十一號電氣局運輸現業員支給規程ハ之ヲ廢止ス

大正九年三月達第十二號運輸現業員特別勤務手當支給規程、大正十一年七月達第二十六號電氣鐵道部運輸現業員臨時手當支給規程、大正十一年七月達第二十七號電氣局運輸現業員代務手當支給規程、大正九年三月達第十一號電氣局運輸現業員支給規程ハ之ヲ廢止ス

●運輸職員給與規程施行細則

運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、信號手	六十五錢	運輸事務員補	三十錢	運輸監督助、信號手補	五十錢
運輸事務員補	五十錢	事務員補	二十錢	運輸監督助、信號手補	三十錢

第四條 公傷病、忌引又ハ交通遮斷ノ爲メ出勤シ難キ者、兵役及其ノ往復ニ要スル最小日數ノ缺勤ニ對シテハ三十日ヲ限度トシ特別勤務手當ノ金額ヲ減セス

第五條 教習所ニ入學シ其ノ教育ヲ受ケル者及晝夜交替勤務者ニシテ非番日ニ該當スル者ニ對シテハ臨時手當ヲ支給セス但シ特ニ非番日ニ勤務ヲ命ジタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第六條 特別勤務手當、代務手當及賄料ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ノ分ヲ其ノ月末日迄ニ之ヲ支給ス  
臨時手當ハ其ノ都度之ヲ支給ス

附則 大正九年三月達電第九號運輸現業員特別勤務手當支給規程施行細則ハ之ヲ廢止ス

●運輸從業員給與規程

制 定 大一四、一〇、二七達五〇  
最近改正 昭 六、二 達 六六

制 定 大一四、一一、二一達電六七  
最近改正 昭 五、四 達電一七

電氣局運輸職員給與規程施行細則左ノ通制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸職員給與規程施行細則

第一條 特別勤務手當一箇月ノ總額ハ左ノ區別ニ依ル金額ニ各調査期間在勤シタル總員ヲ乘シテ算出シタル額トス但シ調査期間ノ中途ニ就職又ハ退職シタル者ニ對スル金額ハ日割計算トス

一 運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、信號手 一人ニ付 金十三圓

二 運輸事務員補 同 金七圓

三 運輸監督助手、信號手補 同 金十圓

第二條 前條ノ手當總額ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日ニ至ル一ヶ月間ノ勤務成績ヲ考査シ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給額ヲ定ム但シ調査期間ノ中途ニ退職又ハ就職シタル者ニ對シテハ日割計算ニ依ル

等級	運輸事務員、教習所教員、運輸監督、運輸監督補、信號手	運輸事務員補	運輸監督助手、信號手補
甲	十四圓	八圓	十一圓
乙	十三圓	七圓	十圓
丙	十二圓	六圓	九圓

第三條 缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ前條ニ依ル手當支給額ヨリ左ノ金額ヲ減ス

〔大電〕

電氣局運輸從業員給與規程左ノ通制定メ大正十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸從業員給與規程

第一條 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、轉轍手、信號人、雜役夫、檢札員、運輸給仕及同使丁ニハ本規程ニ依リ左ノ給與金ヲ支給ス

一 特別勤務手當

二 臨時勤務手當

三 臨時手當

四 賄料

第二條 特別勤務手當ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス但シ勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ヲ支給セサルコトアル

一 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手

二人平均一月 十圓

二 轉轍手、信號人 同 七圓

三 雜役夫 同 三圓

前項ノ平均額ハ之ヲ給料支給期間在職ノ者ニ對スル支給標準額トシ給料支給期間ノ中途ニ於テ退職又ハ就職シタル者ニ對スル支給標準額ハ前項平均額ノ日割計算ニ依リ之ヲ定ム



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

四五四

第三條 臨時勤務手當ハ電車運轉手又ハ電車運轉手補ニシテ電車車掌又ハ電車車掌補ヲ兼務スル者電車車掌又ハ電車車掌補ノ勤務ヲ命セラレ一日三回以上乗務シタル者ニ金二十錢ヲ支給ス  
前項ノ乗務回数ハ一運轉系統ヲ以テ一回トス但シ時宜ニ依リ其ノ未滿ヲ以テ一回ト看做スコトアルヘシ

第四條 臨時手當ハ大祭祝日其ノ他ノ日ニ定時間勤務セシ者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭、明治節及十二月三十一日  
電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、轉轍手、信號人、雜役夫  
一日 一圓
- 檢札員、給仕、使丁  
同 五十錢

二月十日及七月二十五日

- 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、轉轍手、信號人、雜役夫  
一日 二圓

第五條 賄料ハ給仕及使丁ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 晝夜交替勤務又ハ三時間以上定時間外勤務ニ服セシ者  
一 度 三十錢
- 二 五時間以上定時間外勤務又ハ休日ヲ廢シ勤務ニ服セシ者  
同 四十錢

支給標準額ヲ金五圓トシ缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ左ノ金額ヲ減ス但シ調査期間ノ中途ニ退職又ハ就職シタル者ニ對スル支給標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

- 缺 勤 一日ニ付 金貳拾五錢
- 遅刻、早退 各一回ニ付 金拾五錢
- 二 第三條乃至第六條ニヨル得點數ニ對スル支給標準額ヲ金五圓トシ尙前號規定ニヨル控除額ヲ加算ス
- 第三條 電車車掌、電車車掌補及電車車掌助手ノ乗車券賣上高ニ依リ毎日ノ得點數ハ左ノ如シ但シ一點未滿ハ之ヲ切捨ツ

- 一 四輪車乗務賣上高十錢ニ付一點
- 二 八輪車乗務賣上高二人分合計十五錢ニ付一點
- 三 團體輸送ハ四輪車、八輪車共一回ニ付三十點
- 電車運轉手及電車運轉手補ノ得點數ハ乘組電車車掌、電車車掌補及電車車掌助手ト同一トス

代用券ハ其ノ一枚ヲ賣上高六錢ノ割合トシテ換算シ第一項第一號又ハ同第二號ニ依リ其ノ得點數ニ加フルモノトス

第四條 荷車並撤水車乘組電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補及電車車掌助手又ハ其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル者ハ其ノ勤務ノ狀態ト成績トヲ考査シ運輸部長ニ於テ相當ノ得點數ヲ定ム

第五條 前二條ノ得點數ヨリ一人一ヶ月ノ義務點數三千點ヲ控除シタルモノヲ毎月ノ特別勤務手當支給額算出ノ基礎トス但シ得點數ニ一百點未滿ノ端數ヲ生シタル場合ハ五十點以上ハ之ヲ一百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

四五五

三 宿直セシ者

同 四十錢

第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ電氣局長之ヲ定ム

附則

大正九年三月遠電第一號臨時勤務手當支給內規ハ之ヲ廢止ス

●運輸從業員給與規程施行細則

制 定 大一四、一一、二一遠電六八  
最近改正 昭 六、二 遠電 六

電氣局運輸從業員給與規程施行細則左ノ通制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 電氣局運輸從業員給與規程施行細則

- 一 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補及電車車掌助手、一人ニ付金十圓トシ之ニ其ノ總員ヲ乘シタル金額
- 二 轉轍手及信號手、一人ニ付金七圓トシ之ニ其ノ總員ヲ乘シタル金額
- 三 雜役夫、一人ニ付金三圓トシ之ニ其ノ總員ヲ乘シタル金額

第二條 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補及電車車掌助手ノ特別勤務手當支給額ハ金十圓ヲ二分シ左ノ區別ニヨリ算出ス

- 一 毎月二十一日ヨリ翌月二十日ニ至ル一箇月間ノ皆勤者ニ對スル  
〔大電〕

第六條 一箇月間完全ニ出勤時刻前點檢ニ應ジタル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ增點ヲ附與ス但シ電車車掌、電車車掌補及電車車掌助手ハ點檢前乘車券ヲ受領スルコトヲ要ス

- 一 電車車掌、電車車掌補及電車車掌助手 增點 五百點
- 二 電車運轉手及電車運轉手補 增點 四百點

第七條 轉轍手、信號人及雜役夫ノ特別勤務手當支給額ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日ニ至ル一ヶ月間ノ勤務成績ヲ考査シ左ノ標準ニ依リ之カ支給額ヲ定ム但シ調査期間ノ中途ニ退職又ハ就職シタル者ニ對シテハ日割計算ニ依ルモノトス

等級	轉轍手、信號人	雜役	夫
甲	八圓	四圓	四圓
乙	七圓	三圓	三圓
丙	六圓	二圓	二圓

第八條 缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ前條ニ依リ手當支給額ヨリ左ノ金額ヲ減ス

缺勤	轉轍手、信號人	雜役	夫
一日ニ付	三十錢	十五錢	十五錢



遅刻、早退各一回	二十錢
	十錢

第九條 公傷病、忌引又ハ交通遮斷ノ爲メ出勤シ難キ者、兵役及其往復ニ要スル最小日數ノ缺勤ニ對シテハ三十日ヲ限度トシ特別勤務手當ノ金額ヲ減セズ

第十條 教習所高等科又ハ專科ニ入學シ其ノ教育ヲ受クル者及晝夜交替勤務者ニシテ非番日ニ該當スル者ニ對シテハ臨時手當ヲ支給セズ但シ特ニ普通ノ職務ニ服セシメ又ハ非番日ニ勤務ヲ命シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 特別勤務手當、臨時勤務手當及賄料ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ノ分ヲ其ノ月ノ末日迄ニ之ヲ支給ス  
臨時手當ハ其ノ都度之ヲ支給ス

### ●乗合自動車乗務員給與規程

制定 昭八、一一、一八達一二四

電氣局乗合自動車乗務員給與規程左ノ通相定メ昭和八年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局乗合自動車乗務員給與規程

第一條 本規程ニ於テ乗合自動車乗務員トハ自動車運轉手、自動車運轉手補、自動車車掌及自動車車掌補(以下單ニ運轉手、運轉手補、車掌及車掌補ト稱ス)ヲ謂フ  
第二條 乗合自動車乗務員ニハ本規程ニ依リ左ノ手當ヲ給與ス

- 一 業務手當
  - 二 瓦斯倫手當
  - 三 運轉手當
  - 四 紋日手當
- 勤務成績不良ノ者又ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ前項ノ手當ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 第三條 業務手當ハ業務成績ニ應シ一月一人平均運轉手、運轉手補及車掌ハ十圓、車掌補ハ八圓ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第四條 瓦斯倫手當及運轉手當ハ運轉手及運轉手補ニ對シ左ノ各號ニ依リテ之ヲ支給ス但シ一月ヲ通シ責任軒程ヲ運轉勤務セル者ハ之ヲ除外ス
- 一 瓦斯倫手當ハ別ニ定ムル標準消費量ヨリ各人ノ節約シ得タル瓦斯倫量ニ應シ一人一月平均五圓
  - 二 運轉手當ハ各人ノ運轉軒及業務成績ニ應シ一月一人平均運轉手十五圓、運轉手補十一圓
- 第五條 前二條ノ金額ハ一月間在職シタル者ニ支給スヘキ標準額ニシテ月ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ支給スヘキ標準額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム
- 第六條 非營業車乗務員ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル爲第三條及第四條ノ給與ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ電氣局長其ノ勤務狀態ヲ考査シ相當ノ補給ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 紋日手當ハ當日定時間勤務ニ服シタル者ニ對シ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

〔大電〕

〔大電〕

一 紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、天長節、秋季皇靈祭、明治節、十二月三十一日 一日 一圓

二 一月十日(戎祭)、七月二十五日(天神祭) 一日 二圓

第八條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ電氣局長之ヲ定ム

附則

昭和二年達第三七號電氣局乗合自動車運轉手、車掌獎勵手當及賄料支給規程ハ之ヲ廢止ス

### ●乗合自動車乗務員給與規程施行細則

制定 昭八、一一、一八達電三二

電氣局乗合自動車乗務員給與規程施行細則左ノ通相定メ昭和八年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局乗合自動車乗務員給與規程施行細則

第一條 業務手當、瓦斯倫手當及運轉手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日ニ至ル一月間各人ノ成績ヲ調査シ之ヲ定ム

第二條 業務手當ノ支給總額ハ自動車運轉手、自動車運轉手補、自動車車掌及自動車車掌補(以下單ニ運轉手、運轉手補、車掌、車掌補ト稱ス)ニ對スル支給標準額ニ總人員ヨリ第六條ノ得點數ニ達セサル者ヲ除キタル人員ヲ乘シタル金額トス

第三條 車掌及車掌補ノ乘車券賣上高ニ依リ毎日ノ得點數左ノ如シ

- 一 普通車乗務 賣上高ニ對スル得點ヲ甲號路線ハ十錢、乙號路線ヲ乘シタル金額トス

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

ハ九錢、丙號路線ハ八錢ニ付一點トス

二 貸切車乗務 貸切料金十錢ニ付一點但シ區間貸ニ於ケル待合料金ハ其ノ二分ノ一ノ金額ニ對シ十錢ニ付一點トス

代用券ハ一枚五錢ノ割合ヲ以テ換算シ得點數ニ加フ

第一項營業路線ノ種別ハ運輸部長ニ於テ之ヲ定ム

運轉手及運轉手補ノ得點數ハ乘組車掌又ハ車掌補ト同一トス

第四條 運轉手、運轉手補、車掌及車掌補ニシテ特殊ノ勤務ニ服シタル者ニ對シテハ其ノ勤務成績ヲ考査シ運輸部長ニ於テ相當ノ得點數ヲ定ム

第五條 運轉手、運轉手補、車掌及車掌補ニシテ一調査期間完全ニ出勤時刻前點檢ニ應シタル者ニ對シテハ増點五百點ヲ附與ス但シ車掌及車掌補ハ點檢前乘車券ヲ受領スルコトヲ要ス

第六條 前三條ニ依リ各人ノ一調査期間得點數二千點ヲ超ユル點數ヲ以テ各人ニ對スル業務手當支給額算出ノ基礎トス

第七條 瓦斯倫手當及運轉手當ニ對スル各人ノ一調査期間運轉責任軒ヲ一千軒トシ中途就職又ハ退職者ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

第八條 運轉手及運轉手補ニ支給スヘキ瓦斯倫手當及運轉手當ノ總額ハ其ノ支給標準額ニ總人員ヨリ前條ノ運轉責任軒ニ達セサル者ヲ除キタル人員ヲ乘シタル金額トス

第九條 瓦斯倫手當ノ各人ニ對スル支給額ハ前條ニ依リ算出シタル總額ヲ節約瓦斯倫量ヲ以テ除シタルモノヲ基礎トシ之ニ各人ノ節約量ヲ乘シタル金額トス

第十條 運轉手當ノ各人ニ對スル支給額ハ第八條ニ依リ算出シタル總



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

額ヲ各人ノ運轉料一料ニ付一、五點トシ算出シタル點數ニ第六條ノ基礎點數ヲ加ヘタル點數ノ合計ヲ以テ除シタルモノヲ基礎トシ之ニ各人ノ合計得點數ヲ乘シタル金額トス

第十一條 運轉手及運轉手補ニシテ運轉事故ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキ、自己ノ過失又ハ怠慢ニ依リ車輛ヲ損傷セシメ若クハ附屬品ヲ紛失シタルトキハ其ノ程度ニ應シ運轉手當ヨリ運輸部長ニ於テ定ムル金額ヲ控除ス

第十二條 第三條及第六條乃至第十條ノ計算上生シタル端數ハ左ノ各號ニ依リ整理ス

一 業務手當 毎日ノ得點數一點未滿ハ切捨テ一調査期間積算シタル得點數ニ百點未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五十點以上ハ之ヲ百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

二 瓦斯倫手當 毎日ノ消費瓦斯倫量單位以下一位未滿ノ端數ハ切捨テ一調査期間積算ノ節約瓦斯倫量「ガロン」未滿ハ之ヲ切捨ツ

三 運轉手當 毎日ノ運轉料一料未滿ハ切捨テ一調査期間積算料ノ換算得點數ニ百點未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五十點以上ハ之ヲ百點ニ繰上ケ五十點未滿ハ之ヲ切捨ツ

第十三條 業務手當、瓦斯倫手當及運轉手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ノ分ヲ其ノ月ノ末日迄ニ、紋日手當ハ其ノ都度之ヲ支給ス

セシ者

一人ニ付 金二圓

四 自動車車掌見習生及自動車車掌補見習生ヲ教養セシ者

一人ニ付 金一圓五十錢

第二條 教養期間全日數ニ滿タサル者ニ對シテハ前條ノ手當金ハ日割計算ニ依リ之ヲ支給ス但シ教養日數五日以内ノ者ニ對シテハ之ヲ支給セズ

第三條 教養手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ毎月末日迄ニ支給ス

●技術職員、技術從業員、事務  
雇員及傭員ニ高速手當支給ノ  
件

制 定 昭八、八、一七局長決定

一 技術職員、技術從業員、事務雇員及傭員ニシテ地下線ニ於テ勤務ニ服シタル者ニ對シテ一人一月五圓ノ高速手當ヲ支給ス

二 前項ノ金額ハ一月間連續勤務シタル者ニ對スル支給標準額ニシテ一月ニ滿タサル者ノ支給額ハ日割計算ニ依リ之ヲ定ム

三 高速手當ノ總額ハ一人ニ付支給標準額ヲ五圓トシ之ニ其ノ支給ヲ受ケヘキ者ノ總員ヲ乘シタル金額トス但シ調査期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對スル支給標準額ハ日割計算ニヨリ之ヲ定ム

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

●車掌運轉手見習生教養手當支給規程

四五八

制 定 大九、六、二一達電三五  
最近改正 昭七、六 達電三八

車掌、運轉手見習生教養手當支給規程左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

車掌運轉手見習生教養手當支給規程

第一條 電氣局電車車掌見習生、電車車掌補見習生、電車車掌助手見習生及撒水電車車掌見習生ヲ教養シタル電車車掌、電車運轉手見習生、電車運轉手補見習生及撒水電車運轉手見習生ヲ教養シタル電車運轉手、自動車車掌見習生及自動車車掌補見習生ヲ教養シタル自動車車掌ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ見習生教養手當ヲ支給ス

一 電車車掌見習生、電車車掌補見習生、電車車掌助手見習生及撒水電車車掌見習生ヲ教養セシ者 一人ニ付 金三圓

二 但シ徵兵應召ノ爲退職シタル者ニシテ再就職ノ場合其ノ見習生ヲ教養セシ者 一人ニ付 金二圓

三 電車運轉手見習生、電車運轉手補見習生及撒水電車運轉手見習生ヲ教養セシ者 一人ニ付 金五圓

四 但シ徵兵應召ノ爲退職シタル者ニシテ再就職ノ場合其ノ見習生ヲ教養セシ者 一人ニ付 金三圓

五 電車車掌、電車車掌補及撒水電車車掌ニシテ電車運轉手、電車運轉手補又ハ撒水電車運轉手ニ轉職スル場合其ノ見習生ヲ教養

〔大電〕

〔大電〕

四 高速手當支給額ハ前項ノ支給標準額ヲ皆勤者ニ對スル支給額トシ缺勤、遅刻又ハ早退アリタルトキハ左ノ區別ニ依リ支給額ヲ減ス

缺 勤 一日ニ付 十五錢  
各一回ニ付 十 錢

五 公傷病忌引又ハ交通遮斷ニ依リ缺勤及兵役並其ノ往復ニ要スル最少日數ノ缺勤ニ關シテハ三十日ヲ限度トシ高速手當ハ之ヲ減セズ

●電氣扇附屬品硝酸揚ケ作業特別手當支給規程

制 定 大一二、一二、二四達電八八

電氣扇附屬品硝酸揚ケ作業特別手當支給規程左ノ通制定シ大正十二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 電氣扇附屬品硝酸揚ケ作業特別手當支給規程

ハ本規程ニ依リ特別手當ヲ支給ス

第二條 前條ノ特別手當ハ勤務一日ニ付日給ノ半額ニ相當スル金額トス

第三條 特別手當金ハ翌月五日ニ前月分ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

四五九



### ●夜間柱上作業手當支給規程

制 定 昭一〇、一二、二〇達電三六

昭和六年達電第二〇號夜間柱上作業手當支給規程左ノ通改正シ昭和十年十二月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

夜間柱上作業手當支給規程

第一條 電燈部外線課架空線係、電燈營業所及同出張所々屬技術職員及技術從業員ニシテ電線路故障ノ爲夜間柱上復舊作業ニ從事スヘキ者ニ對シテハ勤務成績其ノ他ノ事情ヲ調査シ一人一月五圓以下ノ手當ヲ支給ス

前項ノ人員ハ左ノ範圍内ニ於テ電燈部長之ヲ定ム

電燈部外線課架空線係 一〇〇名

同電燈營業所 二八名

同出張所 一六〇名

第二條 運輸部工務課電線路係所屬技術職員及技術從業員ニシテ電燈電力用電柱ニ添架セル電線路故障ノ爲夜間柱上復舊作業ニ從事シタル者ニ對シテハ勤務成績其ノ他ノ事情ヲ調査シ一人一月五圓以下ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 本規程ニ於テ夜間トハ日没時ヨリ日出時迄ヲ謂フ

第四條 本手當ハ前月二十一日ヨリ當月二十日ニ至ル分ヲ當月末日迄ニ支給ス

### ●自動車運轉手臨時手當支給内規

制 定 大六、九、二一達五

自動車運轉手臨時手當支給内規左ノ通相定ム

自動車運轉手臨時手當支給内規

第一條 現業員ニシテ大阪府自動車運轉手免狀ヲ有シ自動車ノ運轉ニ從事スル者ニハ其ノ勤務ノ種類並技術ノ優劣ニ依リ等級ヲ定メ毎月左ノ臨時手當ヲ支給ス

一等 參圓

二等 貳圓五拾錢

三等 貳圓

四等 壹圓五拾錢

第二條 缺勤者ニ對シテハ前條ノ臨時手當支給額ヨリ缺勤一日ニ付一割ヲ減シ六日以上ノ缺勤者ニハ之ヲ支給セズ但シ公傷又ハ徵兵召集點呼其ノ他之ニ準スヘキ事項ニ因リ爲シタル缺勤ハ左ノ標準ニ依リ

一 甲公傷又ハ甲種傷病ノ爲メ爲シタル缺勤ハ出勤ト看做ス

二 乙公傷又ハ乙種傷病並徵兵召集點呼其ノ他之ニ準スヘキ事由ノ爲メ爲シタル缺勤ハ三日ニ付一割ヲ減ス三日未滿ノ端數亦同シ

三 甲、乙公傷又ハ甲、乙種傷病ノ爲メ入院治療中ノ缺勤ハ普通ノ缺勤ト看做ス

前項第二號ニ掲ケタル缺勤ト普通ノ缺勤トアル場合ハ各別ニ之方査定ヲ爲シ其ノ合計率ヲ臨時手當支給額ヨリ減スルモノトス

〔大電〕

第三條 臨時手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ヲ調査期間トシ毎月二十七日之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ繰下トス

第四條 就職解備其ノ他ノ事由ニヨリ一調査期間全日數在職セサル者ニハ臨時手當ヲ支給セズ

附則

第五條 本内規ハ大正八年八月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●見習手當支給規程

制 定 昭九、五、三〇達電一一

最近改正 昭九、一一 達電二六

大正四年達電第一八號見習手當支給規程左ノ通改正シ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

見習手當支給規程

第一條 本規程ニ於テ見習ト稱スルハ電車車掌見習、電車車掌補見習、電車車掌助手見習、撒水電車車掌見習、車掌見習、撒水車掌見習、女子車掌見習、電車運轉手見習、電車運轉手補見習、撒水電車運轉手見習、運轉手見習、撒水運轉手見習、信號人見習、合圖手見習、自動車車掌見習、自動車車掌補見習、營業自動車車掌見習、自動車運轉手見習、自動車運轉手補見習、營業自動車運轉手見習、自動車信號手見習、高速車掌見習、女子高速車掌見習、高速運轉手見習、高速信號手見習、改札手見習及出札手見習ヲ謂フ

第二條 見習ニ對シテハ敎習所ニ於ケル學習ヲ終リ實習ノ爲勤務シタル日一日ニ付左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

一 電車車掌見習、電車車掌補見習、撒水電車車掌見習、電車運轉手見習、電車運轉手補見習、撒水電車運轉手見習、信號人見習、

自動車運轉手見習、自動車運轉手補見習 金七十錢

二 電車車掌助手見習、自動車車掌見習、自動車車掌補見習 金六十錢

三 車掌見習、撒水車掌見習、女子車掌見習、運轉手見習、撒水運轉手見習、合圖手見習、營業自動車車掌見習、營業自動車運轉手見習、自動車信號手見習、高速車掌見習、女子高速車掌見習、高速運轉手見習、高速信號手見習、改札手見習、出札手見習 金四十錢

第三條 前條ノ手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ其ノ月ノ末日迄ニ之ヲ支給ス



### 第二節 時間外勤務手當

#### ● 賄料支給規程

制 定 昭一、三、一二告示一四

大正十三年大阪府告示第六十二號賄料支給規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### 賄料支給規程

第一條 本市吏員及雇傭員ニシテ所屬長ノ命ニ依リ勤務時間外ニ於テ勤務シタル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ賄料ヲ支給ス  
食事ノ給與ヲ爲ストキハ賄料ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

旅費條例ノ規定ニ依リ當日ノ日當ヲ受ケタル者、特別ノ規定ニ依リ歩増給、時間外勤務手當又ハ休日勤務手當ノ支給ヲ受ケル者及業務成績ニ因ル獎勵手當(勤務時間ニ拘ラス支給スル獎勵金ヲ除ク)ヲ受ケル者ニ對シテハ休日勤務賄料又ハ時間外勤務賄料ヲ支給セス

第二條 賄料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス但シ傭員ニ對シテハ其ノ半額トス

- 一 宿直賄料 一度 八十錢
- 二 休日勤務賄料 五時間未滿 六十錢以内  
五時間以上 八十錢以内
- 三 時間外勤務賄料

- 二時間以上 三十錢以内
- 四時間以上 五十錢以内
- 六時間以上 七十錢以内
- 八時間以上 八十錢以内

第三條 宿直賄料ハ宿直ト當直トニ區分シ各別ニ之ヲ支給ス

第四條 休日勤務賄料ハ休日勤務者ニ對シ之ヲ支給ス但シ勤務時間八時間ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル部分ニ對シ時間外勤務賄料ヲ支給ス

第五條 時間外勤務賄料ハ勤務定時間終了後翌日出勤時刻迄ニ於テ勤務シタル時間ヲ通算シテ之ヲ支給ス

第六條 賄料ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外翌月十五日ニ之ヲ支給ス但シ三月分ハ此ノ限ニ在ラス

賄料支給當日休日ニ當ルトキハ順次繰下トス

第七條 賄料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第八條 本市囑託員ニシテ日勤スル者ノ賄料ノ支給ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

##### 附則

大正十三年大阪府告示第六十二號賄料支給規程ハ之ヲ廢止ス

#### ● 電氣局病院看護婦並同見習生ニ對スル賄料支給方ノ件

制 定 昭三、四、一六局長決定

電氣局病院所屬看護婦並同見習生ニ對スル賄料昭和三年度ヨリ左ノ通

改メ之カ支給ヲ爲スモノトス

##### 一 宿直セシ者

- 看護婦 一人一度 金六拾錢
- 同見習生 同 金參拾錢

##### 二 徹夜勤務セシ者

- 看護婦 同 金六拾錢
- 同見習生 同 金參拾錢

##### 三 休日勤務セシ者

- (看護婦見習生ヲ除ク)
- 二時間ヲ超エタル場合 一人一度 金參拾錢
- 四時間以上ハ一時間ヲ超ユル毎ニ金拾錢ヲ加ヘ六拾錢ニ至リテ止ム

##### 四 夜間勤務セシ者

- (看護婦見習生ヲ除ク)
- 三時間ヲ超エタル場合 一人一度 金貳拾錢
- 四時間以上ハ一時間ヲ超ユル毎ニ金拾錢ヲ加ヘ六拾錢ニ至リテ止ム

#### ● 夜勤賄手當支給規程

制 定 大一二、一二、一五達電八五

最近改正 昭一〇、三

達電 八

夜勤賄手當支給規程左ノ通り改正シ大正十二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

##### 夜勤賄手當支給規程

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

第一條 電氣局所屬有給吏員及諸職員中晝夜交替勤務者ニシテ夜勤ヲ爲シタルトキハ本規程ニ依リ夜勤賄手當ヲ支給ス

第二條 夜勤賄手當ハ一日ニ付金六拾錢トス

#### ● 運輸從業員歩増給支給規程

制 定 昭二、三、一九達電二〇

最近改正 昭七、六

達電三五

運輸從業員歩増給支給規程左ノ通制定シ昭和二年二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

##### 運輸從業員歩増給支給規程

第一條 本規程ノ適用ヲ受ケル者ハ運輸給仕及運輸使丁ヲ除キタル運輸從業員トシ電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車車掌補、自動車運轉手及自動車運轉手補ニ在リテハ第二條乃至第八條ニ、撒水電車車掌、撒水電車運轉手ニ在リテハ第二條、第三條、第七條第一項及第八條ニ、轉轍手、信號人、雜役夫及検査員ニ在リテハ第九條及第十條ニ定ムル所ニ依ル

第二條 歩増給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル一箇月間ノ乗務時間ヲ積算シ之ヲ義務乗務時間ト比較對照シ超過時間アル者ニ對シテ之ヲ支給ス但シ左ノ場合ニ於ケル乗務時間ハ之ヲ積算セス  
一 運輸部長ニ於テ別ニ定ムル運轉時分ヨリ早著シタルトキ  
二 運轉時分ヨリ十分以上ノ延著ニシテ運輸部長ニ於テ其ノ理由ナ



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

キモノト認メタルトキ

前項支給金額ハ超過時間一時間ニ付電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車車掌補、自動車運轉手及自動車運轉手補ニ在リテハ各人日給額ノ七百二十五分ノ百、撒水電車車掌、撒水電車運轉手ニ在リテハ各人日給額ノ八百ノ百ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 義務乗務時間ハ一箇月ノ勤務日數ニ電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補、電車車掌助手、自動車車掌、自動車車掌補、自動車運轉手及自動車運轉手補ニ在リテハ七時間ニ歩五厘ヲ、撒水電車車掌、撒水電車運轉手ニ在リテハ八時間ヲ乘シタルモノトス

第四條 一箇月間ノ義務乗務時間ヲ超ユル乗務時間ハ三割増トシテ計算ス但シ早出又ハ延長勤務ヲ命シタル場合ニ於テハ義務時間超過時分ニ對シテハ之ヲ五割増トス

電氣局運輸從業員給與規程及電氣局自動車運轉手、自動車車掌獎勵手當支給規程ニ依リ臨時手當ヲ支給スル場合ニ於テハ前項但書ハ之ヲ適用セズ

第五條 中休及其ノ他ノ勤務者ニハ左ノ乗務時間ヲ附與ス但シ第四條ノ適用ニ付テハ之ヲ乗務時間トシテ計算セズ

- 一 中休勤務者 一回ニ付 中休時分 六十分
- 二 中休勤務ヲ除キタル他ノ勤務者 一日ニ付 食事時分 三十分
- 三 營業電車出庫又ハ入庫作業ニ從事セシ者 一回ニ付 出入庫 七十三分

第三節 獎勵金

●發電所石炭節約獎勵金支給規程

制定 大一四、三、四達電 八 最近改正 昭 三、一〇 達電五一 十一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局發電所石炭節約獎勵金支給規程

第一條 電氣局發電所所屬勤務ノ市雇、技術職員、技術從業員、事務員並僱員ニ對シテ發電所用石炭消費ノ實績方左記標準量ヨリ減少シタル場合其ノ節約石炭價格ノ三割以內ヲ石炭節約獎勵金トシテ支給ス

- 第一發電所
- (イ) 發電量月當一、〇〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 發電量一「キロワット」時ニ付 二匁一六
  - (ロ) 同 五〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 同 二匁三四
  - (ハ) 同 五〇〇、〇〇〇「キロワット」時未滿ノ場合 同 二匁五二
- 第二發電所
- (イ) 發電量月當三、〇〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合
- 第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

四六四

第六條 電車車掌、電車運轉手、電車車掌補、電車運轉手補ニシテ撒水電車、貨物電車、終夜運轉電車及其ノ他特殊ノ電車乗務ニ服シタル者又ハ自動車運轉手、自動車運轉手補ニシテ特殊ノ乗合自動車乗務ニ服シタル者ニ對シテハ運輸部長ハ其ノ勤務狀態ヲ考查シ相當ノ乗務時間ヲ定ムルコトヲ得

第七條 乗務シ能ハサル特別ノ事由アルモノニシテ運輸部長ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ乗務シタルモノト看做シ相當ノ乗務時間ヲ附與スルコトヲ得

第八條 前各條ニ依ル乗務時間ノ精算上端數ヲ生シタルトキハ三十分以上ハ之ヲ一時間ニ切上ケ其ノ未滿ハ之ヲ切捨ツ

第九條 轉轍手、信號人、雜役夫及檢札員ノ歩増給ハ一日ノ勤務九時間二分五厘ヲ超ユル一時間毎ニ轉轍手、信號人ニアリテハ日給ノ七百二十五分ノ百、雜役夫、檢札員ニ在リテハ日給ノ九百二十五分ノ百ノ割合ニ依リ支給ス

第十條 前條ノ勤務時間ニ對スル超過時間ハ毎月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル一箇月分ヲ積算シ一時間未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

附則

大正九年三月二十一日達電第七號運輸現業員歩増給支給規程及同日達電第八號車掌運轉手歩増給支給規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔大電〕

- (ロ) 同 發電量一「キロワット」時ニ付 一匁一四
  - (ハ) 同 二、〇〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 同 一匁二〇
  - (ニ) 同 一、〇〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 同 一匁二六
  - (イ) 同 一、〇〇〇、〇〇〇「キロワット」時未滿ノ場合 同 一匁三二
- 安治川發電所
- (イ) 發電量月當五〇〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 發電量一「キロワット」時ニ付 一匁八〇
  - (ロ) 同 二五〇、〇〇〇「キロワット」時以上ノ場合 同 一匁八六
  - (ハ) 同 二五〇、〇〇〇「キロワット」時未滿ノ場合 同 一匁九八
- 前項ノ炭量ハ電氣局測定ノ發電量ニヨリ六、〇〇〇「カロリー」ノモノニ換算シテ決定スルモノトス
- 第二條 前條ノ獎勵金ハ各發電所毎ニ算出シタルモノヲ合計シ一人一箇月金拾圓以內ニ於テ電氣局長之ヲ定ム但シ一ヶ月ヲ通シ發電セサルトキハ當該發電所所屬從業員ニ對シテハ其ノ月ニ限り獎勵金ヲ支給セサルモノトス
- 第三條 獎勵金ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル分ヲ毎月末日迄ニ支給ス

附則



大正四年四月一日市長決發電所所屬現業員獎勵金支給方ノ件及大正四年四月達第一〇號電氣局發電所所屬現業員獎勵金支給内規並大正十二年十月五日市長決中元大阪電燈株式會社所定火夫獎勵金ノ準用ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### ●發電所石炭節約獎勵金支給規程ニ依ル獎勵金支給方ノ件

制 定 大、四、三、一八局長決定  
最近改正 大、一、五、三 局長決  
電氣局發電所石炭節約獎勵金支給規程ニ依リ毎月各人ニ支給スヘキ獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ決定ス

記

一 各人ニ支給スヘキ金額ハ勤務成績其ノ他ヲ斟酌シテ左記點數ニヨリテ其ノ都度之ヲ定ム

- 特 甲 一〇〇點
  - 甲 八〇點
  - 乙 六〇點
  - 丙 四〇點
  - 丁 二〇點
- 二 缺勤アルトキハ前項點數ヨリ一日ニ付金五點ヲ減ス  
遅參、早退ハ三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ二回以下ハ之ヲ切捨ツ

二 前號以外ニ不正行爲アリタルトキ  
第六條 本規程施行ニ必要ナル事項ハ電燈部長之ヲ定ム

附 則

大正十四年五月達電第三一號電燈勸誘獎勵金支給規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### ●電燈燭光增加勸誘獎勵規程

制 定 昭七、一〇、一五達電五三

大正十四年十月達電第六四號電燈燭光增加勸誘獎勵規程左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年十月十五日

大阪市電氣局長 平塚米次郎

#### 電燈燭光增加勸誘獎勵規程

- 第一條 電燈部電燈營業所出張所所屬局雇及電工ニシテ勸誘期間内ニ既設白熱定額燈ノ燭光增加ヲ勸誘シタルトキハ本規程ニ依リ獎勵金ヲ支給ス
- 本市使用ノ電燈、料金ヲ特定セル電燈及點滅燈ニ付テハ本規程ヲ適用セス勸誘ニ依リ從量燈ニ切替ヘタル場合亦同シ
- 第二條 勸誘ノ爲メニ定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セス
- 第三條 勸誘期間ハ電燈部長其ノ都度之ヲ定ム
- 第四條 獎勵金ハ增燭電燈ノ燭差數一燭光ニ付金八厘トシ勸誘期間終

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

交通遮斷、忌引、簡閱點呼及勤務演習ニ因リ勤務セサルモノハ之ヲ缺勤トシテ計算ス

### ●電燈勸誘獎勵規程

制 定 昭七、九、二一達電四八

電燈勸誘獎勵規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電燈勸誘獎勵規程

- 第一條 電燈部電燈營業所出張所所屬局雇及電工ニシテ白熱定額燈ノ新設又ハ增設若クハ中止分又ハ延期分ノ點燈ヲ勸誘シタルトキハ本規程ニ依リ獎勵金ヲ支給ス
- 一 燈二十五燭光未滿ノモノ、本市使用ノモノ及臨時燈ニハ本規程ヲ適用セス
- 第二條 勸誘ノ爲メニ定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セス
- 第三條 獎勵金ハ點燈ヲ爲シタルモノニ對シ左ノ區別ニ依リ支給ス
  - 一 五十燭光未滿 一燈ニ付 金 六 錢
  - 二 五十燭光以上 同 金 八 錢
- 第四條 料金ヲ特定セル電燈又ハ點滅燈ノ獎勵金ハ前條ノ範圍内ニ於テ電燈部長其ノ都度之ヲ定ム
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ返戻セシメ尙相當處分ヲ爲スコトアルヘシ
  - 一 需用者ノ正當意思ニ反スル取扱ヲ爲シタルトキ

〔大電〕

了後之ヲ支給ス

舊燭數ニシテ十六燭光未滿ノモノハ十六燭光ト看做ス

第五條 勸誘期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタル後當該需用者ニ勸誘ヲ爲スモ獎勵金ハ之ヲ支給セス

一 電燈ノ新設又ハ增設、中止分又ハ延期分ノ點燈

二 電燈ノ中止又ハ取除、低燭光ニ變更

第六條 勸誘後三月以内ニ增燭電燈ノ中止又ハ取除若クハ低燭光ニ變更アリタルトキハ其ノ減少セル燭數ニ相當スル獎勵金ヲ返戻セシム

前項ノ返戻金ハ當該需用者ニ付支給セル獎勵金ヲ限度トス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ返戻セシメ尙相當處分スルコトアルヘシ

一 需用者ノ正當意思ニ反スル取扱ヲ爲シタルトキ

二 前號以外ニ不正行爲アリタルトキ

第八條 本規程施行ニ必要ナル事項ハ電燈部長之ヲ定ム

〔大電〕

### ●點燈手當支給規程

制 定 大、一、四、六、五達電四一  
最近改正 昭 四、四 達電一三

點燈手當支給規程左ノ通制定シ大正十四年五月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 點燈手當支給規程

- 第一條 電燈營業所出張所所屬局雇、電工ニシテ新設白熱電燈ニ付



所定ノ點燈作業ヲ完了シタルモノニ對シテハ一燈ニ付金壹錢五厘ノ點燈手當ヲ支給ス

第二條 本手當ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル一箇月間ノ點燈完了數ニ基キ毎月末日迄ニ之ヲ支給ス

第三條 第一條點燈ノ爲メ定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ之ニ對スル諸給與金ハ之ヲ支給セズ

第四條 本手當支給ニ必要ナル事項ハ電氣局長之ヲ定ム

附則

大正十二年十二月十日市長決「大阪電燈株式會社カ其ノ使用人ニ對シ定メタル獎勵金其ノ他ノ特別手當ヲ電氣局員ニ準用ノ件」中「修繕所點燈獎勵金」ハ之ヲ廢止ス

●電力勸誘獎勵規程

制定 昭四、九、一六達電三八  
最近改正 昭九、九、達電一九

昭和二年十一月達電第六七號電力勸誘獎勵規程左ノ通改正シ昭和四年九月分ヨリ之ヲ施行ス

電力勸誘獎勵規程

第一條 電力勸誘員、電燈電力工事請負者、電力電熱申込取扱店又ハ電氣局員ニシテ左ニ掲グル電力申込ヲ勸誘シタル者ニハ之カ送電ヲ完了シタルトキ電力勸誘料、電力勸誘獎勵金、電力口數勸誘獎勵金又ハ電力特別勸誘獎勵金ヲ支給ス

給與

(イ)ニ於テ定ムル標準容量以外ノ端數ニ對シテハ上位ト下位トノ所定勸誘料ノ差額ヲ按分比例シテ之ヲ加給ス

二 増設又ハ容量變更ニ依ル容量増加ノ場合ハ其ノ増加容量ニ對シ前號ニ依リ算定シタル勸誘料ノ半額ヲ支給ス

第三條 電力勸誘獎勵金ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 容量 獎勵金

三十馬力又ハ三十キロワット以下 一馬力又ハ一キロワットニ付 金二圓五十錢

三十馬力又ハ三十キロワット超過分 同 金一圓二十五錢

二 前項ノ容量ハ一需用者一需用場所ニ於ケル新設電力ニシテ其ノ送電ヲ完了セルモノノ合計容量トス但シ臨時使用ノモノハ之ヲ除外ス

第四條

前二條ノ勸誘料及獎勵金ニ關シ一需用者ニ對スル申込容量ヲ同時ニ送電シ能ハサル場合ハ其ノ申込容量ニ依リ計算シタルモノヲ送電容量ノ比例ニ依リ之ヲ支給ス但シ第二回以後ノ送電力前同ノ送電日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ爾後ノ送電分ニ對シテハ増設トシテ取扱フモノトス

前項但書ノ場合ニ在リテハ曩ニ支給シタル勸誘料及獎勵金ハ更正セサルモノトス

第五條 口數勸誘獎勵金ハ一勸誘者ノ一月間ニ於ケル新設送電済ノ需用家數カ十口ニ達シタル場合ハ金五圓、其ノ超過分ニ對シテハ一口ニ付金一圓ノ割合ヲ以テ之ヲ加給ス

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

一 單相並三相電動機ニ供給スル電力

二 五キロワット以上ノ電熱ニ供給スル電力但シ冬期暖房用ヲ除ク  
三 各種ノ負荷ヲ混用スル設備ニ供給スル電力但シ電燈、電氣扇冬期暖房用其ノ他之ニ類スル容量ヲ除ク

前項ノ勸誘料及獎勵金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 電力勸誘料、電力勸誘獎勵金、電力口數勸誘獎勵金

電力勸誘員、電燈電力工事請負者、電力電熱申込取扱店、電氣局員

二 電力特別勸誘獎勵金 電力勸誘員

第二條 電力勸誘料ヲ定ムルコト左ノ如シ

一新設ノ場合

(イ) 容量 勸誘料

四分ノ一馬力又ハ四分ノ一キロワット 各一臺ニ付 金一圓五十錢

ト以上一馬力又ハ一キロワット以下 金二圓五十錢

二馬力又ハ二キロワット 同 金三圓五十錢

三馬力又ハ三キロワット 同 金六圓

五馬力又ハ五キロワット 同 金八圓五十錢

七馬力又ハ七、五キロワット 同 金十圓

十馬力又ハ十キロワット 同 金十五圓

十五馬力又ハ十五キロワット 同 金二十圓

二十馬力又ハ二十キロワット 同 金二十五圓

(ロ) 一臺ノ容量又ハ一需用者ノ一需用場所ニ於ケル合計設備容量二十馬力又ハ二十キロワット以上ノ超過分ニ對シテハ一馬力又ハ一キロワットニ付金七十五錢ノ割合ヲ以テ之ヲ加

第六條 特別勸誘獎勵金ハ毎年五月二十日及十一月二十日ヲ以テ締切リ其ノ前半期間ニ於ケル新設送電済ノ合計容量ヲ積算シ各員ノ成績ヲ斟酌シ一馬力又ハ一キロワットニ付金七十五錢以下ニ於テ之ヲ支給ス但シ臨時使用ノモノハ之ヲ除外ス

第六條ノ二 電熱用電力勸誘料及獎勵金支給ニ關スル電力容量ノ計算方法ニ付テハ之ヲ馬力數ニ換算ス

前項ノ換算ハ七百四十六「ワット」ヲ一馬力トシ小數第三位以下ハ之ヲ切捨ツ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ本規程ヲ適用セズ

一 電動力ノ臨時申込ニシテ使用期間一月未滿ノモノ

二 本市カ請負ニ付シタル工事ニ使用スル電力

三 本市カ使用スル電力

第八條 電熱ノ勸誘ヲ爲シ本規程ニ依リ勸誘料及獎勵金ヲ支給サレタル者ニシテ左ノ第一號ニ該當スルトキハ其ノ全額ヲ返戻セシメ同第一號ニ該當スルトキハ新舊容量ニ對スル所定勸誘料及獎勵金ノ差額ヲ返戻セシム

一 送電後又ハ容量増加後三月以内ニ中止シタルトキ

二 送電後又ハ容量増加後三月以内ニ容量ヲ減少シタルトキ

第九條 新増設ノ種別ヲ定ムルコト左ノ如シ

一新設トハ一需用者一構内ニ於ケル新規ノ申込ニシテ其ノ電力容量ニ要スル配線工事ノ完了セルモノヲ謂フ

二 増設トハ一需用者カ前號ノ電力設備ヲ増加セルモノヲ謂フ但シ土地建物ノ其ノ他ノ事情ニ依リ電燈部長ニ於テ之ヲ新設ト看做



スコトアルヘシ

第十條 本規程ニ依ル勸誘料及獎勵金ニ關シ各電燈部電燈營業所ハ前月二十一日ヨリ當月二十日迄ニ送電完了セルモノヲ一括シ電力勸誘

員、電燈電力工事請負者、電力電熱申込取扱店及電氣局員ニ對スルモノヲ區分シテ左ノ様式ニ依ル之カ支給明細書ヲ作成シ毎月二十五日迄ニ電燈部營業課營業係ニ送附スルモノトス

昭和 年 月 日 電力勸誘料及獎勵金支給明細書 電燈營業所

勸誘月日	送電月日	需用家名	場所	屋內配線貸先ノ別	申込容量	新設	増設	容量變更	臨時時分	勸誘料	獎勵金	合計	資格氏名
								舊	新				

第十一條 本規程ニ依ル勸誘料及獎勵金ハ局長決裁ノ上電燈部營業課營業係ニ於テ支給ス但シ電氣局員ニ對スルモノハ其ノ勸誘セル電力申込ヲ受理シタル各電燈部電燈營業所ニ於テ之ヲ支給ス

第十二條 需用者ノ意思ニ反スル取扱ヲナシタルモノ其ノ他不正ノ行為アリト認メタル者ニ對シテハ本規程ニ依ル勸誘料及獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ返還セシメ尙相當ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

### 電熱勸誘獎勵規程

制定 昭七、一一、二一 達電五七

昭和二年十一月達電第六六號電熱勸誘獎勵規程左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電熱勸誘獎勵規程

第一條 電氣局員、電力勸誘員、電燈、電力工事請負者又ハ電力電熱申込取扱店ニシテ電熱ヲ勸誘シタル場合ハ其ノ送電ヲ爲シタルモノ

ニ付左ノ區別ニ依リ勸誘料ヲ支給ス但シ從量電燈ト併用スルモノハ之ヲ除キ、コタツ及反射型ストロプニ付テハ從量供給ニ依ル先方品ノ場合ニ限ル

一、新増設又ハ轉宅中止分送電 一キロワットニ付 金一圓

二、轉宅以外ノ中止分送電 同 金五十錢

前項第一號中ノ新増設ニシテ冬期煖房用以外ノ電熱五キロワット以上ノモノハ電力勸誘獎勵規程ニ依ル

第二條 電燈部電燈營業所出張所所屬局履及電工ニシテ一冬期以上使用ノコタツ又ハ反射型ストロプヲ勸誘シタル場合ハ其ノ送電ヲ爲シタルモノニ付左ノ區別ニ依リ勸誘獎勵金ヲ支給ス但シ前條ニ依ルモノハ之ヲ除キ、從量電燈ト併用スルモノニ付テハ貸付品ノ場合ニ限ル

一、コ タ ツ 責任臺數迄ノ分 一臺ニ付 金十五錢

二、同超過ノ分 同 金二十三錢

〔大電〕

同超過ノ分

金五十五錢

前項コタツニシテ一冬期送電後引續キ一月以上送電シタルモノニ付テハ一臺ニ付金五錢ノ期間延長勸誘獎勵金ヲ支給ス

第三條 本市又ハ電氣局員ノ使用スル電熱ニ付テハ前二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四條 電燈部電燈營業所出張所所屬局履及電工ニシテ器具ノ配達、持歸、送電、中止ノ各作業ヲ爲シタルモノニ對シテハ左ノ區別ニ依リ工程獎勵金ヲ支給ス但シ從量電燈ト併用スル先方品又ハ器具ノ故障ニ關スル場合ヲ除ク

一、配達又ハ持歸 一臺ニ付 金十錢

二、送電又ハ中止 同 金五錢

第五條 勸誘又ハ作業ノ爲メニ定時間外若クハ休日勤務ヲ爲スモ本規程ニ依ル勸誘料及獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セズ

第六條 左ノ第一號ニ該當スル事實アリタルトキハ勸誘料又ハ獎勵金ノ全額ヲ、第二號ニ該當スル事實アリタルトキハ新舊容量ニ對スル所定勸誘料又ハ獎勵金ノ差額ヲ返戻セシム

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為アリト認ムルトキハ勸誘料及獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ返戻セシメ尙相當處分ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 本規程施行ニ必要ナル事項ハ電燈部長之ヲ定ム

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

#### 附則

本規程第二條ハ昭和七年冬期勸誘分ヨリ之ヲ適用ス

### 電氣扇勸誘獎勵規程

制定 昭二、五、九 達電三八  
最近改正 昭八、六 達電一七

大正十四年五月達電第三六號電氣扇勸誘獎勵規程左ノ通改正シ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電氣扇勸誘獎勵規程

第一條 電燈部電燈營業所出張所員ノ電氣扇勸誘並工程ニ關シテハ本規程ニ據リ獎勵金ヲ支給ス

第二條 勸誘又ハ工程ノ爲定時間外若クハ休日勤務ヲナスモノニ對スル給與ハ支給セズ

第三條 各電燈營業所ノ勸誘責任臺數ハ當該所管區域内ニ於ケル大正十五年度從量供給先方品臺數(總臺數一五、七六六臺)ト前年一夏期送電完了セル定額供給臺數及從量供給中貸付品臺數トノ和ヲ以テ之ヲ定メ各出張所責任臺數ハ實情ニ應シ其ノ都度電燈部長之ヲ定ム

第四條 勸誘獎勵金ハ左ノ區別ニ依リ一夏期送電完了分ニ對シ之ヲ支給ス但シ從量供給先方品ニ對シテハ大正十五年度供給臺數(一五、七六六臺)ヲ限度トシ第一號獎勵金ノミヲ支給ス

一 責任臺數迄ノ分 一臺ニ付 十二錢  
二 責任臺數超過ノ分 同 三十五錢

四七一



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

一 夏期送電分カ月極ニ變更又ハ料金不拂トナリタルモノニ對シテハ獎勵金ヲ返戻セシム

第五條 貸付品ニシテ一夏期送電ヲ完了シタルモノノ四萬五千臺以上ナルトキハ左ノ區別ニ依リ臺數獎勵金ヲ支給ス

一 四萬五千臺以上五萬臺迄ハ一臺ニ付六錢トシ之ニ總臺數ヲ乘シタル金額

二 五萬一臺以上五萬三千臺迄ハ超過五百臺以內毎ニ前號單價ニ一錢ヲ累加シ之ニ總臺數ヲ乘シタル金額

三 五萬三千一臺以上ハ超過五百臺以內毎ニ前號最高單價ニ二錢ヲ累加シ之ニ總臺數ヲ乘シタル金額

第六條 一夏期送電分ニシテ十五日間以上ノ期間延長ヲ勸誘シ出張所ニ於テ料金ヲ現收シタルモノニ對シテハ左ノ獎勵金ヲ支給ス但シ從量供給先方品ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一臺ニ付 十二錢

第七條 工程獎勵金ハ左ノ區別ニ依リ配達、持歸、送電中止及掃除注油ノ各工程完了分ニ對シ送電開始當時ノ品別ニ依リ之ヲ支給ス

一 卓上用(一臺ニ付) 貸付品 四十八錢 先方品 四十錢

二 天井用(一臺ニ付) 先方品 送電及中止 十錢

掃除注油 七十錢  
前項第二號中掃除注油ハ電氣部電氣課修理係員之ヲ行フモノトシ該獎勵金ヲ支給ス

第八條 不正ノ行爲アリト認メタルモノニ對シテハ獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ返還セシメ尙相當ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第九條 本規程運用ニ必要ナル事項ハ電燈部長別ニ之ヲ定ム

● 白熱瓦斯入電球販賣獎勵金支給規程

制定 昭六、一、七達電一  
最近改正 昭七、二、達電七

白熱瓦斯入電球販賣獎勵金支給規程左ノ通制定シ昭和六年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

白熱瓦斯入電球販賣獎勵金支給規程

第一條 電燈部電燈營業所出張所所屬局雇、電工ニシテ白熱瓦斯入電球ヲ販賣セシ者ニ對シテハ一箇ニ付金三錢ノ獎勵金ヲ支給ス

第二條 販賣ノ爲定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セス

第三條 本規程施行ニ必要ナル事項ハ電燈部長別ニ之ヲ定ム

● 受託電氣機械器具材料販賣勸誘料支給規程

制定 昭六、三、二達電一八

受託電氣機械器具材料販賣勸誘料支給規程左ノ通制定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

受託電氣機械器具材料販賣勸誘料支給規程

第一條 電氣局員、電力勸誘員、工事請負商會及申込取扱店ニシテ受託電氣機械器具材料ノ勸誘販賣ヲ爲シタルモノニ對シテハ本規程ニ依リ勸誘料ヲ支給ス

勸誘料ノ額ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第二條 勸誘販賣ノ爲定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本勸誘料以外ノ諸給與ハ支給セス

第三條 勸誘料ハ前月二十一日ヨリ當月二十日迄ニ於テ代金收入済ノモノニ付算定シ月末迄ニ之ヲ支給ス

第四條 勸誘販賣ニ關シ需用者ノ意思ニ反シ又ハ不正行爲アリト認メタルモノニ對シテハ勸誘料ノ一部又ハ全部ヲ返還セシム

附則

大正十三年五月達電第二〇號販賣電動機取扱並同勸誘料規程、大正十四年六月達電第四八號電氣扇受託販賣勸誘規程、昭和三年四月達電第一九號電熱器受託販賣勸誘規程ハ之ヲ廢止ス

● 工事獎勵金支給規程

制定 大、四、五、一四達電三二  
最近改正 昭七、九、達電四九

工事獎勵金支給規程左ノ通制定シ大正十四年四月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

工事獎勵金支給規程

第一條 電燈營業所及內線課計量係所屬技術職員、技術從業員ニシテ

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

工事種類	單位	工賃率
工 事 檢 査	軒	七 錢
新 增 設 工 事 (單 獨)	箇 所	壹 圓 壹 錢
新 增 設 工 事 (共 同)	同	六 拾 七 錢
取 除 工 事	同	貳 拾 壹 錢
位 置 替	同	六 拾 壹 錢
修 繕	同	貳 拾 六 錢
申 込 調 査	件	五 錢
電氣扇用變壓器取付並取替	箇	壹 圓 八 錢
同 取 除	同	六 拾 七 錢
二 內 線 工 事		



工	事	檢	査	軒	八	錢
電	燈	新	増	設	六	拾
點	電	燈	取	除	四	錢
電	氣	扇	取	除	拾	四
事	故	及	申	込	八	錢
電	電	氣	燈	取	七	拾
電	氣	扇	位	置	七	拾
電	球	線	取	替	拾	六
臨	時	燈	取	付	拾	四
同	取	除	同	同	七	錢
絕	緣	不	良	修	七	拾
修	繕	同	同	同	貳	拾
既	設	工	事	檢	四	錢
電	球	掃	除	同	壹	錢
豆	電	球	取	付	四	錢
同	取	除	同	同	壹	錢
電	氣	扇	新	増	六	拾
同	送	電	同	同	五	錢

同	送	電	中	止	同	五	錢
檢	針	筒	參	錢			

休日ノ給料ハ前項ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

第三條 各人ニ對スル支給額ハ勤務成績其ノ他ノ事由ヲ調査シ電氣局長之ヲ定メ毎月末日迄ニ之ヲ支給ス

第四條 左ノ各號ニ該當スル行爲アリト認メタル者ニ對シテハ本獎勵金ノ一部又ハ全部ヲ支給セサルコトアルヘシ

- 一 所定ノ服務心得ニ違背シタルトキ
- 二 工事ノ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ粗惡ナル工事ヲ爲シタルトキ
- 三 不完全ナル調査檢査又ハ檢針ヲ爲シタルトキ

附則

大正十二年十月五日市長決「大阪電燈株式會社力其使用人ニ對シ定メタル獎勵金其他ノ特別手當ヲ電氣局員ニ準用ノ件」中工事獎勵規程ノ準用ハ之ヲ廢止ス

製作修理獎勵金支給規程

制定 大二三、六、九達電三四  
最近改正 大一一、四、達電一三

製作修理獎勵金支給規程左ノ通相定メ大正十三年六月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔大電〕

〔大電〕

製作修理獎勵金規程

第一條 電氣部電氣課兼平町修理工場ニ於テ製作並ニ修理ヲ爲シタルモノノ壹ヶ月生産高カ標準生産高ヲ超過シタル場合ハ本規程ニ依リ同工場所屬市雇並局雇以下ノ従業員ニ對シ製作修理獎勵金ヲ支給スルモノトス

第二條 本規程ニ於テ標準生産高ト稱スルハ其月ノ正規労働延時間ニ一人一時間當リ生産高ヲ乘シタルモノヲ謂フ

前項一人一時間當リ生産高トハ大正十二年十月一日ヨリ大正十三年三月三十一日ニ至ル六ヶ月間ノ一人一時間平均生産高ニ貳割ヲ増シタルモノトス

第三條 其月ノ生産高カ標準生産高ニ達セザリシ場合ハ其差額ヲ翌月ノ生産高ヨリ控除スルモノトス但シ特別事由ニ依リ電氣部長之ヲ認メタル場合ハ此限ニ在ラス

第四條 獎勵金ハ標準生産高ヲ超過シタル場合其月ノ給料支給總額ニ左記率ヲ乘シタル金額トス

- (一) 直接作業ニ從事スル者  
標準生産高ヲ超過スルコト壹百分ノ壹ヲ増ス毎ニ其月ノ給料支給總額ノ壹千分ノ六以内
- (二) 間接作業ニ從事スル者  
標準生産高ヲ超過スルコト壹百分ノ壹ヲ増ス毎ニ其月ノ給料支給總額ノ壹千分ノ參以内

第五條 生産高ハ左ノ割合ヲ以テ計上ス

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

電 動 機		變 壓 器	
單 位	容 量	單 位	容 量
	PH 1/2	K	0.6
0.6		0.9	1
0.7	1	0.92	2
0.75	2	0.96	3
0.85	3	1	5
1	5	1.05	7.5
1.05	7.5	1.12	10
2.45	10	1.4	15
2.65	15	3.4	20
2.77	20	4.8	30
3.25	30	7.2	50
3.81	50		

第六條 特種品(部分品製作、修理品其他)ニ對スル生産高ノ割合ハ其ノ都度之ヲ査定シ生産高ニ加算スルモノトス

第七條 生産高ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ニ電氣課試驗係ニ於テ試驗濟良品トナリタルモノヲ以テ計上ス

第八條 前條試驗濟良品ト雖モ作業不完全ニ依ル不良品ハ之ヲ發見シタル月ノ生産高ヨリ之ヲ控除ス

第九條 獎勵金ハ毎月締切後直接作業ニ從事スル者及間接作業ニ從事スル者ノ支給額ヲ合計シ之ニ各自ノ成績並ニ日給額等ヲ考査シテ支給額ヲ定メ毎月末日迄ニ之ヲ支給スルモノトス

第十條 本規程ノ適用ヲ受クル従業員ニシテ其ノ作業ニ關シ不都合ノ行爲アリタル者ハ其ノ程度ニ依リ獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

第十一條 本規程ノ適用ヲ受クル者ニ對シテハ時間外給料又ハ賄料ヲ支給セス但シ間接作業ニ從事スル場合ニ於テ特ニ認メタルトキハ此限ニ在ラス



### ●電氣器具修理獎勵金支給規程

制 定 大一四、一一、二七達電七〇  
最近改正 昭四、一二、達電五〇

電氣器具修理獎勵金支給規程左ノ通制定シ大正十四年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 電氣器具修理獎勵金支給規程

第一條 本規程ニ於テ電氣器具ト稱スルハ本市所有ノ電氣扇並各電熱器ヲ謂ヒ修理ト稱スルハ技術部電氣課修理係各工場内修繕作業ヲ謂フ

第二條 技術部電氣課修理係工場所屬市厘以下ノ従業員ニシテ第六條ノ期間中毎月第三條ノ責任臺數ニ達スル修理ヲナシタルトキハ電氣器具修理獎勵金ヲ支給ス

第三條 前條責任臺數ハ各工場ニ於ケル直接修理作業ニ從事スル者ノ一箇月間ノ勤務延日數ニ左ノ生産單位ヲ乘シタルモノトス

電氣扇生産單位(臺) 五、六  
電熱器生産單位(臺) 一一、〇

第四條 毎月ノ獎勵金支給總額ハ各人ノ當該月ニ於ケル給料支給總額百分ノ二十五以內ニ於テ電氣局長之ヲ定ム但シ第六條第二項ニヨル硝酸揚作業日數ニ對スル給料額ハ之ヲ算入セス

第五條 毎月ノ修理生産高ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ算定ス

- 一 電氣扇 七二七
- 主體修繕 〇九七
- 羽根修繕

#### ガ―ド修繕

- 二 電熱器 一七六
- コード切斷並修理 一〇三
- 解體作業 一六七
- サームスタット試験調整及修理 二一七
- 外箱ニス塗 一四四
- 組立作業 二七一
- 包裝作業 〇九八

前項ノ外部分品ノ製作修理其ノ他特殊品ニ對スル生産高ノ割合ハ其ノ都度電氣課修理係長之ヲ査定シ生産ニ加算スルモノトス

第六條 工場内修繕作業期間並修繕器具ノ種類左ノ如シ但シ電氣局長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

- 一 電氣扇 毎年 自十月二十一日至翌年四月二十日
- 二 電熱器 毎年 自三月二十一日至十月二十日

前項ノ期間中ニ於テ硝酸揚作業ニ從事シタルトキハ該日數ニ限り其ノ期間ヲ延長ス

第七條 各人ニ對スル獎勵金支給額ハ勤務成績及給料額其ノ他ノ事項ヲ考査シ電氣局長之ヲ定ム

前項獎勵金ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日ニ至ル分ヲ其ノ月末日迄ニ之ヲ支給ス

第八條 本規程ノ適用ヲ受ケル者第六條所定ノ種類ニ對スル各修繕作業時間中時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ之ニ對スル時間外給料其ノ他

〔大電〕

ノ諸給與ハ之ヲ支給セス但シ間接作業又ハ出張作業其ノ他電氣課修理係長ニ於テ必要ト認メタル作業ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第九條 本規程ノ適用ヲ受ケル従業員ニシテ其ノ作業ニ關シ不都合ノ行爲アリタリト認メタル者ニ對シテハ獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルヘシ

### ●需用者所有電氣扇修繕獎勵規程

大正十四年六月達電第四〇號先方品電氣扇修繕獎勵金支給規程左ノ通改正シ昭和七年四月分ヨリ之ヲ施行ス

#### 需用者所有電氣扇修繕獎勵規程

第一條 電燈部電燈營業所出張所及同内線配給係所屬市厘以下ノ従業員ニシテ需用者所有ニ係ル電氣扇修繕ノ勸誘又ハ作業ニ從事シタルモノニ對シテハ本規程ニ依リ獎勵金ヲ支給ス

第二條 勸誘又ハ作業ノタメ定時間外若クハ休日勤務ヲナスモ本獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セス

第三條 本獎勵金支給總額ハ左ノ各號期間中ノ修繕料總額ニ夫々下記ノ率ヲ乘シタル金額トス

- 一 電燈營業所ニ配給係員出張期間 百分ノ十五
- 一 前號期間外

#### 第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

修繕臺數一萬臺未滿 百分ノ二十  
同 一萬臺以上 百分ノ二十五

第四條 各人ニ對スル支給額其ノ他本規程施行ニ必要ナル事項ハ電燈部長ニ於テ之ヲ定ム

### ●料金其ノ他ノ請求洩發見及集金手當支給規程

昭和二年達電第七〇號料金請求洩發見並集金手當支給規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 本市電氣使用條例及同施行細則ニ依リ支拂ヲ受ケヘキ電氣料金其ノ他ノ金額ノ請求洩ヲ發見シタル電氣局員及之ヲ集金シタル集金員班長ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ請求洩發見及集金手當ヲ支給ス

第二條 本手當ハ集金完了金額ノ百分ノ十五トシ發見者及集金者ニ平分支給ス但シ本手當ハ一件ニ付十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 本手當ハ第一條ノ金額ヲ請求スヘカリシ月ノ末日ヨリ三月ヲ經過シタル後發見シ且集金シタルトキニ非サレハ之ヲ支給セス

第四條 請求洩力發見者又ハ之ト同一ノ保若ハ所ノ者ノ過失ニ因ルトキハ發見手當ハ之ヲ支給セス

第五條 本手當ハ毎月一日ヨリ其ノ月末日ニ至ル一月分ヲ翌月末日迄



ニ支給ス  
第六條 請求洩ノ發見又ハ集金ノ爲定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本手當以外ノ給與ハ之ヲ支給ス

### ●電流無斷使用發見手當支給規程

制定 大一四、七、二達電四九  
最近改正 昭 四、一 達電 二  
電流無斷使用發見手當支給規程左ノ通制定シ大正十四年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

- 電流無斷使用發見手當支給規程
- 第一條 電氣局員ニシテ電氣使用條例第七十二條ニ該當スル事實ヲ發見シ由リテ所定ノ追徴金ヲ徵收スルニ至リタルモノニ對シテハ本規程ニ依リ手當金ヲ支給ス
  - 第二條 手當額ハ各係所毎ニ之ヲ定メ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ニ追徴シタル金額ノ百分ノ二十九トス但シ追徴金一件ニ付百圓ヲ超ユルモノニ付テハ電氣局長ニ於テ別ニ之ヲ定ム
  - 第三條 各人ニ對スル支給額ハ其ノ取扱件數、勤務成績其ノ他ノ事由ヲ調査シ電氣局長之ヲ定メ毎月末日迄ニ之ヲ支給ス
  - 第四條 第一條ノ事實發見ノ爲定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本規程ニ依リ給與金ノ外之ヲ支給セス

附則

大正十二年十二月十日市長決「大阪電燈株式會社力其ノ使用人ニ對シ定メタル獎勵金其ノ他ノ特別手當ヲ電氣局員ニ準用ノ件」中「電流無斷使用發見手當」ノ準用ハ之ヲ廢止ス

### ●電球サツク蒐集獎勵金支給規程

制定 昭二、一〇、一達電六一  
電球サツク蒐集獎勵金支給規程左ノ通制定シ昭和二年度ヨリ之ヲ施行ス

- 電球サツク蒐集獎勵金支給規程
- 第一條 電燈部並調度課倉庫係ニ於テ不用電球サツク中再用シ得ルモノヲ蒐集運搬シ返納シタルモノニ對シテハ其ノ賣却金額ノ參分ノ壹ヲ獎勵金トシテ支給ス但シ獎勵金ノ最高限度ヲ一箇ニ付金五毛トス
  - 第二條 本獎勵金ノ分配率左ノ如シ
    - 一 電燈營業所出張所ハ獎勵金總額ノ百分ノ八十三
    - 二 技術課配給係ハ獎勵金總額ノ百分ノ七
    - 三 調度課倉庫係ハ獎勵金總額ノ百分ノ十
  - 第三條 支給調査期間ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一年間トシ期間滿了ノ翌月中ニ之ヲ支給ス
  - 第四條 第一條ノ作業ノ爲定時間外又ハ休日勤務ヲ爲スモ本獎勵金以外ノ諸給與ハ之ヲ支給セス

〔大電〕

### ●工事不良箇所發見手當支給規程

制定 昭八、二、一六達電四  
工事不良箇所發見手當支給規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 工事不良箇所發見手當支給規程
- 第一條 本市請負電氣工事ニ於テ電燈營業所工事検査員カ請負電氣工事違約金規程中左記條項ニ該當スル工事不良箇所ヲ發見シタル時ハ一箇所ニ付各其ノ違約金ノ半額ニ相當スル金額ヲ支給ス
  - 一 請負電氣工事違約金規程第三條第四號乃至第十一號、第十四號、第十五號、第十七號
  - 一 請負電氣工事違約金規程第四條第四號、第十四號
  - 一 請負電氣工事違約金規程第五條第四號
  - 第二條 本手當ハ前月十六日ヨリ其ノ月十五日ニ至ル一月間ノ發見數ニ基キ毎月末日迄ニ之ヲ支給ス

附則

昭和二年十月達電第六二號電線接續箇所「ハンダ」揚未濟發見手當支給規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### ●電車及自動車運輸事務所ノ組ニ關スル獎勵規程

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

〔大電〕

制定 大一三、一二、二六達電八二  
最近改正 昭 四、一〇 達電 四三  
電車及自動車運輸事務所ノ組ニ關スル獎勵規程左ノ通制定シ大正一三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 電車及自動車運輸事務所ノ組ニ關スル獎勵規程
- 第一條 各電車及自動車運輸事務所(以下單ニ運輸事務所ト稱ス)所屬ノ乗務員ヲ八組ニ分チ各組ニ組長及副組長ヲ置キ組員ヲ督勵セシム
  - 第二條 組長ハ各運輸事務所所屬運輸監督中ヨリ當該運輸事務所所長ノ推薦ニヨリ運輸部長之ヲ命シ副組長ハ各組員ノ互選シタル者ニツキ運輸事務所所長之ヲ命ス
  - 組長及副組長ノ任期ハ各六ヶ月(四月一日ヨリ九月三十日迄及十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄)トス
  - 補缺組長、副組長ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス
  - 第三條 各運輸事務所中一ヶ月間ノ成績最優秀ナル組ニ對シテハ優勝旗ヲ授與シ且其ノ組長、副組長及組員ニ對シテハ一人ニ付金壹圓以下ノ獎勵金ヲ授與ス
  - 優勝旗ノ保有期間ハ受領後一ヶ月間トシ期間滿了後ハ之ヲ返納セシム
  - 左ノ期間引續キ成績優秀ナル組ノ組長、副組長及組員ニ對シテハ第一項ノ外更ニ下記ノ特別行賞ヲ爲ス
    - 三箇月ニ互ルトキ 金貳圓以下
    - 六箇月ニ互ルトキ 金四圓以下
    - 一箇年ニ互ルトキ 金八圓以下

四七九



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

第四條

各組ノ成績ハ左ノ採點法ニ依リ百分率ニ換算シテ之ヲ定ム  
一 一人一日ヲ十點トシ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日ニ至ル一ヶ月間ノ日數ト組員數(副組長ヲ合ム以下同シ)ヲ乘シタルモノヲ其ノ組ノ滿點トス但組員中移動アリタルトキハ其ノ日數ニ應シ之ヲ定ム

二 組員中左ノ事由アリタルトキハ前號ノ點數ヲ増減シ一ヶ月間ノ成績點數ヲ定ム但シ無効乘券發見ニ因ル増點ハ此ノ限ニ在ラズ

一 遲刻、早退	一回ニ付	減五點
二 缺勤	一日ニ付	減十點
三 訓戒	一回ニ付	減五點
四 譴責	同	減十點
五 減點	同	減二十點
六 減給以上ノ處分	同	減三百點
七 不正行為ニ依ル處分	一回一人ニ付	減六百點
八 增點	同	增五百點未滿
九 賞金	同	增五百點以上
十 臨時昇給	同	增三百點
		增六百點

第五條 同一成績ノ組二以上アリタルトキハ前期ノ成績ヲ參酌シテ優劣ヲ定メ前期ノ成績ニ依リ難キトキハ運輸部長之ヲ定ム

附則

本規程施行ノ際現ニ組長、副組長ノ職ニ在ル者ノ任期ハ大正十四年三月三十一日トス

第四節 災厄手當

●公傷手當支給規程

制 定 昭一、一、三、一二達五七

公傷病手當支給規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

公傷病手當支給規程

第一條 本市吏員及雇傭員職務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス但シ傷病ノ原因ニ付過失アリト認ムルトキハ治療又ハ治療費ノ支給ヲ止メ若ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ治療ヲ受ケヘキ者民法ノ規定又ハ示談ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ治療金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス

第三條 健康保險法(同法第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ノ規定ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケルトキハ其ノ間治療又ハ治療費ノ支給ハ之ヲ爲サス

健康保險法第六十二條、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケルトキハ本規程ニ依リ治療又ハ治療費ノ支給ハ之ヲ爲サス

前項ノ規定ハ健康保險法ノ適用ヲ受ケサル者ニ付之ヲ準用ス

第四條 本規程ニ依ル治療及治療費ハ退職又ハ解僱ノ後ハ之ヲ制限又ハ停止スルコトアルヘシ

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

第五條 治療費ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス  
第六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ人事課長之ヲ定ム

●備員扶助規程

制 定 昭六、一二、二三告示三二六

最近改正 昭一、一、三 告示一一五

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經從業員扶助規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

備員扶助規程

第一條 本市備員及其ノ遺族ハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲ス

前項ノ扶助ヲ受ケヘキ者民法ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス

本規程ニ依リ扶助ハ本規程中別段ノ定アル場合ノ外解雇ニヨリテ變更セラルルコトナシ

第二條 扶助ヲ分チテ左ノ七種トス

- 一 治療
- 二 休業扶助料
- 三 障害扶助料
- 四 打切扶助料
- 五 遺族扶助料
- 六 葬祭料
- 七 歸郷旅費

第三條 備員業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ本市ノ費用ヲ以



テ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス

第四條 備員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサルトキハ其ノ療養中左ニ掲グル區別ニ依リ休業扶助料ヲ支給ス

- 一 甲種傷病 傷病ノ原因ニ付自己ニ何等ノ過失ナキ者
  - 一日ニ付 賃金 全額
- 二 乙種傷病 傷病ノ原因ニ付自己ニ重大ナラサル過失アリタル者
  - 一日ニ付 賃金 三分ノ二

前項ノ休業扶助料ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リテ發生シタル疾病ニ付其ノ支給九十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ左ノ通減ス

- 一 甲種傷病 一日ニ付 賃金四分ノ三
- 二 乙種傷病 一日ニ付 賃金十分ノ六

備員其ノ傷病ノ原因ニ付重大ナル過失アリタル爲工場法施行令第七條ノ二又ハ労働者災害扶助法施行令第七條ニ依リ其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタルトキハ前數項ノ休業扶助料ハ之ヲ支給セス

第五條 工場法ノ適用ヲ受ケル備員又ハ工場法、労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル備員職務上ノ負傷又ハ疾病ノ治療シタルトキニ於テ身體障害ノ存スルトキハ別表第一號ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケル備員職務上ノ負傷又ハ疾病ノ治療シタルトキニ於テ身體障害ノ存スルトキハ別表第二號ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

第八條 備員死亡シタルトキハ其ノ葬祭ヲ行フ遺族又ハ備員ノ死亡ノ當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額五十圓ニ滿タサルトキハ五十圓)ノ葬祭料ヲ支給ス

第九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金又ハ遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ工場法ノ適用ヲ受ケル備員又ハ工場法、労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケサル備員ニ付テハ工場法施行令第十六條又ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ依リ労働者災害扶助法ノ適用ヲ受ケル備員ニ付テハ労働者災害扶助法施行令第十五條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ該當スル者歸郷スル場合ニ於テハ歸郷ニ必要ナル旅費ヲ支給ス

第十一條 備員健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケヘキトキハ其ノ期間第三條ノ扶助ハ之ヲ爲サス健康保險法ニ依リ傷病手當金ノ支給ヲ受ケヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ但シ休業扶助料ノ額ハ傷病手當金ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

備員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス但シ葬祭料ノ額ハ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ第三條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス

別表第二號ニ掲グル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

- 左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰上ク
- 一 第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 一級
- 二 第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 二級
- 三 第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ 三級

別表第二號ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應シ同表ニ掲グル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給ス

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引タル金額ヲ支給ス

第四條第三項ノ場合ニ在リテハ本條ノ障害扶助料ハ之ヲ支給セス

第六條 第三條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケル者療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ賃金五百四十日分ノ打切扶助料ヲ支給シ以テ扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第七條 備員死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ備員ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ左ニ掲グル區別ニ依リ遺族扶助料ヲ支給ス

- 一 職務上死亡シタルトキ 賃金三百六十日分
- 二 在職十年以上ノ者在職中死亡シタルトキ 賃金九十日分

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲サス

〔大電〕

一 解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年以内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依リ保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病力解雇後ニ於テ再發シタルトキ

第十三條 (削除)

第十四條 在職年數ノ計算ハ就職ノ月ヨリ起算シテ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

第十五條 本規程ヲ適用スヘキ備員ノ範圍及施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

附則

大正五年大阪市告示第九十三號職工工夫扶助規程並大正八年大阪市告示第六十四號電氣局運輸職員、運輸從業員特別給與規程ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭一、三告示一五)

渡船事業從務者ノ勤續年數ニ付テハ直轄ト爲リタル前後ノ年數ヲ通算ス

別表第一號



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金三百六十日分
- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ

- 四 身體ヲ障害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ 賃金四十日分

四八四

賃金 百八十日分

賃金 四十日分

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身	體	障	害	障害扶助料
第一級一	兩眼ヲ失明シタルモノ				標準賃金 五百四十日分
二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ				
三	精神又ハ胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ				
四	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ				
五	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ				
六	兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ				
七	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ				
第二級一	兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ				標準賃金 四百八十日分
二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ				
三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ				
四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ				

〔大電〕

〔大電〕

第三級一

- 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ
- 三 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇四以下ニ減シタルモノ
- 四 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 十指ヲ失ヒタルモノ

標準賃金 四百二十日分

第四級一

- 二 兩眼ノ視力〇・〇四以下ニ減シタルモノ
- 三 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ
- 四 兩耳ヲ全ク聾シタルモノ
- 五 精神ニ障害ヲ殘スモノ
- 六 胸腹部臟器ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ
- 七 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ
- 八 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ
- 十指ノ用ヲ廢シタルモノ

標準賃金 三百六十日分

第五級一

- 二 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ
- 三 一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ
- 四 兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ
- 五 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ
- 六 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ
- 十趾ヲ失ヒタルモノ

標準賃金 三百日分

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

四八五



第六級一		<p>兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ</p> <p>一眼失明シ他眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ</p> <p>兩耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ</p> <p>咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p> <p>一手ノ五指ヲ失ヒタルモノ</p>	標準賃金 二百四十日分
第七級六		<p>兩眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ</p> <p>一眼失明シ他眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ</p> <p>脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ</p> <p>一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一手ノ五指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>十趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	標準賃金 二百十日分
第八級一		<p>兩眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ</p> <p>一眼ヲ失明シ又ハ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ</p> <p>胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ</p> <p>神経系統ニ著シキ機能障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ</p> <p>一上肢又ハ一下肢ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ヲ失ヒタルモノ</p>	標準賃金 百八十日分

〔大電〕

第九級一		<p>一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘スモノ</p> <p>兩側ノ鞏丸ヲ失ヒタルモノ</p>	標準賃金 百五十日分
第十級一		<p>兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>一眼ノ視力〇・〇四以下ニ減シタルモノ</p> <p>兩眼ニ半盲症又ハ視野狹窄ヲ殘スモノ</p> <p>一耳ヲ聾シタルモノ</p> <p>一手ノ拇指又ハ他ノ三指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	標準賃金 百二十日分

〔大電〕



第十一級一		第十二級一	
六	一手ノ拇指又ハ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	六	一眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ
七	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ	五	一眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
八	一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	四	一眼ノ眼瞼ヲ缺損シタルモノ
		三	一眼ノ眼瞼ヲ缺損シタルモノ
		二	一耳ノ耳鼓ノ大部分ヲ缺損シタルモノ
		一	一上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
			一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ
			一眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ
			兩眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
			一耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ
			背柱ニ畸形ヲ殘スモノ
			一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ
			一手ノ示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ
			一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ
			一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ

〔大電〕

第十三級一	
七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ
八	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ
九	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ
十	局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ
	一眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ
	一眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ
	兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ
	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ
	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ
	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ
	一足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ

〔大電〕

第十四級一	
二	上肢又ハ下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ
三	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ
四	一手ノ小指以外ノ指ノ骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
五	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	局部ノ疼痛其ノ他ノ神經症狀ヲ殘スモノ



備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依リ、屈折異常アルモノニ付テハ矯正視力ニ依ル
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指又ハ趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ屈伸不能ヲ來シタルモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

● 備員扶助規程施行細則

制 定 昭一一、三、一二告示一一六

昭和六年大阪市告示第三百三十六號從業員扶助規程施行細則左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

備員扶助規程施行細則

- 第一條 備員扶助規程ノ適用ヲ受ケサル備員左ノ如シ
  - 一 事務又ハ給仕、使丁及之ニ類スル業務ニ従事スル者
  - 二 傳染病感染者及死亡者手當給與規則ニ依リ手當金ノ支給ヲ受ケヘキ者
- 第二條 備員職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ治療ヲ受ケヘキ醫師又ハ病院ニ付當該局、部、課長ノ指定ヲ受ケヘシ但シ急ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項但書ノ場合ニ於テハ爾後速ニ届出ノ上當該局、部、課長ノ指示ヲ受ケヘシ
- 第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ醫師又ハ病院ノ請求書ヲ提出スヘシ

〔大電〕

● 日傭人夫扶助規程

〔大電〕

制 定 昭六、一二、二三告示三二七  
最近改正 昭一一、三 告示一一七

市制第九十一條第一項ニ依リ本市參事會ノ議決ヲ經日傭人夫扶助規程左ノ通相定メ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

日傭人夫扶助規程

- 第一條 本市日傭人夫（日々傭入レラル者又ハ使用期間ノ定メナク勞務供給契約ニ基キ使用セララル者ヲ謂フ以下同シ）及其ノ遺族ニハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲ス
- 前項ノ扶助ヲ受ケヘキ者民法ニ依リ同一原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除ス
- 第二條 扶助ヲ分テ左ノ七種トス
  - 一 治療
  - 二 休業扶助料
  - 三 打切扶助料
  - 四 障害扶助料
  - 五 遺族扶助料
  - 六 葬祭料
  - 七 歸郷旅費

第三條 日傭人夫業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ治療ヲ施シ又ハ其ノ治療ニ必要ナル費用ヲ支給ス

第四條 日傭人夫業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ其ノ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ療養中一日ニ付賃金

四九一

- 三 保健部所屬ノ者 葬儀夫特別手當、刀根山保養所特別手當、防疫課豫防手當、健康相談所特別手當
- 四 刀根山病院所屬ノ者 特別手當
- 五 桃山病院所屬ノ者 救治手當
- 六 電氣局所屬ノ者 忌引廢止手當、精勤休廢廢止手當、兵役服務手當、三ヶ月皆勤賞金、特別勤務手當、臨時手當、代務手當、臨時勤務手當、特別乘務手當、見習生教養手當、見習手當、瓦斯倫手當、乘客手當、石炭節約獎勵金、夜間柱上作業手當、劇場寄席等ノ電氣工作物巡視手當、廣告燈公共便所等橋梁燈、路傍燈並露天電燈巡視手當、電燈部營業所出張所宿直手當、電線路故障修繕ノ爲宿直手當、電動力故障修繕ノ爲宿直手當、電壓出張調査手當、工作物巡視夜警ノ爲宿直手當、夜間呼出電線路修繕作業手當、點燈手當、電氣器具修理獎勵金、電燈勸誘獎勵金、工事獎勵金、製作修理獎勵金、電力勸誘獎勵金、白熱瓦斯入電球販賣獎勵金、工事不良箇所發見手當、業務手當、兼務手當、紋日手當、運轉手當、宿直手當、高速手當
- 第八條 備員扶助規程第十條ノ規定ニ依ル歸郷旅費ハ歸郷ニ要スル汽車汽船賃、車馬賃、食費、宿泊料（旅舎ニ宿泊ヲ要スル場合ニ限ル）及其ノ他所要實費額トス附添人ニ要スル費用ニ付亦同シ
- 前項ノ規定ニ依ル汽車及汽船ハ三等賃金、食費ハ鐵道辨當代ヲ限度トシ宿泊料、車馬賃其ノ他ノ雜費ハ必要ト認ムル所要額トス
- 第九條 備員扶助規程ノ適用ヲ受ケル者月給者ナルトキハ其ノ月給額ノ三十分ノ一ヲ以テ日給額ト看做ス



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

ノ百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給ス  
前項ノ休業扶助料ハ本人ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ収入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ賃金ノ百分ノ二十トス  
日傭人夫傷病ノ原因ニツキ重大ナル過失アリタル爲勞働者災害扶助法施行令第七條ニ依リ地方長官ノ認定ヲ受ケタルトキハ前數項ノ休業扶助料ハ之ヲ支給セズ

**第五條** 日傭人夫業務上ノ負傷又ハ疾病ノ治愈シタルトキニ於テ身體障害ノ存スルトキハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス  
別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ニ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス  
左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰上ク

- 一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級
- 二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級
- 三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ有スルモノニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給ス  
既ニ身體障害ノ存スルモノノ負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付キ障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給ス

**第六條** 第三條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル者療養開始後一年ヲ經過スルモ治愈セザルトキハ賃金五百四十日分、勞働者災害扶助法施行令

第七條ニヨリ地方長官ノ認定ヲ受ケタル者ニ對シテハ賃金二百七十日分ノ打切扶助料ヲ支給シ以後扶助ヲ爲ササルコトヲ得

**第七條** 日傭人夫業務上死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分ノ遺族扶助料ヲ支給ス

**第八條** 日傭人夫業務上死亡シタルトキハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ本人ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿タサルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給ス

**第九條** 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金又ハ遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ニ付テハ勞働者災害扶助法施行令第十五條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル

**第十條** 日傭人夫別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ歸郷ニ必要ナル旅費ヲ支給ス

**第十一條** 第三條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回、本人ヨリ申出アリタルトキハ毎月二回之ヲ支給ス

障害扶助料及遺族扶助料ハ請求手續完了後十日以内ニ支給ス

**第十二條** 日傭人夫健康保險法(第四十八條第一項第二號)ノ規定ヲ除クニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケヘキトキハ其ノ期間第三條ノ扶助ハ之ヲ爲サス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受ケヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ但シ休業扶助料ノ額力傷病手當金ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

〔大電〕

從業員ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス但シ葬祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
健康保險法第六十二條第一項、第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ第三條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲サス  
**第十三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本規程ニ依リ扶助ヲ爲サス  
一 解僱(勞務供給契約ニ基ク使用廢止ヲ含ム以下同シ)後一年ヲ經

過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解僱前ニ又ハ解僱後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ  
二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治愈シタル負傷又ハ疾病力解僱後ニ於テ再發シタルトキ  
**第十四條** 扶助料ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス  
**第十五條** (削除)  
**第十六條** 本規程ノ施行ニ關シテハ從業員扶助規程施行細則ヲ準用ス

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身 體	障 害	障害扶助料
第一級	兩眼ヲ失明シタルモノ		標準賃金
二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ		五百四十日分
三	精神又ハ胸部腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ		
四	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ		
五	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ		
六	兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ		
七	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ		

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金



第四類 給與 第二章 手當及獎勵金

第二級一	二	兩眼ノ視力〇・〇一以下ニ減シタルモノ	標準賃金 四百八十日分
	三	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	
第三級一	二	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	標準賃金 四百二十日分
	三	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇四以下ニ減シタルモノ	
第四級一	二	兩眼ノ視力〇・〇四以下ニ減シタルモノ	標準賃金 三百六十日分
	三	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	
	四	兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	
	五	精神ニ障害ヲ殘スモノ	
	六	胸腹部臟器ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ	
	七	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	八	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	九	十指ノ用ヲ廢シタルモノ	
第五級一		兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	標準賃金

〔大電〕

第六級一	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	標準賃金 二百四十日分
	三	兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザルハ大聲ヲ解シ得サルモノ	
	四	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	五	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ又ハ其ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	六	十趾ヲ失ヒタルモノ	
	七	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	
第七級一	二	一眼失明シ他眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ	標準賃金 二百十日分
	三	兩耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ	
	四	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
	五	一手ノ五指ヲ失ヒタルモノ	
	六	兩眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ	
	七	一眼失明シ他眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ	
第八級一	二	兩眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ	標準賃金 百八十日分
	三	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
	四	一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ	
	五	一手ノ五指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	六	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
	七	兩眼ノ視力〇・四以下ニ減シタルモノ	

第四類 給與 第二章 手當及獎勵金



第九級一	第十級一
<p>二 一眼ヲ失明シ又ハ視力〇・〇以下ニ減シタルモノ</p> <p>三 胸腹部臓器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ</p> <p>四 神經系統ニ著シキ機能障害ヲ殘シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ</p> <p>五 一上肢又ハ一下肢ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>六 一手ノ拇指ヲ併セ二指又ハ拇指以外ノ四指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>七 一手ノ拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>八 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>九 女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘スモノ</p> <p>十 兩側ノ睪丸ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ</p> <p>三 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p> <p>四 齒ヲ缺損シ義齒ヲ補綴スルコト能ハス言語又ハ咀嚼ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ</p> <p>五 一手ノ示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>六 一手ノ拇指又ハ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>七 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>八 一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ</p>
<p>標準賃金 百五十日分</p>	<p>標準賃金 百二十日分</p>

〔大電〕

第十一級一	第十二級一
<p>二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ</p> <p>三 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p> <p>四 齒ヲ缺損シ義齒ヲ補綴スルコト能ハス言語又ハ咀嚼ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ</p> <p>五 一手ノ示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>六 一手ノ拇指又ハ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>七 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>八 一足ノ第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>一 一眼ノ視力〇・二以下ニ減シタルモノ</p> <p>二 兩眼ノ眼球又ハ眼瞼ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ</p> <p>三 一耳ノ聽力四十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ</p> <p>四 脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ</p> <p>五 一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>六 一手ノ示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>七 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>八 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p>
<p>標準賃金 九十日分</p>	<p>標準賃金 六十日分</p>



第十四級一	第十三級一
<p>九 一 眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>八 一 眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ</p> <p>七 兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ</p> <p>六 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>五 一 手ノ小指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>四 一 手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>三 一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>二 一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ</p>	<p>四 一 耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ</p> <p>三 一 上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>二 一 手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 一 手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 一 足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ</p>
<p>一 手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 手ノ小指以外ノ指ノ骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 局部ノ疼痛其ノ他ノ神經症狀ヲ殘スモノ</p>	<p>一 眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>一 眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ</p> <p>一 兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ</p> <p>一 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>一 手ノ小指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ</p>
<p>一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依リ、屈折異常アルモノニ付テハ矯正視力ニ依ル</p> <p>二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ</p> <p>三 指又ハ趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ屈伸不能ヲ來シタルモノヲ謂フ</p> <p>四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ</p>	<p>一 耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ</p> <p>一 上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>一 手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ</p>
<p>〔大電〕</p>	<p>〔大電〕</p>
<p>二標 十準 日賃 分金</p>	<p>四標 十準 日賃 分金</p>

第十四級一	第十三級一
<p>九 一 眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>八 一 眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ</p> <p>七 兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ</p> <p>六 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>五 一 手ノ小指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>四 一 手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>三 一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>二 一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ</p>	<p>四 一 耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ</p> <p>三 一 上肢又ハ一下肢ノ關節ニ機能障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>二 一 手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 一 手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ヲ失ヒ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 一 足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 局部治癒シタルモ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ</p>
<p>一 手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 手ノ小指以外ノ指ノ骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 局部ノ疼痛其ノ他ノ神經症狀ヲ殘スモノ</p>	<p>一 眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>一 眼ニ半盲症ヲ殘シ又ハ視野狹窄又ハ變狀ヲ殘スモノ</p> <p>一 兩眼ニ睫毛禿ヲ殘スモノ</p> <p>一 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ</p> <p>一 手ノ小指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>一 足ノ第二趾ヲ含ム一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>一 男子ノ外貌ニ著シキ醜痕ヲ殘スモノ</p>
<p>〔大電〕</p>	<p>〔大電〕</p>
<p>二標 十準 日賃 分金</p>	<p>四標 十準 日賃 分金</p>

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依リ、屈折異常アルモノニ付テハ矯正視力ニ依ル
- 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
- 三 指又ハ趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ屈伸不能ヲ來シタルモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ



### 第五節 住宅料

#### ●電燈營業所所屬現業員及從業員家屋賃借料補助金支給規程

制定 昭一一、三、二五達電一七

電燈營業所所屬現業員及從業員家屋賃借料補助金支給規程左ノ通制定シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 電燈營業所所屬現業員及從業員家屋賃借料補助金支給規程

ニ依リ指定區域内ニ居住スルコトヲ命シタル者ニ對シテハ家屋賃借料補助金トシテ月額十圓以下ヲ支給ス

第二條 前條ノ現業員及從業員已ム得サル事由ニ依リ指定區域外ニ居住セムトスルトキハ許可ヲ受ケヘシ

第三條 指定區域ニ居住シタルトキハ其ノ翌月分ヨリ家屋賃借料補助金ヲ支給ス

轉勤、退職、死亡シ若ハ解僱セラレ又ハ居住指定ヲ取消サレ若ハ指定區域外居住ヲ許可セラレタルトキト雖モ其ノ月分ノ家屋賃借料補助金ノ金額ヲ支給ス

第四條 家屋賃借料補助金ハ毎月末日迄ニ其ノ月分ヲ支給ス

〔大電〕

### 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

#### 第一節 退隱料及遺族扶助料

#### ●吏員退隱料條例

制定 明四〇、三、二條例二

最近改正 昭 六、七 條例九

本市會ニ於テ明治三十年大阪市條例第三號退隱料條例改正ノ件ヲ議決シ市制第百二十一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得左ノ通相定ム

#### 退隱料條例

第一條 本市有給吏員退職シタルトキハ此條例ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

第二條 在職十年以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

- 一 年齢六十年ヲ超ヘ退職ヲ許シタルトキ
- 二 創傷又ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ許シタルトキ
- 三 廢職又ハ事務ノ都合ニヨリ退職シタルトキ
- 四 本市ノ公職ニ就任スル爲退職シタルトキ
- 五 法定任期滿了ニ依リ退職シタルトキ
- 六 自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲解職シタルトキ

第四類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

キ

七 市制第八十四條第一項ニ依リ失職シタルトキ但シ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルカ爲失職シタルモノヲ除ク

第三條 公務ニ因リ創傷又ハ疾病ヲ受ケ職務ニ堪ヘサル爲退職ヲ許シタルトキハ在職期間ノ長短ニ拘ハラズ終身退隱料ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テハ創傷又ハ疾病ノ程度ヲ斟酌シ退隱料年額十分ノ七以内ノ金額ヲ增加退隱料トシテ給スルコトアルヘシ

第四條 退隱料ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額四分ノ一トシ在職十年ヲ超ル者ニハ四十年ニ至ル迄一年毎ニ俸給年額百二十分ノ一ヲ加給ス

退隱料年額單位未滿ノ數ハ單位ニ滿タシム

第五條 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終トス再任ノ者ニ在リテハ前職ヲ退キタル事由第二條各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ前後ノ年數ヲ通算ス

第六條 退隱料ハ月割ヲ以テ之ヲ支給シ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第七條 退隱料ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三ケ年以内ニ請求スヘシ若シ本條ノ期限内ニ請求セサルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第八條 左ニ掲ケル事項ノ一ニ該當スルトキハ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ失フモノトス

- 一 六年ノ懲役若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 在職中市吏員タルノ體面ヲ汚損スル行爲アリタルコト發覺シタ

〔大電〕



ルトキ

第九條 退隱料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄  
二 本市有給吏員ニ就職シタルトキ

第十條 退隱料ヲ受クル者再任ノ後退職シタルトキハ其退職當時ノ事實ニ因リ退隱料額ヲ算出シ前ノ退隱料額ニ比較シテ其多キ方ヲ給ス

第十一條 退隱料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十二條 本條例施行ニ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附則

第十三條 本改正條例ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本市有給吏員中本改正條例施行ノ日ニ在職スル者在職十年ニシテ第二條各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ退職シタルトキハ之ニ對シテ支給スヘキ退隱料ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額四分ノ一トシ在職十年ヲ超ル者ニハ四十年ニ至迄一年毎ニ俸給年額十分ノ一ヲ加給ス

第十五條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ本條例ヲ適用スヘキ場合ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

支給日ハ十二月ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各二十六日以降トス

新ニ退隱料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル退隱料ノ全額ヲ一時ニ支給ス

權利消滅シ又ハ停止セラレタル場合ニ於ケル退隱料ハ前各項ノ規定ニ拘ラス隨時之ヲ支給ス

第四條 退隱料ヲ受領セントスルトキハ其ノ都度退隱料證書又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ但シ市區町村長ノ閱覽證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五條 條例第八條又ハ同第九條ノ規定ニ該當スル者ノ退隱料支給ノ終始ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ判決確定ノ日ノ前日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 在職中市吏員タル體面ヲ汚損スルノ行爲アリタルコト發覺シタルトキハ發覺シタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 三 條例第九條ノ規定ニ該當スル事項ヲ隱蔽シ退隱料ヲ受ケタルコト發覺シタルトキハ其ノ發覺シタル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ判決確定ノ日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ、刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム
- 五 本市有給吏員ニ就職シタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本條例ヲ適用スヘキ場合ニ禁錮以上ノ刑ト看做ス

附則 (昭六、七條例九)

第十六條 昭和六年六月減俸ニ因リ引續キ從前受ケタル俸給ヨリ少キ俸給ヲ受クル者ニ對シ退隱料ヲ支給スルトキハ從前ノ俸給ニ依リ其ノ額ヲ定ム

● 吏員退隱料條例施行細則

制 定 昭一、三、一二告示一一八

明治四十年大阪告示第七十二號市吏員退隱料條例施行細則左ノ通知正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市吏員退隱料條例施行細則

- 第一條 退隱料ノ支給ヲ受ケントスル者ハ退隱料請求書ニ在職中ノ履歷書及戸籍謄本ヲ添へ請求スヘシ
- 市吏員退隱料條例(以下條例ト稱ス)第三條第一項ノ規定ニ依ル退隱料ノ支給ヲ受ケントスル者ハ前項ノ規定ニ依ル書類ノ外醫師ノ診斷書及其ノ事實ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スヘシ
- 第二條 前條ノ規定ニ依ル請求理由アリト認ムルトキハ別表様式ノ退隱料證書ヲ交付ス
- 第三條 退隱料ハ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ當月分及其ノ前二月份ヲ支給ス

〔大電〕

〔大電〕

ヲ以テ支給ヲ終リ其ノ退職シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第六條 條例第三條ノ規定ニ依ル增加退隱料支給ノ割合ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ七
- 二 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ五
- 三 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ又ハ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ三

前項ノ規定ニ該當セサル創傷又ハ疾病ニ關スル增加退隱料ノ割合ハ退隱料證書ヲ交付スル場合ニ之ヲ定ム

第七條 退隱料ヲ受クル者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ本人、家族若ハ親族ヨリ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第八條 退隱料ヲ受クル者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其ノ取消ヲ受ケルコトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタル場合ニ限り停止中ノ退隱料ヲ一時ニ支給ス

第九條 條例第九條ノ規定ニ依ル停止ノ事由止ミタルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添へ届出ツヘシ

第十條 退隱料ヲ受クル者死亡シタルトキハ其ノ家族、親族又ハ縁故者ヨリ死亡ノ届出ヲ爲スト同時ニ退隱料證書ヲ返納スヘシ

第十一條 退隱料ヲ受クル者其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ本人、家族又ハ親族ヨリ退隱料證書ヲ返納スヘシ



第四類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

第十二條 退隱料證書ヲ亡失シ又ハ其ノ謄本ヲ亡失若ハ汚染毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ヲ事實ト認ムルトキハ退隱料證書ノ謄本ヲ交付ス此ノ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 退隱料證書ヲ汚染シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ證書ヲ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求アリタルトキハ其ノ真正ヲ認定シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ其ノ眞偽ヲ認定シ難キモノニハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十四條 退隱料ヲ受クル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ改印シタルトキ又同シ

第十五條 退隱料ヲ受クル者住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨ヲ、本籍地ニ變更シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ、氏名ニ變更シタルトキハ退隱料證書及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附則

大正十年大阪府告示第二十六號市吏員退隱料及遺族扶助料更正證書發行交付手續ハ之ヲ廢止ス

別表

第 號
退隱料證書
元大阪市何(職名) 氏
生年月日 名
昭和年月日退職
明治四十年大阪府條例第二號市吏員退隱料條例ニ依リ
終身退隱料年額金 ヲ支給ス
昭和 年 月 日
大阪市長 氏 名印

遺族扶助料條例

制定 明四二、一二、二七條例六 最近改正 昭二、二二 條例六

本市會ニ於テ遺族扶助料條例ヲ議決シ市制第二百一十一條ニ依リ内務大

〔大電〕

藏兩大臣ノ許可ヲ得テ左ノ通相定ム

遺族扶助料條例

第一條 本市有給吏員左ニ掲ケル事項ノ一ニ該當スルトキハ其遺族ハ此條例ノ規定ニ依リ二十年間扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲ爲サザリシ者ノ遺族ハ此限ニアラス

一 職務ニ基因シタル傷疾若クハ疾病ニ由リ在職中死亡シタルトキ

二 在職十年以上ニシテ在職中死亡シタルトキ

三 退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者死亡シタルトキ

前項第二號及第九條ノ在職年數ノ計算ニ付テハ退隱料條例第五條ノ規定ヲ準用ス

第二條 有給吏員ハ施行細則ノ定ムルトコロニ依リ其俸給ノ百分ノ一ヲ本市ニ納付スヘシ但別段ノ規定ノ適用ヲ受クル者ハ之ヲ除ク

第三條 扶助料年額ハ左ノ區分ニ依ル

一 第一條第一項第一號ノ場合ニ在リテハ退隱料條例第三條ニ依リ査定シタル金額ノ二分ノ一

二 第一條第一項第二號ノ場合ニ在リテハ退隱料條例第四條又ハ第十條ニ依リ算出シタル金額ノ二分ノ一

第四條 此條例ニ於テ遺族ト稱スルハ有給吏員タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其家ニ在リテ第五條ニ該當スル者ヲ云フ但父死亡後出生シタル嫡出子ハ死亡當時其家ニ在リタル者ト看做ス

第五條 扶助料ヲ受クヘキ者ノ順序左ノ如シ但養子ハ家督相續人ニ非ラサレハ之ヲ給セス

第四類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

〔大電〕

第一 寡婦

第二 子

第三 父母

父母ノ間ニ於テハ父ヲ先キニシ子數人アル場合ハ施行細則ノ定ムル順序ニヨリ支給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サル者及推定家督相續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助料ヲ給セス但疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ廢除セラレタル者ハ此限ニアラス

第六條 扶助料ヲ受クル權利ヲ有スル者死亡シ又ハ其權利ヲ喪失シタルトキハ扶助料ハ第一條第一項第一號乃至第三號ノ事項發生ノ時ヨリ二十年ヲ經過スル迄ノ間前條ニ定ムル順序ニ從ヒ次順位ノ者ニ轉給ス

第七條 扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其權利ヲ失フ

- 一 懲役若クハ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 寡婦又ハ母婚姻シタルトキ
- 四 子二十歳ニ滿チタルトキ

第八條 扶助料ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姉妹二十歳未滿又ハ篤疾癡疾ニシテ自活スルコト能ハス且扶養ヲ爲ス者ナキトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ二ヶ年分ヲ一時ニ給與ス

第九條 本市有給吏員在職中死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ遺

五〇五

五〇四



族ニ一時扶助金ヲ給ス

一 再任者ニアラサル在職十年未満ノ者職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

二 再任者ニシテ在職十年未満ノ者職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

三 再任者ニシテ在職十年以上ノ者再任後在職二年五箇月未満ニシテ職務ノ爲ニアラスシテ死亡シタルトキハ最終俸給年額ノ四分ノ一但シ再任後ノ在職一年以上ハ一箇月ヲ加フル毎ニ俸給年額ノ二分ノ一ヲ加フ

四 第一條第一項第一號ニ該當スルトキ又ハ第一條第二項第二號ニ該當スル者ノ中再任者ニアラサル者若ハ再任後在職二年五箇月以上ノ者ハ最終俸給年額ノ三分ノ一

第十條 前條ノ扶助金ヲ支給スヘキ遺族ノ順序ハ第五條ニ依ル

第十條ノ二 健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ之ニ相當スル額ヲ第九條ノ扶助金ヨリ控除ス

第十一條 扶助料ノ年額及一時金ノ圓位未満ハ圓位ニ滿タシム

第十二條 扶助料ノ支給及廢止ハ其事由ノ生シタル翌月ヨリ之ヲ行フ

第十三條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後一ケ年以内ニ請求セザルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十四條 扶助料ハ他ノ權利ノ目的トナスコトヲ得ス

メタルトキハ其ノ診斷書

二 條例第一條第三號ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ市吏員退職料條例施行細則第十條ノ規定ニ依リ返納スヘキ退職料證書但シ既ニ之ヲ返納シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 條例第五條第三項但書ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者又ハ先順位者カ同條同項但書以外ノ事由ニ基キ家督相續ヲ廢除セラレタルニ因リ扶助料ヲ受クヘキ者ハ家督相續廢除ノ原因ヲ證スル確定判決ノ謄本若ハ戸籍吏ノ證明書

四 條例第六條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ前者ノ扶助料證書及前者カ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ確定判決ノ謄本

五 條例第八條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ二十歳未満又ハ篤疾癡疾ニシテ自活スルコト能ハス且扶養ヲ爲ス者ナキコトヲ證スル市區町村長又ハ市區町村長及醫師ノ證明書

第四條 前條ノ規定ニ依リ請求アリト認ムルトキハ第一號様式ノ扶助料證書ヲ交付ス但シ條例第八條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ニハ辭令書ヲ用フ

第五條 扶助料ハ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ當月分及前二箇月分ヲ支給ス

支給日ハ十二月ニ在リテハ二十三日以降、其ノ他ノ月ニ在リテハ各二十六日以降トス

新ニ扶助料證書ヲ交付シタル者ニ對シテハ最近到來ノ前項ノ規定ニ依ル期日ヨリ當月分及其ノ以前ニ屬スル遺族扶助料ノ全額ヲ一時ニ

第四類 給與

第三章

退職料、遺族扶助料及退職給與金

第十五條 此條例施行ニ必要ナル細則ハ市參事會之ヲ定ム

遺族扶助料條例施行細則

制定 昭一一、三、一二告示一一九

明治四十五年大阪府告示第九號遺族扶助料條例施行細則左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

遺族扶助料條例施行細則

第一條 本市有給吏員ハ遺族扶助料條例(以下條例ト稱ス)第二條ノ規定ニ依ル金額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル納付金ハ給料支給ノ際之ヲ徴收ス

第二條 子數人アル場合ハ左ノ順位ニ依リ扶助料ヲ支給ス

一 男女ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

二 男相互又ハ女相互間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

三 前二號ノ場合ニ於テ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

民法第八百三十六條ノ規定ニ依リ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生レタル者ト看做ス

第三條 遺族扶助料ヲ受ケントスル者ハ扶助料請求書(第四號ニ該當スル様式其ノ他)ニ戸籍謄本及左ノ書類ヲ添ヘ請求スヘシ

一 條例第一條第一號ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ者ハ傷痍若ハ疾病ノ職務ニ基因シタルコトヲ證スルニ足ル書類及醫師ヲシテ診斷セシ

支給ス

權利消滅シ又ハ停止セラレタル場合ニ於ケル扶助料ハ前各項ノ規定ニ拘ラス隨時之ヲ支給ス

一時扶助金ハ隨時之ヲ支給ス

第六條 扶助料ヲ受領セントスルトキハ其ノ都度扶助料證書又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ但シ市區町村長ノ閱覽證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七條 扶助料ヲ受クル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ改印シタルトキ亦同シ

第八條 扶助料ヲ受クル者住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨ヲ、本籍地ニ變更シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ、改名シタルトキハ扶助料證書又ハ其ノ謄本及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第九條 扶助料證書ヲ亡失シ又ハ其ノ謄本ヲ亡失若ハ汚染毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ理由ヲ具シ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ヲ事實ト認ムルトキハ扶助料證書ノ謄本ヲ交付ス此ノ謄本ハ扶助料證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十條 扶助料證書ヲ汚染シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ證書ヲ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ請求アリタルトキハ其ノ眞正ヲ認定シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ其ノ眞偽ヲ認定シ難キモノニハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ權利消滅シ又ハ之ヲ受クヘキ者ナキニ至



ヲタルトキハ本人、家族若ハ親族等扶助料證書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出  
ツヘシ  
第一號様式

第 號 扶助料證書

割印

故大阪市何(職名)氏名(寡婦)  
(子)(父)(母) 氏 名

生年月日

扶助料年額金若干

明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料條例ニ依リ  
昭和何年何月ヨリ前記扶助料ヲ支給ス

年 月 日

大阪市長 氏 名印

遺族扶助料條例同施行細則全文ハ別ニ印刷シ交付スルモノトス  
第二號様式

扶助料請求書

故大阪市何(職名)氏名儀何年何月何日大阪市何(職名)就職何年何月  
何々ノ事由ニ依リ(何々ノ事由ニ依リ退職ノ處何年何月何日何々ノ

事由ニ依リ)死亡候ニ付明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料  
條例ニ依リ相當扶助料支給相成度別紙戸籍謄本(及何々書類)相添ヘ  
此段請求候也

年 月 日

本籍  
現住所

故大阪市何(職名)氏名

(寡婦)(子)(父)(母)

氏 名印

大阪市長氏名殿

第三號様式

扶助料請求書

故大阪市何(職名)氏名(寡婦)(子)(父)(母)氏名儀遺族扶助料ヲ受ケ  
ル者ニ候處何年何月何日死亡(又ハ何々ノ事由ニ依リ權利消滅)候ニ  
付明治四十二年大阪市條例第六號遺族扶助料條例第六條ニ依リ自分  
へ轉給相成度別紙戸籍謄本及扶助料證書(何々書類)相添ヘ此段請求  
候也

年 月 日

本籍  
現住所

故大阪市何(職名)氏名

(寡婦)(子)(父)(母)

氏 名印

〔大電〕

大阪市長氏名殿

●退隱料及扶助料ノ増額ニ關スル條例

制 定 大九、一二、一一條例一八

本市會ノ議決ヲ經大阪府知事ノ許可ヲ受ケ退隱料及扶助料ノ増額ニ關

基礎俸給年額	參千圓ヲ超エ四千圓ヲ超エサルモノ	千貳百圓ヲ超エ參千圓ヲ超エサルモノ	參百圓ヲ超エ參千圓ヲ超エサル者	參百圓以下ノ者
増額俸給年額	基礎年額ニ千五百圓ヲ加ヘタル額	基礎年額ニ其ノ三分ノ十三ニ相當スル金額及貳百圓ヲ加ヘタル額	基礎年額ニ其ノ五割ニ相當スル金額及百圓ヲ加ヘタル額	基礎年額ニ其ノ十割ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

大正九年三月三十一日ニ於テ休職中ノ者又ハ其ノ遺族カ休職トナル  
當時ノ俸給ニ基キ市吏員退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受ケヘキ場合ニ於  
テハ其ノ金額ノ算出ノ基礎タル俸給年額ハ前表ニ準シ算出シタル額  
トス

第二條 本條例ニ依ル退隱料又ハ扶助料ニシテ圓位未滿ノモノハ之ヲ  
圓位ニ滿タシム

第三條 本條例ニ依ル退隱料又ハ扶助料ノ増加額ノ支給ハ左ノ區分ニ  
依ル

- 一 第一條第一項ニ當ル者ノ増加額ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ支  
給ス但シ退隱料條例第九條ニ依リ其ノ支給ヲ停止セラレタル者  
ニ對シ増加額ヲ支給スル場合ハ再ヒ退隱料ノ支給開始ノ時ヨリ

第四類 給與

第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

スル條例左ノ通相定ム

退隱料及扶助料ノ増額ニ關スル條例

第一條 大正九年三月三十一日ニ於テ現ニ市吏員退隱料條例ニ依リ退  
隱料又ハ遺族扶助料條例ニ依リ扶助料ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ノ退隱  
料又ハ扶助料ノ年額ハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給年額ニ付  
左ノ區分ニ依リ増額シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ之ヲ基礎トシテ算  
出シタル額トス

〔大電〕

之ヲ支給ス

二 第一條第二項ニ當ル者ノ増加額ハ其ノ退隱料又ハ扶助料ノ支給  
開始ノ時ヨリ之ヲ支給ス

第四條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム  
附 則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



### 第二節 退職給與金

#### ●有給吏員退職給與金條例

制 定 明三三、四、七告示三一  
最近改正 昭九、一二 條例三二

本市會ノ議決ヲ經テ有給吏員諸職員退職者及死亡者給與金規程左ノ通相定ム

##### 有給吏員退職給與金條例

**第一條** 本市有給吏員及諸職員在職滿一年以上ニシテ退職シタル者ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ支給ス

**第二條** 有給吏員及諸職員ニシテ退職ノ際給與金ヲ受ケタル者再ヒ就職シ爾後退職シタルトキハ前條ニ掲ケル在職年數ハ其再任ノ日ヨリ起算ス

前項ノ給與金トハ本規程第一條及明治二十三年大阪市告示參第七號並ニ明治二十九年大阪市告示參第十二號ニ依リ給與シタルモノヲ謂フ

**第三條** 自己ノ便宜ニ由リ退職シタル者、懲戒處分ニ依リ免職シタル者又ハ雇及之ニ準スヘキ者ニハ給與セス

**第三條ノ二** 本條例ノ規定ニ依ル退職給與金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

**第四條** 本規程ハ告示ノ日ヨリ施行シ明治二十三年大阪市告示參第七

號及明治二十九年大阪市告示參第十二號ハ其日ヨリ廢止ス

附則 (昭六、七條例一〇)

昭和六年六月減俸ニ因リ引續キ從前受ケタル給料ヨリ少キ給料ヲ受ケル者ニ對シ本給與金ヲ支給スルトキハ從前ノ給料ニ依リ其ノ額ヲ定ム

#### ●雇員其ノ他日給者特別給與規程

程

制 定 大一一〇、四、一告示 三五  
最近改正 昭一一、三 告示一二〇

本市會ノ議決ヲ經テ雇員其ノ他日給者特別給與規程左ノ通相定ム

雇員其ノ他日給者特別給與規程

**第一條** 本市ノ雇員其ノ他日給者ニハ本規程ノ定ムル所ニ依リ退職給與金、遺族扶助金又ハ葬祭料ヲ給ス

前項ノ各給與金ハ他ノ規定ニ依リテ退職若クハ死亡ノ爲同一種類ノ給與金ヲ受ケルトキハ其ノ給與額ヲ比較シテ多キ方ヲ給ス

**第二條** 本規程ノ適用ヲ受ケル者ハ雇員及備員トス

**第三條** 退職給與金ハ退職者ニ對シ退職當時ノ日給ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス但シ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ市ノ利益ヲ害シ若ハ著シク市ノ體面ヲ汚損スト認ムヘキ行爲アリタル爲解僱シタル者ニハ之ヲ給セス

一 勤績五年ニシテ退職シタルトキハ日給七十五日分トス  
二 勤績五年ヲ超エ退職シタルトキハ五年ヲ超エタル後一年毎ニ日

〔大電〕

〔大電〕

給十五日分ヲ增加ス

三 勤績十年ヲ超エ退職シタルトキハ十年ヲ超エタル後一年毎ニ日給二十日分ヲ增加ス

四 職務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ再ヒ從來ノ業務ヲ執ルコト能ハサルカ爲退職シタルトキハ前各號ノ外在職年數ニ不拘日給百二十日分以内ヲ給ス

**第四條** 本規程ノ適用ヲ受ケル者引續キ本市有給吏員トナリタルトキハ本規程ノ適用ニ付テハ退職シタル者ト看做ス但シ其ノ給與金ハ有給吏員ノ職ヲ退キタル際ニ之ヲ給ス死亡シタルトキ亦同シ

前項ノ給與金ヲ受ケヘキ者大阪市有給吏員退職給與金條例第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ給セス

**第五條** 遺族扶助金ハ在職中死亡シタル場合ニ死亡當時ノ日給ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

一 勤績五年以上ニシテ死亡シタルトキハ第三條第一號乃至第三號ノ例ニ依ル

二 職務上死亡シタルトキハ前號ノ外在職年數ニ不拘日給百二十日分以内ヲ給ス

**第六條** 遺族扶助金ヲ受ケヘキ者ニ付テハ備員扶助規程第九條ヲ準用ス

**第七條** 葬祭料ハ在職中死亡シタル者ノ葬祭ヲ爲シタル者ニ之ヲ給シ其ノ額ヲ五十圓トス

健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給ヲ受ケヘキ者ニ對シテハ葬祭料ヲ支給セス但シ葬祭料ノ額カ埋葬料又ハ埋葬ニ

第四類 給與 第三章 退職料、遺族扶助料及退職給與金

要シタル費用ヨリ多キトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

**第八條** 本規程ノ適用ヲ受ケル者月給者ナルトキハ其ノ月給額ノ三分ノ一ヲ以テ日給額ト看做ス

**第九條** 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

**第十條** 各給與金ニシテ圓位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ圓位ニ滿タシム

**第十一條** 各給與金ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル日ヨリ一年內ニ請求スルニアラサレハ之ヲ給セス

**第十二條** 給與金ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

**第十三條** 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (昭一一、三告示二〇)

#### ●雇員其ノ他日給者特別給與規程施行細則

程施行細則

制 定 大一一〇、四、一告示 三六

雇員其ノ他日給者特別給與規程施行細則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

雇員其ノ他日給者特別給與規程施行細則



第四類 給與 第三章 退隱料、遺族扶助料及退職給與金

第一條 退職給與金ヲ受ケムトスル者ハ在職中ノ履歷書ヲ添ヘ元所屬部課長ヲ經由シテ請求書ヲ提出スヘシ但シ雇員其ノ他日給者特別給與規程第三條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ負傷若ハ疾病職務ニ基因シタルコトヲ證明スル元所屬部課長ノ書類及其ノ傷痕又ハ疾病ノ爲再ヒ從前ノ職務ヲ執ルニ堪ヘサルコトヲ證明スル醫師ノ診斷證書ヲ添付スルヲ要ス

市長ハ事宜ニ依リ醫師ヲ指定シテ診察セシムルコトアルヘシ

第二條 遺族扶助金ヲ受ケムトスル者ハ戶籍謄本、醫師ノ死亡診斷書又ハ死體檢案書並元所屬部課長ニ於テ作製シタル死者在職中ノ履歷書ヲ添ヘ請求書ヲ提出スヘシ但シ雇員其ノ他日給者特別給與規程第五條第二號ニ該當スル者ニ在リテハ死亡ノ職務ニ基因シタルコトヲ證明スル元所屬部課長ノ書類及病狀ノ經過ヲ詳記シタル醫師ノ死亡診斷書ヲ添付スルヲ要ス

遺族扶助金ヲ受クヘキ者ノ中雇員其ノ他日給者死亡當時其ノ收入ニ依リテ生計ヲ維持シタル親族若ハ戶籍上又ハ事實上同一ノ家ニ在リテ其ノ收入ニ依リテ生計ヲ維持シタル者ニアリテハ其ノ事實ニ付現住地市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第三條 葬祭料ヲ受ケムトスル者ハ死者ノ葬祭ヲ行ヒタルコトヲ證明スル元所屬部課長ノ書類並醫師ノ死亡診斷書又ハ死體檢案書ヲ添ヘ請求書ヲ提出スヘシ

第四章 被服

●運輸吏員其ノ他被服規程

制 定 昭一一、四、二五告示二八四

大正十四年大阪市告示第五百五十三號電氣局運輸吏員被服規程左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局運輸吏員其ノ他被服規程

第一條 電氣局運輸吏員其ノ他ハ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス

別表第一號ニ依ルモノ  
運輸部長

別表第二號ニ依ルモノ

業務課長、電車課長、電車課運輸係長、同監督係長、教習所長及

電車運輸事務所長

別表第三號ニ依ルモノ

業務課高速係長

別表第四號ニ依ルモノ

自動車課長、自動車課運輸係長及自動車運輸事務所長

第四類 給與 第四章 被服

別表第五號ニ依ルモノ  
路面軌道事業ニ關スル運輸監督長、同監督副長、電車運輸事務所助役、區主任、市書記及市技手ニシテ運輸監督又ハ運輸從業員見習教養ノ職務ニ從事スル者

別表第六號ニ依ルモノ

乗合自動車事業ニ關スル運輸監督長、同監督副長、自動車運輸事務所助役、市書記及市技手ニシテ運輸監督ノ職務ニ從事スル者

別表第七號ニ依ルモノ

乗務所主任、同助役、驛長、驛助役、市書記及市技手ニシテ高速軌道ノ運輸監督ノ職務ニ從事スル者

電氣局長ハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外勤務上必要アリト認ムル左ノ運輸吏員其ノ他ニ對シ左ノ種別ニ依リ服裝ヲ爲サシムルコトヲ得

別表第二號ニ依ルモノ

業務課庶務係長、同企畫係長、電車課乘客係長、車輛課長、工務課長、車輛課工務課各係長及工場長

別表第四號ニ依ルモノ

自動車課車輛係長

別表第五號ニ依ルモノ

電車課勤務ノ市書記及市技手

別表第六號ニ依ルモノ















袖章



釦



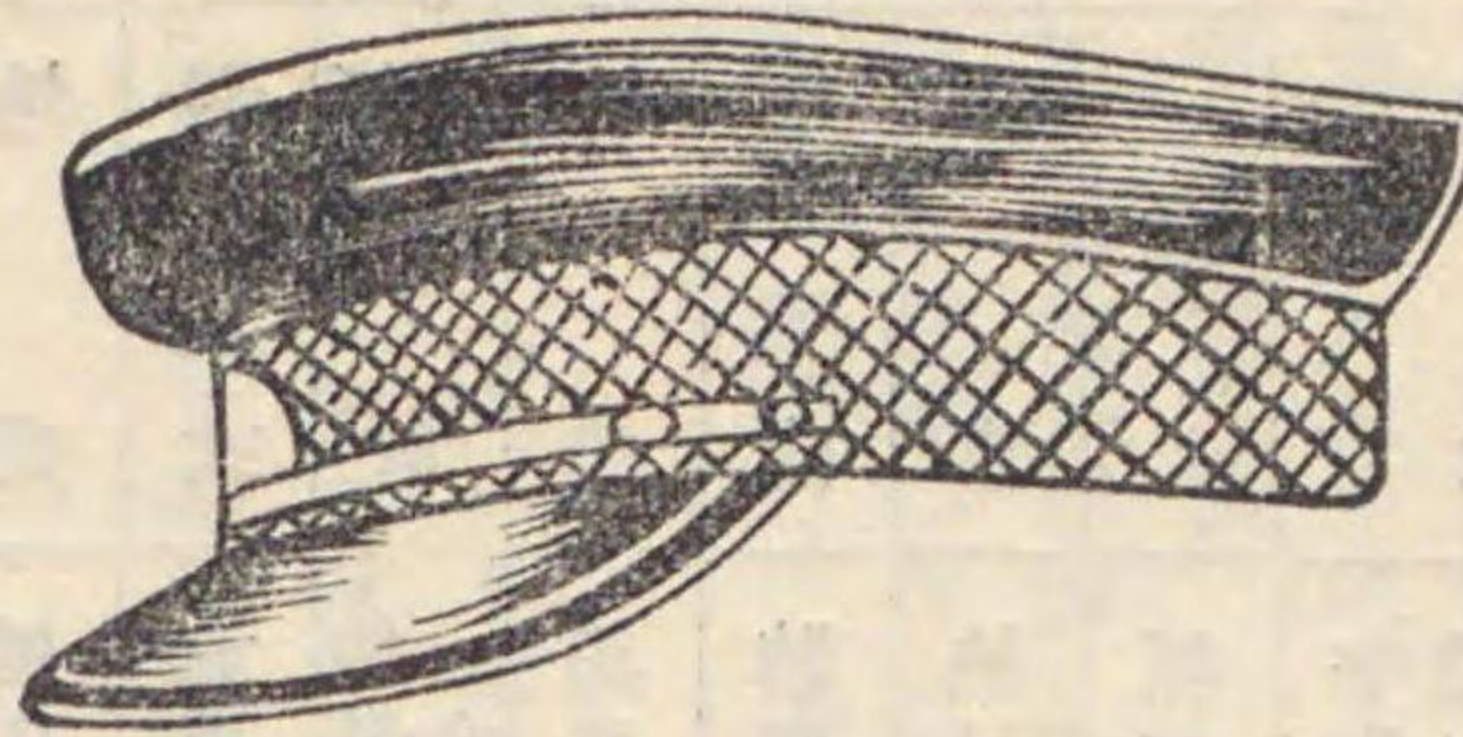
守衛長  
守衛副長



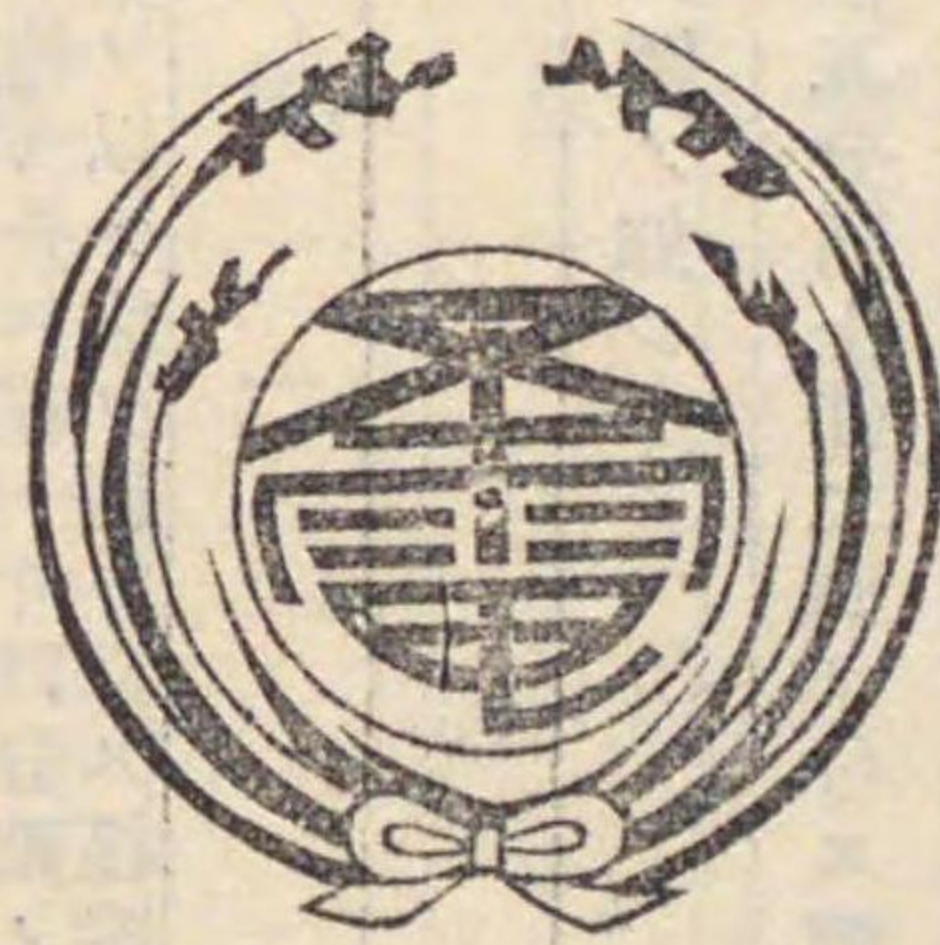
守衛章  
守衛副章



帽



徽章



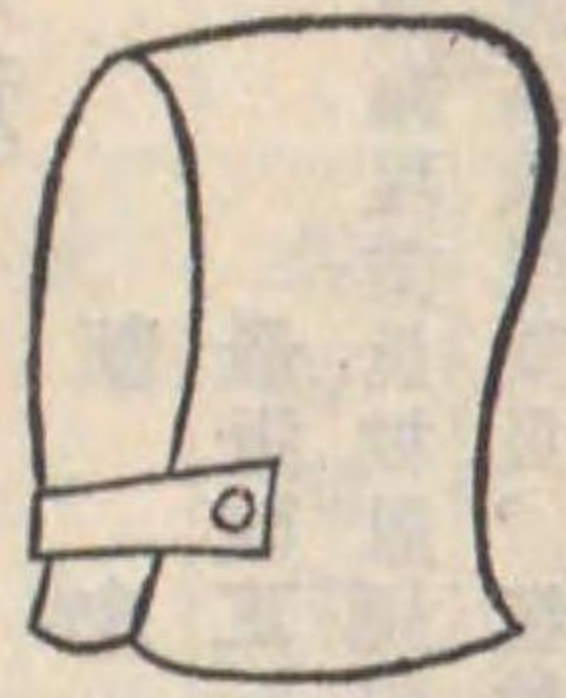
外套		服袴	
襟章	袖章	制式	地質
冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	折襟二重釦十二個頭巾付ニシテ後面ノ裾ヲ割ル	冬服ニ同シ
			上衣ニ同シ
			地質
			黒又ハ濃紺絨



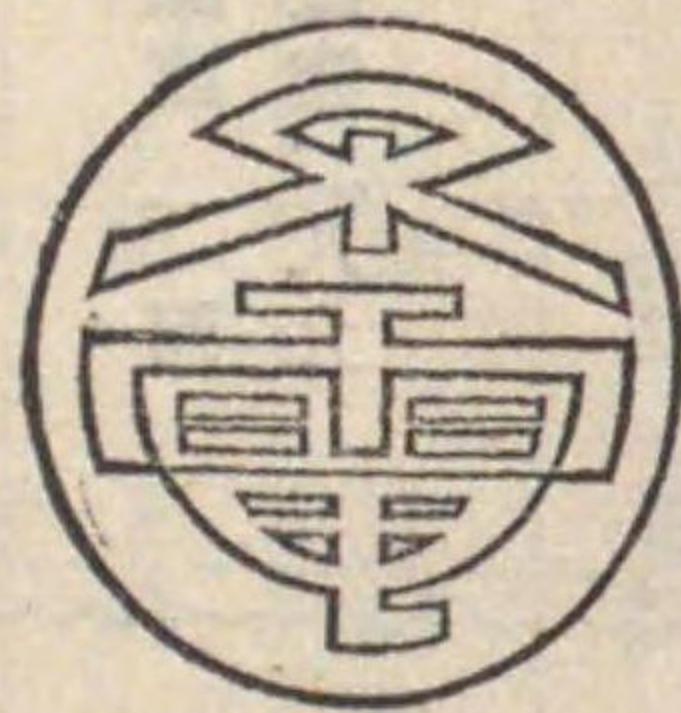




巾頭套外

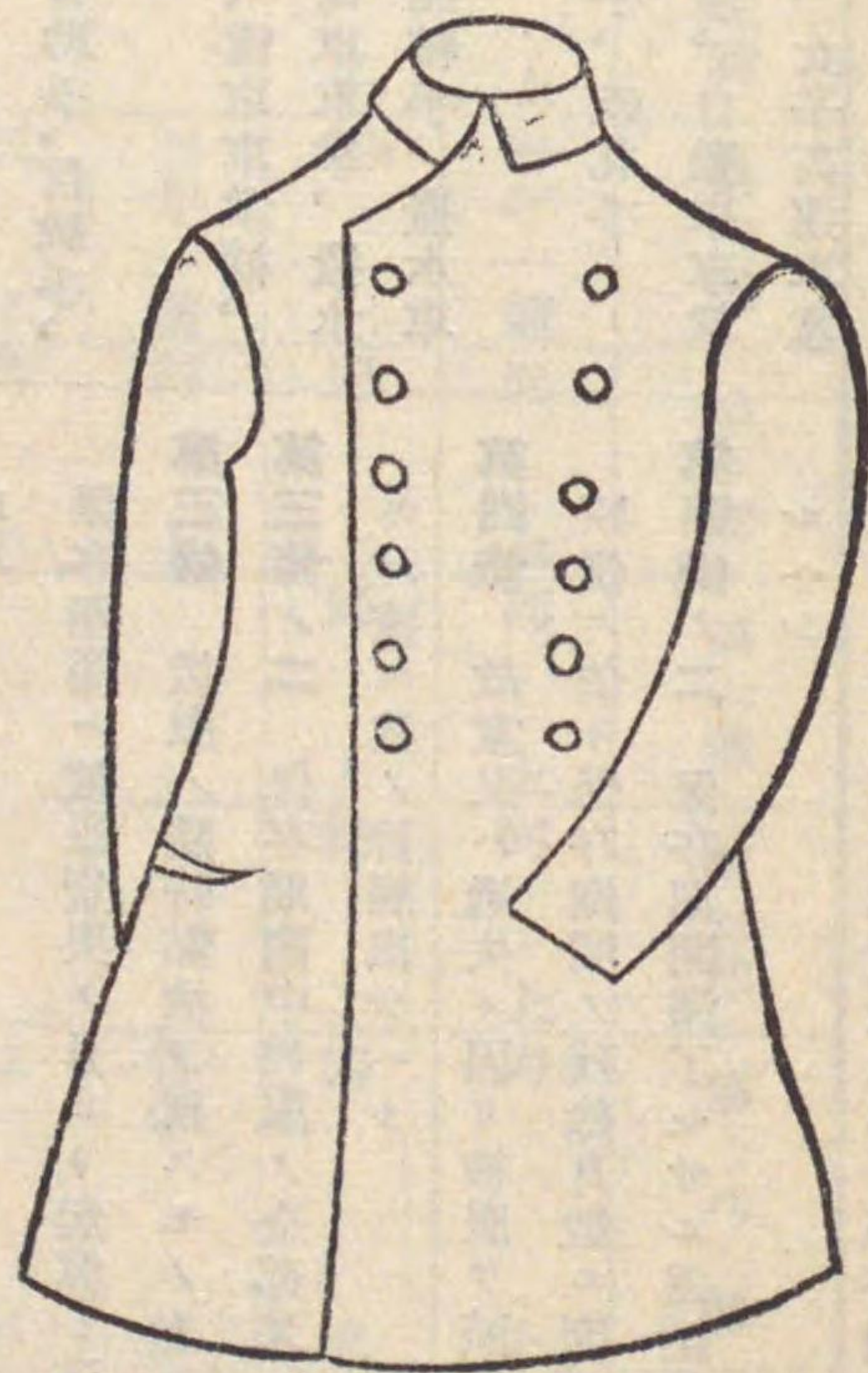


釦

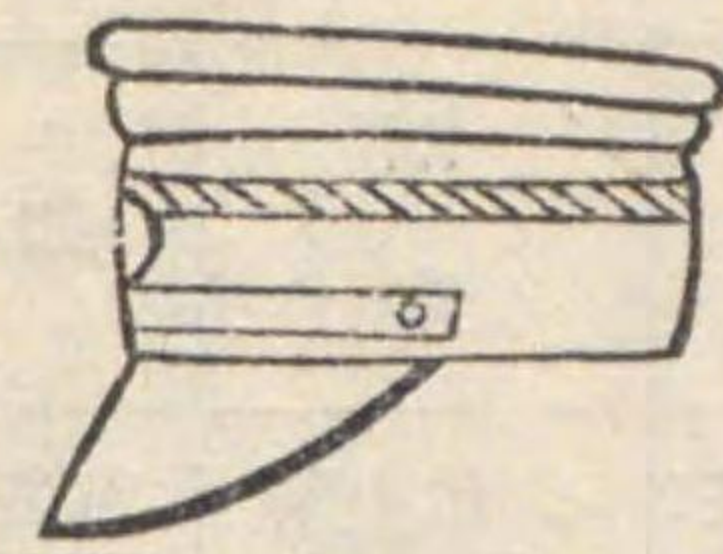


襟章

套外



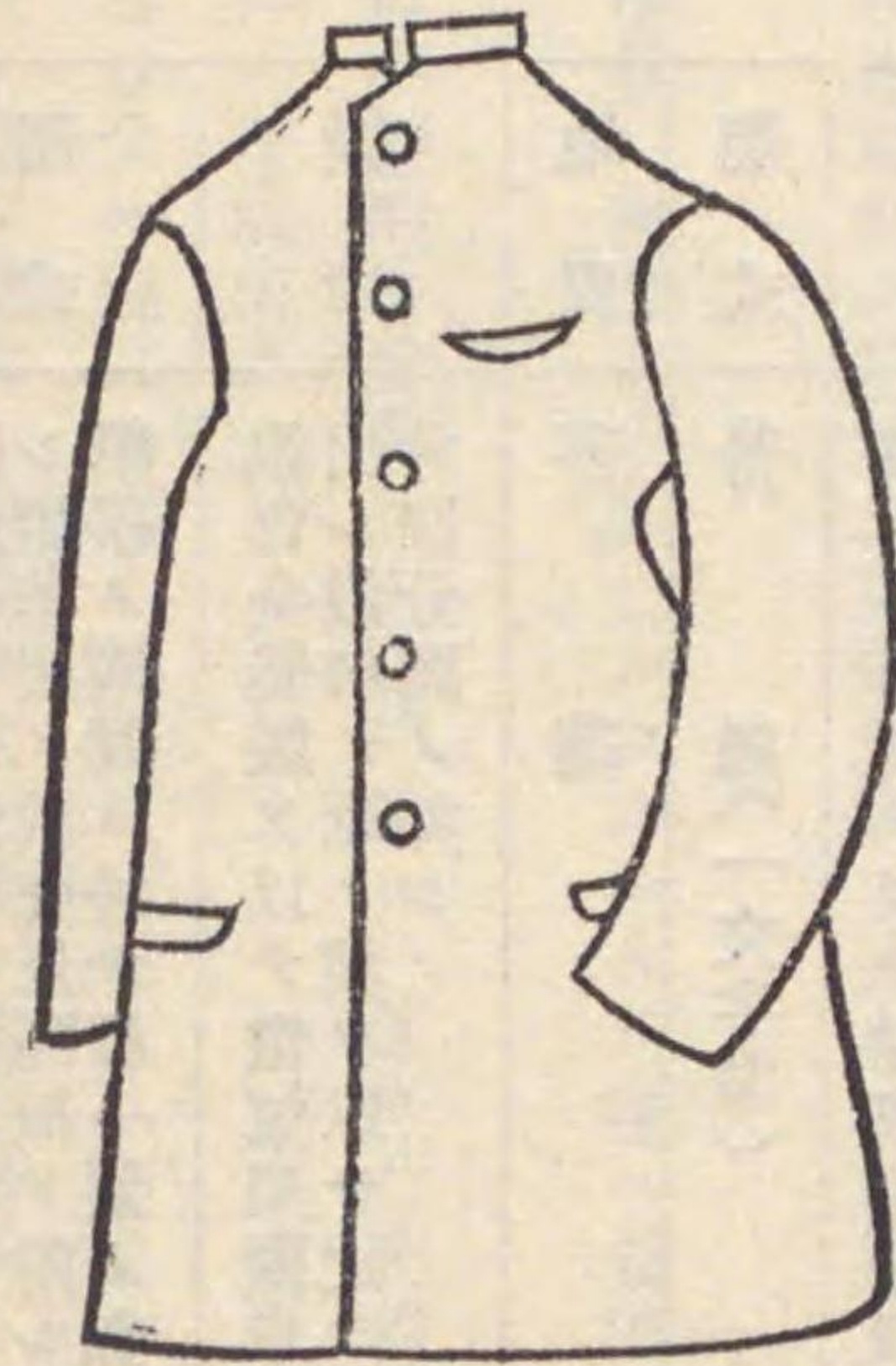
子帽冬



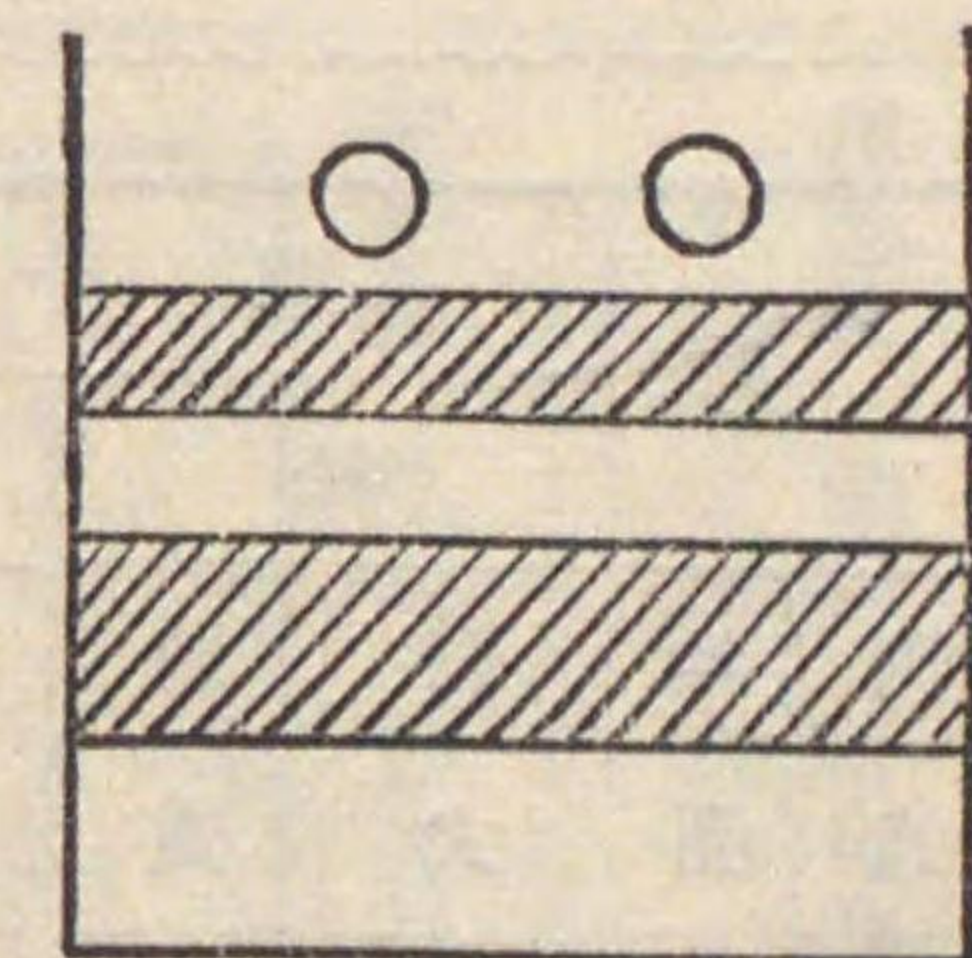
章徽



上衣

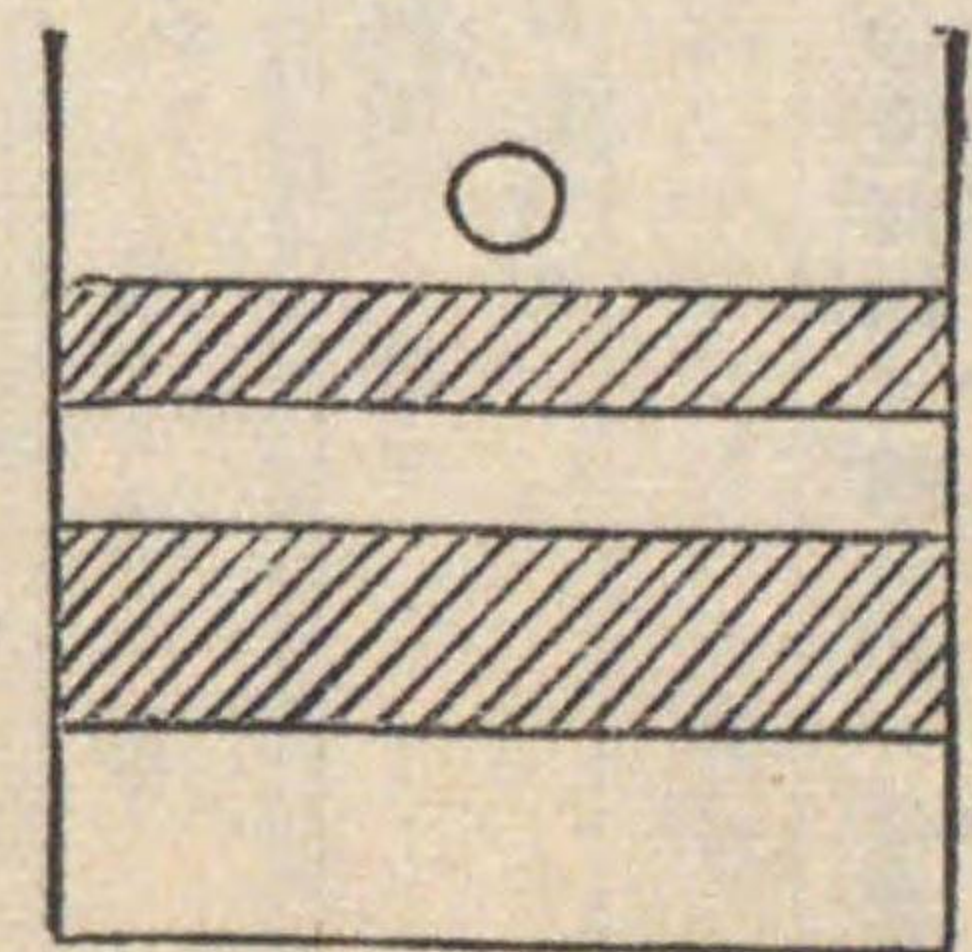


袴



五分  
一寸 袖章

班長



五分  
一寸

普通



### ●運輸現業員、運輸從業員被服規程

制定 大 四、一二、二七 應達 一四  
最近改正 昭一〇、七 應達 二八九

本市電氣鐵道運輸現業員被服規程左ノ通相定ム

電氣局運輸現業員、運輸從業員被服規程

第一條 電氣局運輸現業員、運輸從業員ハ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス

別表第一號ニ依ルモノ

別表第二號ニ依ルモノ

別表第三號ニ依ルモノ

別表第四號ニ依ルモノ

別表第五號ニ依ルモノ

別表第六號ニ依ルモノ

別表第七號ニ依ルモノ

別表第八號ニ依ルモノ

別表第九號ニ依ルモノ

別表第十號ニ依ルモノ

業自動車運轉手、應急車運轉手、轉轍手、信號人、換轍手、合圖手、自動車信號手、高速信號手、雜役夫、雜役手、驛手

別表第十一號ニ依ルモノ  
第一條ノ二 被服ノ著用期間ヲ定ムルコト左ノ如シ  
夏服 自六月一日至九月三十日  
冬服 自十月一日至翌年五月三十一日

第二條 被服ハ之ヲ貸與シ保存期間滿了シタルトキハ夏服及別表第八號ニ依ルモノノ冬服ハ之ヲ返納セシメ其ノ他ハ之ヲ給與ス但シ帽子徽章、襟章及釦ハ此ノ限ニ在ラス  
解職、退職、轉職若ハ死亡シタルトキハ速ニ貸與品ノ全部ヲ返納セシム  
保存期間ハ被服貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル

第三條 被服ハ隨時點檢ヲ爲スモノトス

第三條ノ二 保存期間中被服ノ全部又ハ一部ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

第四條 故意又ハ過失ニ因リ被服ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ調製ノ原價ニ依リ保存期間ノ殘餘月數ニ應シ其ノ價格ヲ賠償セシム

第四條ノ二 保存期間滿了セサル返納被服ハ再度之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第五條 被服ノ貸與數量及其ノ保存期間ハ左表ノ通トス但シ再度貸與

品ノ保存期間ハ前保存期間ノ殘期間トス

品名	種別		第一號		第二號		第三號		第四號		第五號		第六號		第七號		第八號		第九號		第十號		第十一號	
	貸與數量及保存期間	種別	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間	數量	保存期間
帽子			二年一箇同	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
略帽									三年一箇同	三年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
冬服			二年一著同	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
夏服			二年一著同	二年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
外套			三年一著同	三年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上











ターエス		靴	靴	羽合雨		子帽雨			衣
制式	地質		制式	制式	地質	徽章	制式	地質	制式
			ノス短靴其通						
			同上						
			同上						
			同上						色形「マント」無地ハ黒
			同上						同上
			同上						
			同上						
			同上						
ツスポ形	純白毛糸色	女子用	クス短靴						
			ノス短靴其通						
			同上	シニシ裾テ折	布黒色防水	徑ヲ氣製金	トヘルメツ	布黒色防水	
			同上	シシシテ後襟ニシ		六打局ニテ電			色形「マント」無地ハ黒

〔大電〕

雨	套			服					
	鈕	制式	地質	制式	地質	袖章	鈕	襟章	制式
	付宛行シ冬	通其裾テ折	シ冬	シ冬	シ上	シ冬	シ冬	シ冬	シ冬
	宛ニ胸服ニ	ノヲ後襟ニ	冬	冬	上	冬	冬	冬	冬
	頭五部ニ	他割面ニ	同	同	同	同	同	同	同
	巾個二	普ルノシ	同	同	同	同	同	同	同
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
色紺又ハ黒	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
			スカート	地焦茶セル					附鈕ウラステ
	付宛行シ冬	ノヲテ折	シ冬	シ冬	シ上	シ冬	シ冬	シ冬	折
	巾個二	他割面ニ	冬	冬	上	冬	冬	冬	襟
	同上	普ルノシ	同	同	同	同	同	同	シ冬
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	冬
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	服
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	ニ
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同
色紺又ハ黒	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	上

〔大電〕



●現業員及從業員被服規程

制 定 大二三、六、一〇告示一一  
最近改正 昭一一、四、 告示二八五

電氣局現業員被服規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
電氣局現業員及從業員被服規程

**第一條** 本市電氣局技術職員、技術從業員、傭員、檢札員、出札手及調札員ハ左ノ種別ニ依リ別表ノ服裝ヲ爲スモノトス但シ電氣局長必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ變更スルコトアルヘシ  
勞働課使丁ハ本局直屬使丁ノ被服ニ準スルモノトス

別表第一號ニ依ルヘキモノ  
技術職員、工長及組長但シ電氣課發電係、配電係變電所、建設係及臨時安治川發電所建設事務所勤務者ニ在リテハ帽子及襟章ヲ除クノ外別表第五號ニ依ルモノトス

別表第二號ニ依ルヘキモノ  
倉庫手、縫工、倉庫助手、縫工手、庶務課所屬ノ雜役及雜工手、電氣課試驗係及電燈部所屬ノ電工及電工手、電燈部内線課研究係所屬ノ需要家ニ出入スル機工、塗工、機工手及塗工手

別表第三號ニ依ルヘキモノ  
石工、電路工、軌道工、測量工、建築工、雜役、石工手、電路工手、軌道工手、測量工手、建築工手、雜工手、主計部計理課營繕係、運輸部工務課改良係及保線係所屬ノ木工及木工手

貨物自動車運轉手、運搬自動車運轉手、需要家ニ出入スル電工及電工手（電氣課試驗係所屬ノ絕緣試驗ニ從事スル者、主計部用品課配給係、電燈部内線課及電燈營業所所屬ノ内勤ノ者及調査、檢査又ハ計量器ノ取付若ハ取除ニ從事スル外勤ノ者、電燈部料金課計量係及電燈營業所出張所勤務者）

別表第五號ニ依ルヘキモノ  
機關工、汽罐工、印刷工、機關工手、汽罐工手、印刷工手、前各號ニ依ルヘキモノ以外ノ電工、機工、塗工、木工、雜工、電工手、機工手、塗工手、木工手及雜工手

別表第六號ニ依ルヘキモノ  
檢札員、出札手、調札員、女子タル印刷工、縫工、電工、雜工、印刷工手、縫工手及雜工手

**第二條** 被服ノ著用期間ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ被服ニ夏冬ノ區別ナキモノハ此ノ限ニ在ラス  
夏 服 自六月一日至九月三十日  
冬 服 自十月一日至翌年五月三十一日

**第三條** 被服ハ之ヲ貸與シ其ノ保存期間滿了シタルトキハ徽章ヲ除クノ外速ニ之ヲ返納セシム但シ別表第一號及第四號ニ依ルヘキモノノ冬服ハ卸ヲ除キ之ヲ給與ス  
前項ノ保存期間ノ計算ハ被服貸與ノ月ヨリ起算シ滿期ノ月ノ末日ニ終ル

**第四條** 被服ハ解備、退職、轉職又ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ返納セシム  
〔大電〕

**第五條** 保存期間中被服ノ全部又ハ一部ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ

**第六條** 故意又ハ過失ニ因リ被服ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ調製ノ

原價ニ依リ保存期間ノ殘餘月數ニ應シ其ノ價額ヲ賠償セシム  
**第七條** 貸與品ノ再度若ハ取換ハ新調品又ハ返納品ヲ以テス  
**第八條** 被服ノ貸與數量及保存期間左ノ如シ

品名	區別					
	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
冬 帽子	數量 一個	數量 一個	數量 一個	數量 一個	數量 一個	數量 一個
冬 服	數量 二ヶ年	數量 一ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
夏 服	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
外 套	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
雨 衣	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
作 業 服	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
カ バ ー	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上
グ ー ト ル	數量 二ヶ年	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上	數量 同上

備考 一 第一號、第二號及第三號該當者ニシテ内勤ノ者ニ對シテハ夏帽子ヲ貸與セス  
二 第一號、第三號、第四號及第五號該當者ニシテ内勤ノ者ニ對シテハ雨衣ヲ貸與セス  
三 第五號該當者ニシテ主計部計理課營繕係、運輸部工務課改良係及保線係所屬ノ機工以外ノ者ニ對シテハ外套ヲ貸與セス



四 第一號及第三號該當者ニシテ主計部計理課管轄係、運輸部工務課、電燈部外線課所屬ノ者及第一號、第三號、第五號該當者ニシテ臨時高速鐵道建設部所屬ノ者以外ニハゲートルヲ貸與セス  
 五 第五號該當者ニシテ電氣課發電係、配電係、建設係及臨時安治川發電所建設事務所所屬ノ者ニ貸與スル作業服ノ保存期間ハ二年トス

別表

冬	子 帽 夏		子 帽 冬		品名	區別
	制式	地質	制式	地質		
詰襟型背廣圖ノ如シ	黒又ハ濃紺羅紗	黒色ヲ以テ電氣局徽	普通型	麥	銀色金製ヲ以テ電氣局徽(徑八分)ヲ打出シ銀ノ草ノ葉ノ徑一寸三分	第一號
同	黒色小倉地	同	同	同	銀絲ヲ以テ電氣局徽ヲ顯	第二號
同	同	同	同	同	同	第三號
同	同	同	同	同	同	第四號
同	同	同	同	同	同	第五號
同	同	同	同	同	同	第六號

〔大電〕

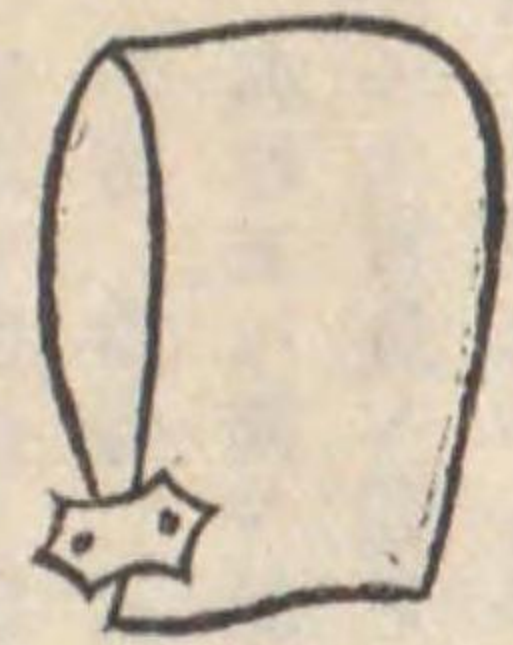
服	夏					服				
	袴	衣			上	袴	衣			上
地質	袖章	釦	襟章	制式	地質	制式	地質	袖章	釦	襟章
上衣ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	冬服ニ同シ	濃紺セル地	普通	上衣ニ同シ	黒線幅五分ノ毛線ヲ付ス	左右ノ袖ニ各二個ノ釦ヲ付ス	金製銀釦五個及ノ
同	同	同	同	同	霜降小倉地	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	普通半袴	同	同	同	同
同	同	同	同	同	濃紺セル地	普通	同	同	同	同

〔大電〕

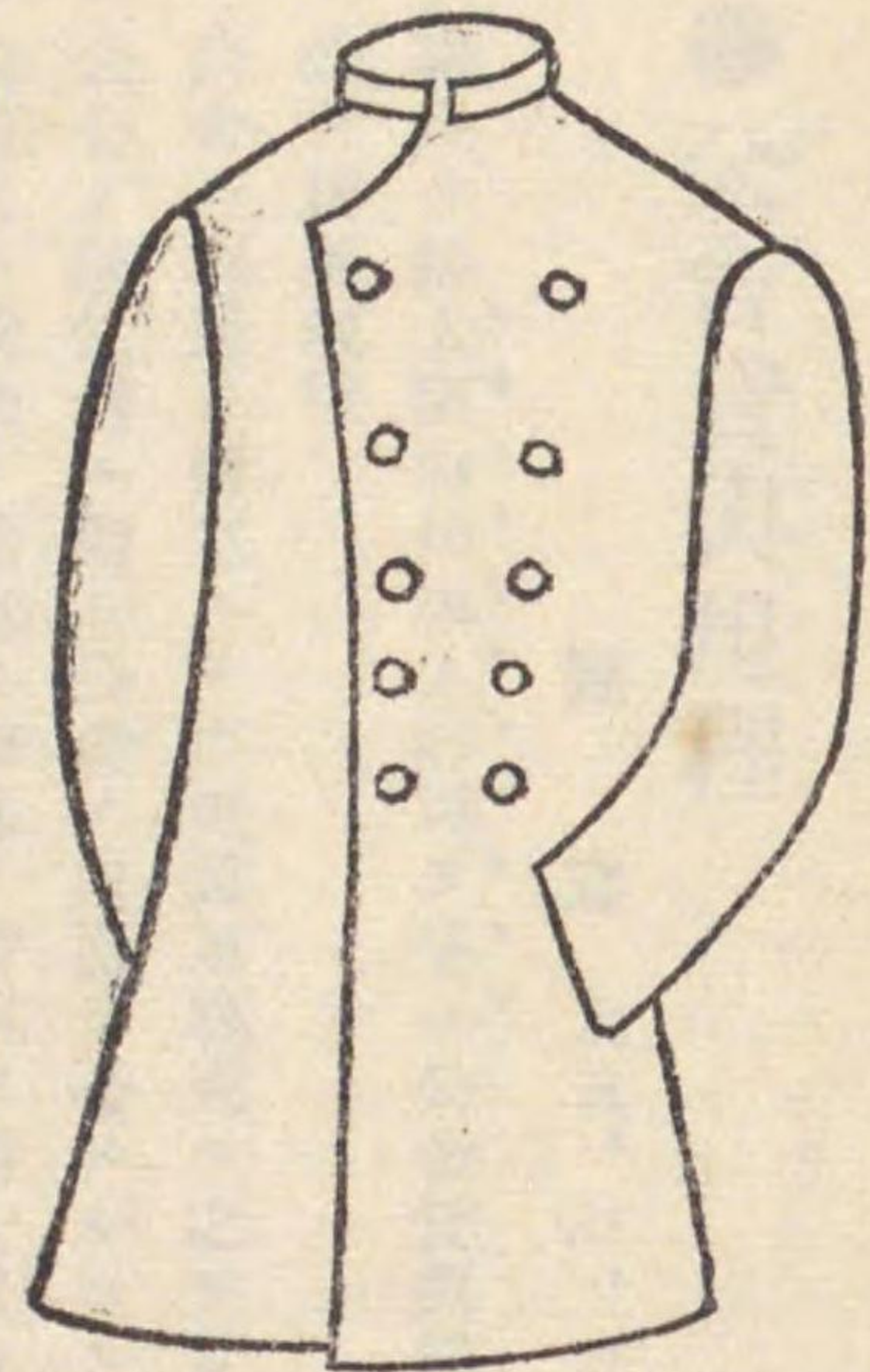
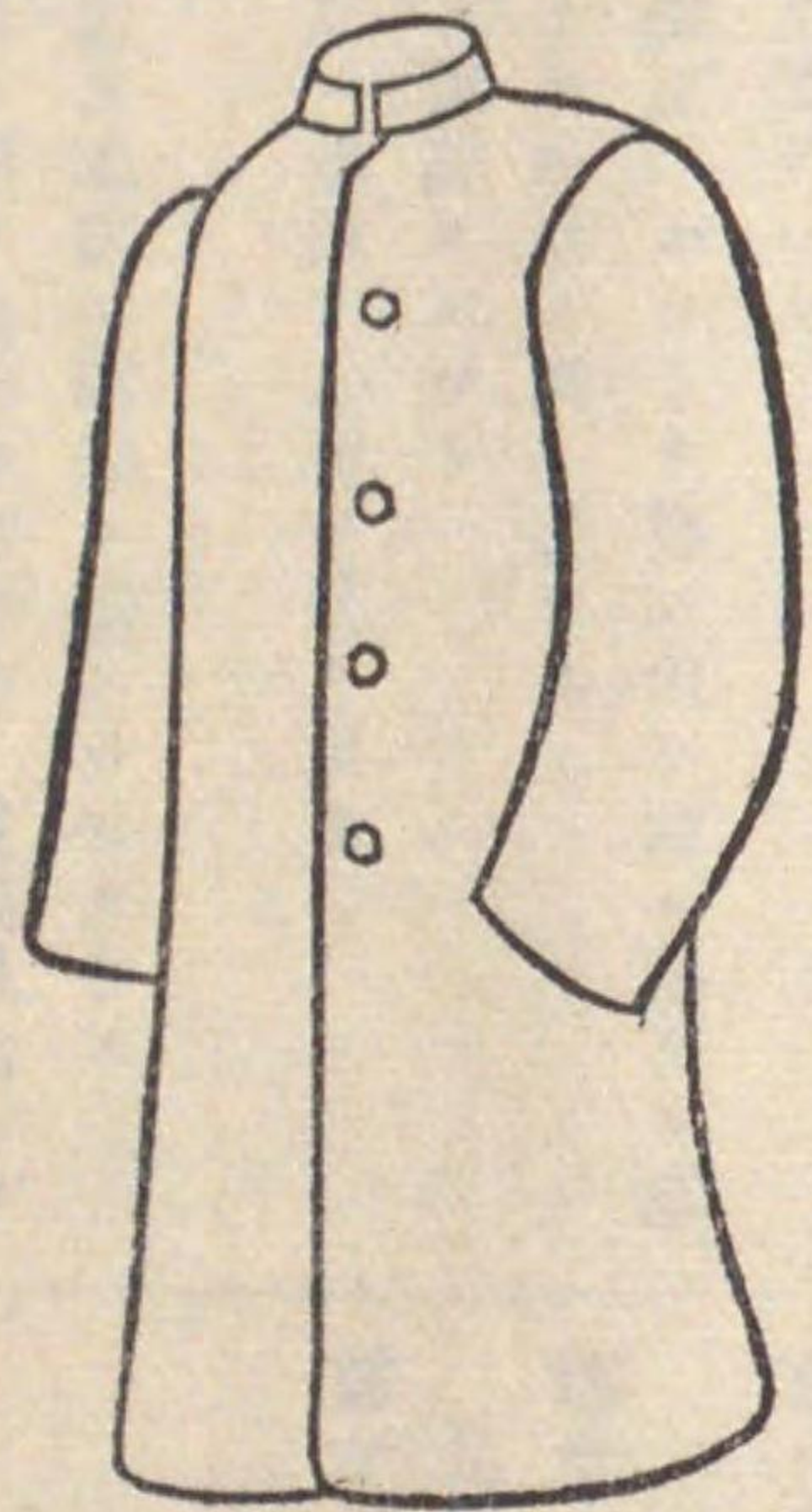




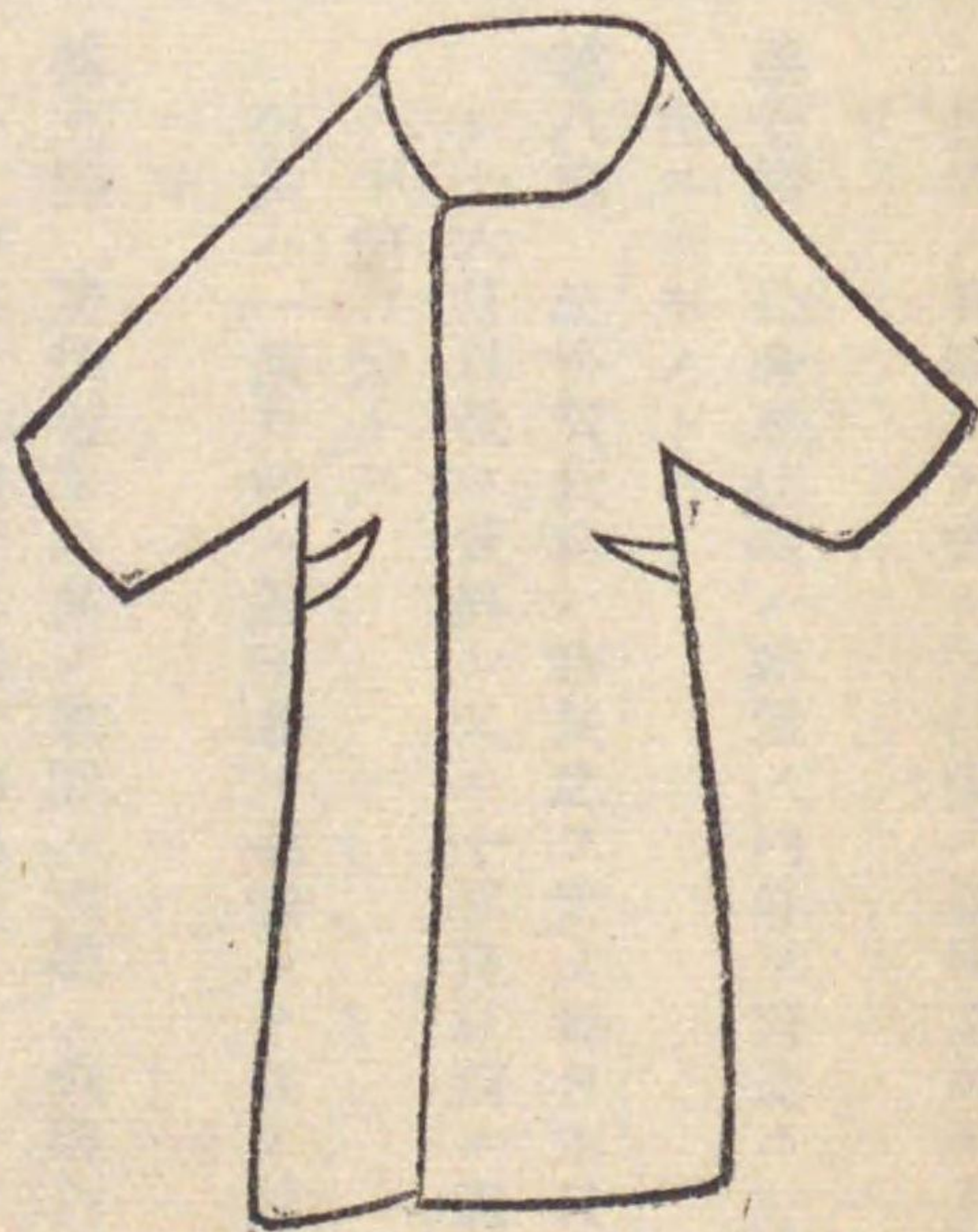




衣 雨



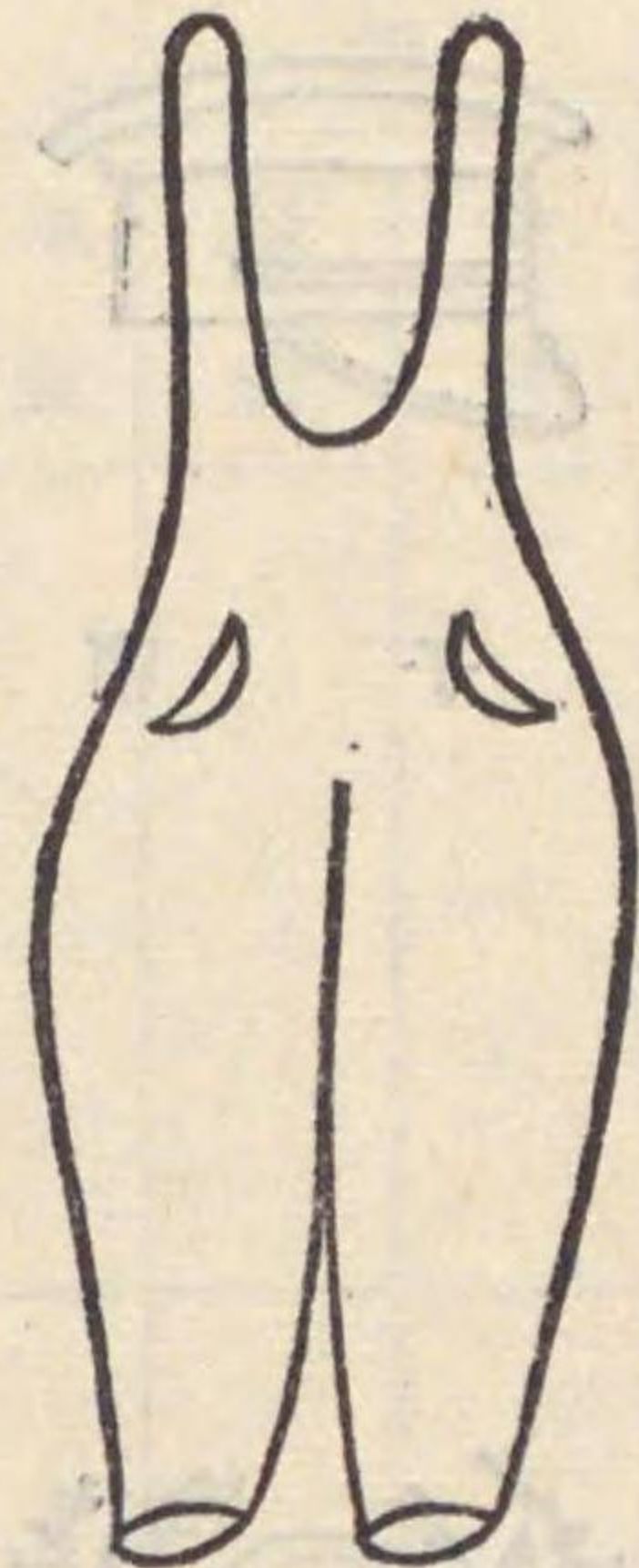
套 外



一 六 力



釘



袴號五第



袴號四、二、一第



巾 頭



袴號三第



# 第五章 公舍

## ●公舍貸與規程

制 定 大三、三、二七告示二五

本市會ノ議決ヲ經大阪府知事ノ許可ヲ受ケ公舍貸與規程左ノ通相定ム  
公舍貸與規程

第一條 公舍ハ市長ノ指定スル市吏員及職夫ニ之ヲ貸與ス  
市長ハ公舍ノ居住者ニ對シ公舍ノ返還ヲ命スルコトヲ得

第二條 吏員又ハ職夫ハ任意ニ前條ノ指定ヲ辭シ又ハ公舍ヲ返還スル  
コトヲ得但シ市長ニ於テ吏員職夫ノ職務上必要ト認ムルトキハ此ノ  
限ニ在ラス

第三條 公舍ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス家族雇人ノ外公舍ニ同居セシ  
メムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受ケヘシ

第四條 居住者ハ公舍ノ原形ヲ變更スルコトヲ得ス但シ左ニ掲グル事  
項ニシテ市長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 建物又ハ其ノ他ノ工作物ヲ假設スルコト
- 二 電燈、電鈴、瓦斯、電話又ハ水道ノ取付ヲ爲スコト
- 三 樹木ノ栽培ヲ爲スコト

前項ノ建設物ハ公舍返還ノ際之ヲ取除キ原形ニ復スルモノトス

第五條 自然ノ腐朽又ハ不可抗力ニ因リ公舍及附屬物ノ毀損滅失シタ  
ル場合ヲ除クノ外一切ノ修繕ハ居住者ノ負擔トス

第六條 電燈、瓦斯、水道、電話、衛生其ノ他居住ニ關スル費用ハ居

第四類 給與 第五章 公舍

住者ノ負擔トス但シ居住者ノ職務上必要ト認ムルモノハ此ノ限ニ在  
ラス

第七條 公舍居住者ハ家屋ノ内外ヲ清潔ニシ建物及附屬物保存ノ責ニ  
任スルモノトス

第八條 公舍貸料ハ市長之ヲ定メ毎月末日迄ニ其ノ月分ヲ徵收ス但  
シ十六日以後ニ貸與シ又ハ十五日以前ニ返還シタル月ニ限り貸料  
ハ半箇月分トス  
市長ハ一箇月前ニ居住者ニ通告シテ其ノ貸料ヲ増加スルコトアル  
ヘシ

第九條 居住者又ハ其ノ家族ハ左記ノ期限内ニ公舍ヲ返還スヘシ

- 一 解職、退職、休職、轉職者 二十日
- 二 返還命令ヲ受ケタル者 三十日
- 三 死亡者 五十日

第十條 公舍又ハ其ノ附屬物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ何人ノ所爲  
タルヲ問ハス居住者ハ市長ノ定ムル損害額ヲ賠償スヘシ

第十一條 當該吏員ハ居住者又ハ家族ノ立會ヲ得テ臨時公舍ノ内外ヲ  
巡視スヘシ

第十二條 本規程ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●公舍貸與規程施行細則

制 定 大三、四、八廳達 八

最近改正 昭一、一、六 達一三六

公舍貸與規程施行細則左ノ通相定ム

五四三



〔大電〕